

平成 25 年度

JOCスポーツ環境専門部会 活動報告書

JOC SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION REPORT 2013



JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION

公益財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門部会

平成25年度
JOCスポーツ環境専門部会
活動報告書

JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE



公益財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門部会

スポーツと環境についての啓発活動

Japanese Olympic Committee

環境基本理念

公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)は、オリンピック・ムーブメントを通じ、世界平和運動とスポーツ振興に寄与する目的に基づき、JOC事務所の環境への取り組みを実践し、環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことにより地球環境の保全に貢献する。

行動指針

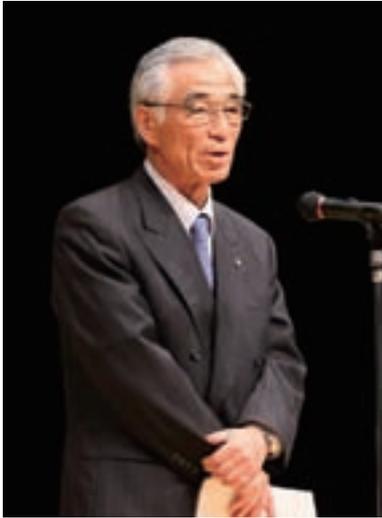
1. JOC事務所において、電力の節減、紙の有効利用などの省資源及び資源リサイクルを推進する。
2. 新たに物品を調達するにあたってはグリーン購入を優先する。
3. 環境に関する法的要求事項及び、その他の要求事項を遵守する。
4. 環境の教育啓発活動の推進によって、全ての職員が環境方針を理解し、その実現に努めるとともに、環境方針を外部にも公表する。

公益財団法人日本オリンピック委員会

会長 竹田 恆和

●第9回JOCスポーツと環境・地域セミナー(熊本市: JOCパートナー都市)

会期: 2013年10月31日(木) / 会場: くまもと森都心プラザ / 参加人数: 約280名



青木剛 JOC副会長兼専務理事



幸山政史 熊本市長



大塚眞一郎 JOC理事 / スポーツ環境専門部会部会長



左から熊倉基之 環境省知己環境局地球温暖化対策課市場メカニズム室長、大林素子氏、宮下純一氏、鈴木絵美子氏



永田努 熊本市環境局水保全課 課長補佐



松山周平 (株)アスリートクラブ熊本 強化本部普及ダイレクター



会場風景



前列左から大塚眞一郎部会長、青木剛副会長、熊倉基之氏
後列左から永田努氏、宮下純一氏、大林素子氏、鈴木絵美子氏、松山周平氏

●第10回スポーツと環境担当者会議

会期：2014年3月19日(水)／会場：味の素ナショナルトレーニングセンター／参加人数：70名



大塚眞一郎 JOC理事／JOCスポーツ環境専門部会長



水野正人 JOC名誉委員／IOCスポーツと環境委員



風間明 JOCスポーツ環境専門部会員／(公財)日本陸上競技連盟事務局長



鎌賀秀夫 JOCスポーツ環境専門部会員／(公財)日本レスリング協会評議員



参加者からの質問



会場風景

●オリンピックコンサート2013

会期：2013年6月23日(日)／会場：東京都・東京国際フォーラム ホールA



●2012年7月11日付でISO14001の認証登録を更新(3度目)
ISO(International Organization for Standardization)14001



認証登録証を持った竹田恆和JOC会長



ロビーに環境ポスターを掲示

●オリンピック親子チャレンジ

会期：2013年9月22日(日)
会場：茨城県・筑波山
参加人数：20組51名



イベントでは、荻原健司JOCスポーツ環境アンバサダーによる環境に関する講話も行われた

(公財)日本陸上競技連盟

Japan Association of Athletics Federation

●キッズアスリート・プロジェクト 隠岐会場

会期：2013年11月1日(金)

会場：島根県・隠岐の島町立西郷小学校



左から飯塚翔太選手、菅井洋平選手、中村明彦選手、畑瀬聡選手

●キッズアスリート・プロジェクト 長野会場

会期：2013年11月8日(金)

会場：長野県・茅野市立玉川小学校



左から土屋光選手、村上幸史選手、八幡賢司選手

●キッズアスリート・プロジェクト 宮崎会場

会期：2013年11月29日(金)

会場：宮崎県・都城市立祝吉小学校



左から久保田聡選手、海老原有希選手



中央最後列から、野元秀樹選手、久保田聡選手

●キッズアスリート・プロジェクト 茨城会場

会期：2013年10月25日(金) / 会場：茨城県・水戸市立吉沢小学校



最後列左から石塚祐輔選手、大室秀樹選手、戸邊直人選手、村上幸史選手

(公財)日本水泳連盟

Japan Swimming Federation

●第5回エココンテスト表彰式(スイムエコTシャツデザインコンテスト)

会期：2013年5月24日(金)／会場：神奈川県・さがみはらグリーンプール



グランプリの表彰式は、JAPAN OPEN2013の開始式で行われた



左からグランプリ(会長賞)を受賞した新家仁美さん(スウィン越谷SS)と日本水泳連盟 佐野前会長



左から準グランプリ(日本SC協会 会長賞)を受賞した表原佐和さん(イトマンスイミングスクール堺校)と日本スイミングクラブ協会 奥村前会長



左から準グランプリ(日本マスターズ水泳協会 会長賞)を受賞した高松莞吹さん(シーバス・スポーツクラブ篠ノ井)と日本マスターズ水泳協会 長谷副会長

●第89回日本選手権(50m)兼世界選手権大会選考会

会期：2013年4月11日(木)～14日(日)
会場：新潟県・ダイエープロビスフェニックスプール



新潟県水泳連盟の競技役員のみなさんと環境横断幕を囲んでのフォトセッション

●ジャパンオープン2013(50m)

会期：2013年5月24日(金)～26日(日)
会場：神奈川県・さがみはらグリーンプール



神奈川県水泳連盟の競技役員の方々と環境横断幕を囲んでのフォトセッション

(公財)日本サッカー協会

Japan Football Association

●政府広報イベント「Fun to Share」への賛同

会期：2014年3月26日(水)

会場：皇居外苑 和田倉噴水公園内施設



新たな気候変動キャンペーンが開始

●ザスパクサツ群馬 スタジアム清掃活動

会場：群馬県・正田醤油スタジアム群馬



ホームゲーム開催日の朝に有志メンバーにて清掃活動を実施

●アルビレックス新潟

「ホームタウンオレンジプロジェクト」

会期：2013年5月19日(日)

会場：新潟県・新潟駅とスタジアムを結ぶ弁天線歩道



約110名のサポーター、ボランティア、クラブ・後援会スタッフが参加

●ジュビロ磐田「のびのび園庭グリーン事業」

会期：2013年6月8日(土)、15日(土)、22日(土)

会場：静岡県・袋井市内幼稚園



クラブマスコットのジュビロくん＆ジュビちゃんも園児たちと一緒に芝苗を植え付け

●清水エスパルス&しずおか校庭芝生化応援団

「芝生開き会」の様子

会期：2013年10月16日(水)

会場：静岡県・清水みらい保育園



地域関係者、選手、スタッフ、バルちゃん、多くの仲間と芝生化推進中

●栃木サッカークラブ 足尾緑化事業

会期：2013年11月4日(月・祝)

会場：栃木県・日光市足尾(旧足尾町)松木溪谷



本橋選手、勝又選手も植樹活動に参加

(公財)全日本スキー連盟

Ski Association of Japan

●2014FISフリースタイルワールドカップ 福島猪苗代大会

会期：2014年3月1日(土)、2日(日)
会場：福島県・リステルスキーファンタジア



外国人選手も含めた出場選手で地球温暖化ストップをアピールした

●「I LOVE SNOW」One's Handsキッズスノーフェスタ2013 in 福島

会期：2014年3月28日(木)
会場：福島県・裏磐梯猫魔スキー場



イベントに参加した東日本大震災で被災した小学生に笑顔が戻った

(公財)日本テニス協会

JAPAN TENNIS ASSOCIATION

●第31回全国小学生テニス選手権大会

会期：2013年7月28日(日)～30日(火)／会場：東京都・第一生命保険株式会社 相模園グラウンドテニスコート



ジュニア委員会と協同で大会プログラムの1ページに「ベイビーステップ」環境ポスターを掲載

●楽天ジャパンオープンテニス2013

会期：2013年9月30日(月)～10月6日(日)
会場：東京都・有明コロシアム 有明テニスの森公園



イベント広場にてスポーツと環境についてのトークショー開催

●ニック全日本テニス選手権88th

会期：2013年11月3日(日)～11月10日(日)
会場：東京都・有明コロシアム 有明テニスの森公園



(公財)日本バレーボール協会

Japan Volleyball Association

●平成25年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会 ファイナルラウンド

会期：2013年12月11日(水)～15日(日)／会場：東京都・東京体育館



社会貢献プロジェクト「バレーボールバンク」のブースを設置

●JOCジュニアオリンピックカップ第27回全国都道府県対抗中学バレーボール大会

会期：2013年12月25日(水)～28日(土)／会場：大阪府・大阪市中央体育館



使用したバレーボールを回収し、海外へ寄贈するリサイクル活動

●春の高校バレー第66回全日本バレーボール高等学校選手権大会

会期：2014年1月5日(日)～7日(火)、11日(土)～12日(日)／会場：東京都・東京体育館



2013年度は、1,419個のボールが集まった

(公財)日本体操協会

Japan Gymnastics Association

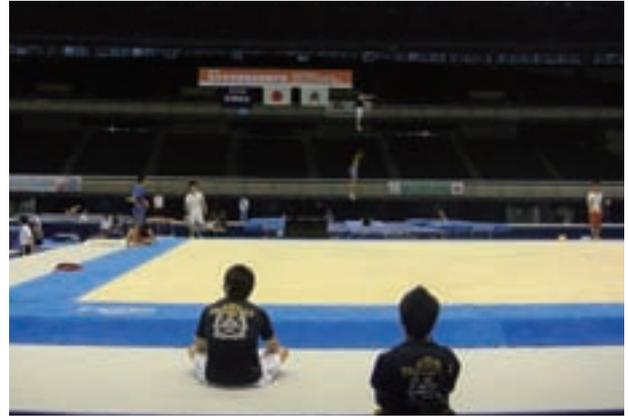
●第67回全日本体操個人総合選手権大会

会期：2013年5月11日(土)～12日(日)
会場：東京都・代々木第一体育館



●第29回世界トランポリン選手権大会最終選考会

会期：2013年6月29日(土)～30日(日)
会場：東京都・東京体育館



●2013全日本ジュニア体操競技選手権大会

会期：2013年8月12日(月)～17日(土)
会場：神奈川県・横浜文化体育館



●全日本社会人体操競技選手権大会

会期：2013年9月14日(土)～16日(月)
会場：三重県営サンアリーナ



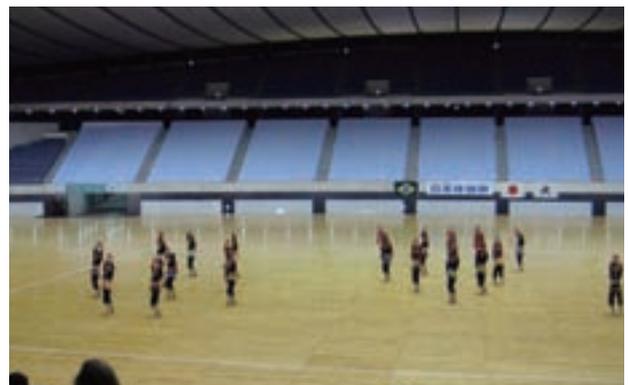
●第67回全日本体操競技団体選手権大会

会期：2013年11月2日(土)～3日(日)
会場：千葉県・幕張メッセ イベントホール



●2013日本体操祭

会期：2013年11月16日(土)～17日(日)
会場：東京都・代々木第一体育館



各全国大会の競技会場における「横断幕」設置は慣例化されている

(公財)日本バスケットボール協会

JAPAN BASKETBALL ASSOCIATION

●全国中学校バスケットボール大会

会期：2013年8月23日(金)～25日(日)／会場：静岡県・浜松市浜松アリーナ



静岡県浜松市で開催(右から二番目が星芳樹JBA専務理事)



会場内にて環境バナーとポスターを掲出
(男子は浜松学院・女子は愛知藤浪が優勝)

●女子日本代表第1次強化合宿

会期：2013年5月1日(水)～8日(水)

会場：東京都・味の素ナショナルトレーニングセンター



会場内にて環境バナーの掲出
(女子日本代表は43年ぶりにアジアNO1!)

●U-16男子日本代表第5次強化合宿

会期：2014年3月14日(金)～17日(月)

会場：東京都・味の素ナショナルトレーニングセンター



会場内にて環境バナーの掲出
(アジア3位で8月の世界選手権大会に出場)

●第89回天皇杯・第80回皇后杯

全日本総合バスケットボール選手権大会

会期：2014年1月1日(水・祝)～13日(月・祝)

会場：東京都・代々木第1・第2体育館ほか



大会公式プログラムに環境ページを掲載

●全国ミニバスケットボール大会

会期：2014年3月28日(金)～30日(日)

会場：東京都・代々木第1・第2体育館



会場内にて環境バナーの掲出
(その笑顔が2020年に繋がる)

(公財)日本スケート連盟

Japan Skating Federation

●ISU世界フィギュアスケート選手権大会2014

会期：2014年3月24日(月)～30日(日)
会場：埼玉県・さいたまスーパーアリーナ



●第23回全国有望新人発掘合宿

会期：2013年7月13日(土)～20日(土)
会場：長野県南牧村・帝産アイススケートトレーニングセンター



●ISUグランプリ NHK杯国際フィギュアスケート競技大会

会期：2013年11月8日(金)～10日(日)
会場：東京都・国立代々木競技場第一体育館



●JOCジュニアオリンピックカップ大会

第82回全日本フィギュアスケートジュニア選手権大会

会期：2013年11月22日(金)～24日(日)
会場：愛知県・日本ガイシアリーナ



●ソチオリンピックスピードスケート日本代表選手選考競技会

会期：2013年12月27日(金)～29日(日)
会場：長野県・長野市オリンピック記念アリーナ



●2014世界スプリントスピードスケート選手権大会

会期：2014年1月18日(土)～19日(日)
会場：長野県・長野市オリンピック記念アリーナ



(公財)日本アイスホッケー連盟

Japan Ice Hockey Federation

●第8回日光杯全日本女子中学・高校生アイスホッケー大会

会期：2013年12月21日(土)～23日(月)／会場：栃木県・県立日光霧降アイスアリーナ、日光市細尾ドームリンク



バナー掲示による啓発活動



地域ボランティアによるおもてなしエコ活動



再生容器使用状況

●平成25年度(公財)日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会「指導員」養成講習会専門科目

会期：2013年6月20日(木)～23日(日)／会場：岡山県・岡山国際スケートリンク



栄養学



メンタルトレーニング

(公財)日本レスリング協会

Japan Wrestling Federation

●第30回全国少年少女選手権大会

北海道レスリング協会創立60周年記念札幌大会

会期：2013年7月26日(金)～28日(日)

会場：北海道立総合体育センター

参加人数：160クラブ・1013名



開会宣言:北海道レスリング協会 平澤光志会長



ご来賓あいさつ:日本オリンピック委員会 橋本聖子理事



選手、審判、役員による集合写真

●第30回北日本少年少女レスリング選手権大会

会期：2013年4月27日(土)～28日(日)

会場：青森県・八戸市体育館

参加人数：37クラブ・409名



試合風景

●全国少年少女レスリング連盟 東日本ブロック審判講習会

会期：2013年6月2日(日)

会場：千葉県・松戸運動公園体育館

参加人数：28名



審判講習会参加者

●2014年シニア女子レスリングワールドカップ

会期：2014年3月15日(土)～16日(日)

会場：東京都・板橋区立小豆沢体育館

参加国：カナダ、中国、ハンガリー、モンゴル、ロシア、ウクライナ、米国、日本



競技の空き時間を利用したレスリング教室

(公財)日本セーリング連盟

JAPAN SAILING FEDERATION

●Enjoy Sailing博多

会期：2013年7月20日(土)／会場：福岡県・福岡市ヨットハーバー 小戸



博多での親子体験乗船会



子どもたちへの環境啓発活動

●環境コンテスト2013

会期：2013年7月～9月



告知パンフレット



環境コンテスト受賞作品
(アイドリグストップステッカー、Used Sailを活用したバッグ)

●第68回国民体育大会(セーリング競技)

会期：2013年9月29日(日)／会場：東京都・若洲海浜公園ヨット訓練所



国体会場にてトリプルエコバッグ作成教室を開催した



不要になったヨットの帆をリサイクル

(一社)日本ウエイトリフティング協会

Japan Weightlifting Association

●第68回国民体育大会(ウエイトリフティング競技会)

会期：2013年10月3日(木)～7日(月)／会場：東京都・くにたち市民総合体育館



105kg級優勝の白石宏明選手



団体優勝の沖縄県

●平成25年度全日本社会人ウエイトリフティング選手権大会

会期：2013年11月21日(木)～25日(火)／会場：長崎県・県立諫早農業高等学校体育館



最優秀選手賞の太田和臣選手



団体優勝の警視庁

(公財)日本自転車競技連盟

JAPAN CYCLING FEDERATION

●第82回全日本自転車競技選手権大会ロードレース

会期：2013年6月22日(土)～6月23日(日)

会場：大分県・県民の森平成森林公園周辺特設ロードレースコース



スタート/フィニッシュ付近へバナーの掲示

●第82回全日本自転車競技選手権大会トラックレース

会期：2013年7月27日(土)～7月28日(日)

会場：静岡県・伊豆ベロドローム



大会会場におけるバナーの掲示

(公財)日本ハンドボール協会

JAPAN HANDBALL ASSOCIATION

●第18回ジャパンオープンハンドボールトーナメント

(長崎がんばらば国体2014ハンドボール競技リハーサル大会)

会期：2013年8月11日(日)～14日(水)

会場：長崎県・佐世保市東部スポーツ広場体育館他



●第65回全日本総合ハンドボール選手権大会

会期：2013年12月24日(火)～28日(土)

会場：愛知県・愛知県体育館他



●第38回日本ハンドボールリーグプレーオフ

会期：2014年3月8日(土)、9日(日)／会場：東京都・駒沢体育館



左から、藤森徹常務理事、多田博副会長、安西孝之日本ゴルフ協会会長、令夫人、市原則之副会長、川上憲太専務理事

●第37回全国高等学校ハンドボール選抜大会

会期：2014年3月24日(月)～30日(日)

会場：愛知県・スカイホール豊田他



●プログラム掲載



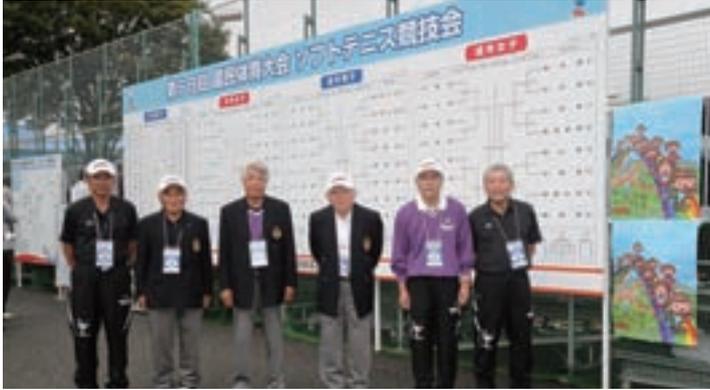
第3回全日本社会人ハンドボール選手権、第38回日本ハンドボールリーグ2013-2014オフィシャルプログラム、第65回全日本総合ハンドボール選手権大会、全日本社会人ハンドボールチャレンジ2014、第9回春の全国中学生ハンドボール選手権大会、第37回全国高等学校ハンドボール選抜大会

(公財)日本ソフトテニス連盟

Japan Soft Tennis Association

●第68回国民体育大会(ソフトテニス競技)

会期：2013年10月4日(金)～7日(月)／会場：東京都・世田谷区立総合運動公園／都立駒沢オリンピック公園テニスコート



環境ポスターを前に、左から(公財)日本ソフトテニス連盟の安藤正美理事、同 小原信幸副会長、同 西村信寛副会長、同 表孟宏会長、東京都ソフトテニス連盟の小林守正会長、(公財)日本ソフトテニス連盟の柳下秋久常務理事

●プログラム掲載



大会プログラムや連盟発行機関誌「ソフトテニス」に広告を掲載し、関係者に環境について啓発活動を実施

●平成25年度定時評議員会

会期：2013年6月16日(日)
会場：東京都・アワーズイン阪急



会場にポスターを掲出

●第6回東アジア競技大会 祝勝会

会期：2013年11月30日(土)
会場：東京都・アワーズイン阪急



来賓で出席した俳優の柳葉敏郎さんと日本代表選手団

●平成25年度全国小・中・高指導者研修会

会期：2014年1月18日(土)～19日(日)／会場：大阪府・大阪アカデミア



全国の小・中・高の指導者を前に挨拶をする(公財)日本ソフトテニス連盟 笠井達夫専務理事



小学生部会の発表

(公財)日本卓球協会

Japan Table Tennis Association

●平成25年度第1回理事会

会期：2013年6月3日(土)

会場：東京都・岸記念体育会館 会議室



環境ポスターを掲載し会議を進めた

●平成25年度 全国高等学校選抜大会

会期：2013年3月26日(水)～28日(金)

会場：滋賀県・県立体育館



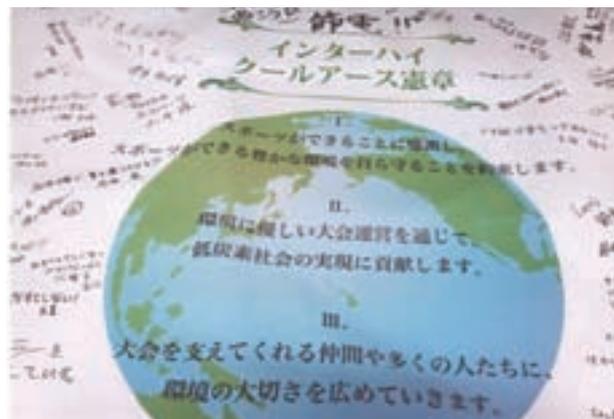
会場内にポスターを掲示

●平成25年度全国高校総体(卓球競技大会)

会期：2013年7月28日(日)～8月2日(金)／会場：福岡県・北九州市立総合体育館



環境省作成の地球温暖化について、ポスター掲示並びにスポーツマンができる豊かな環境を作るための啓発を促せる寄せ書き活動実施



●平成25年度全日本卓球選手権

会期：2014年1月14日(火)～19日(日)／会場：東京都・東京体育館



環境省及び博報堂の環境担当者の協力により、日本で最も権威のある大会の選手及び関係者広くに地球温暖化に影響するエネルギー削減のためのウォームピズの掲示を行う

(公財)日本相撲連盟

Japan Sumo Federation

●第68回国民体育大会(相撲競技会)

会期：2013年9月29日(日)～10月1日(火)／会場：東京都・大島高等学校体育館特設相撲場



競技会場受付に環境ポスターを掲示

●第62回全日本相撲選手権大会

会期：2013年12月8日(日)／会場：東京都・両国国技館



正面受付横に環境ポスターを掲示



ゴミの分別収集を励行



(公社)日本馬術連盟

Japan Equestrian Federation

●第34回全日本ジュニア総合馬術大会2013

会期：2013年7月19日(金)～21日(日)／会場：山梨県馬術競技場



競技会場にバナーを掲示



●機関誌「馬術情報」への環境ポスター掲載

●大会パンフレットへの環境ポスター掲載



全会員、一般購読者に配布

(公財)全日本柔道連盟

All Japan Judo Federation

●平成25年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会

会期：2013年11月9日(土)～10日(日)／会場：千葉ポートアリーナ



大会パンフレットに環境啓発ポスターを掲載

●平成25年度柔道フェスタ(九州ブロック)

会期：2013年10月14日(月・祝)／会場：福岡県・グローバルアリーナ



左から松本薫選手、田中美衣選手、長島啓太選手、七戸龍選手



受付に環境ポスターを掲出

●2013世界形柔道選手権大会

会期：2013年10月19日(土)～20日(日)

会場：京都市武道センター



各種大会でゴミの分別収集を励行

●(公財)全日本柔道連盟 事務局受付



(公財)日本ソフトボール協会

Japan Softball Association

●第2回東アジアカップ女子ソフトボール大会

会期：2013年7月4日(木)～7日(日)／会場：岐阜県揖斐川町 揖斐川健康広場ビッグランド



会場正面入口に設置した大会看板と環境ポスターと大会ポスター
(左から佐藤理恵大学代表チームコーチ、木田京子大学代表ヘッドコーチ、富田和弘揖斐川町副町長、笹田嘉雄専務理事、宇津木妙子常務理事、宗宮孝生揖斐川町長、高橋清生理事)



オリンピック復帰を訴えるブースでの環境啓発
(右奥 宇津木妙子常務理事、手前 岐阜経済大学の学生)

●第46回日本女子ソフトボールリーグ

会期：2013年4月20日(土)～11月10日(日)／会場：全国30会場



開幕節(ナゴヤドーム)でジュニアクリニックを実施した



ナゴヤドームのライト側フェンスに設置した環境標語バナー
(打者 中森菜摘選手 豊田自動織機)



決勝トーナメント会場・わかさスタジアム京都のレフト側フェンスに設置した環境標語バナー(走者 西山 麗選手 日立)

●(公財)日本ソフトボール協会 事務局



事務局でも紙の削減やゴミの分別廃棄、エアコンのこまめな温度調整、ファイルの再利用を心掛けている

(公財)日本バドミントン協会

Nippon Badminton Association

●第63回全日本実業団バドミントン選手権大会

会期：2013年7月3日(水)～7日(日)

会場：北海道・札幌キタエール／参加人数：1200名



左から栗原北海道会長、綿貫会長、秋草日本実連会長、一條北海道実連会長

●平成25年度全日本総合バドミントン選手権大会

会期：2013年12月2日(月)～8日(日)

会場：東京都・国立代々木競技場第二体育館／参加人数：450名



綿貫会長を中央に、女子ダブルス優勝の高橋礼華選手(左)・松友美佐紀選手ペアと今井専務理事

●ヨネックスジャパンオープン2013

会期：2013年9月17日(火)～22日(日)／会場：東京都・国立代々木競技場第一体育館



山口茜選手



左から単準優勝の打田しづか選手と単優勝の山口茜選手

●世界ジュニア2014

会期：2014年4月7日(月)～18日(金)／会場：マレーシア・アロールスター市



左から単優勝の山口茜選手と単3位の大堀彩選手



左から大堀彩選手、田児賢一選手、山口茜選手

(公社)日本ライフル射撃協会

National Rifle Association of Japan

●第68回国民体育大会(ライフル射撃競技)

会期：2013年10月4日(金)～10月7日(月)

会場：埼玉県・長瀬射撃場



競技会場(射撃場内)にポスター掲示。左から埼玉県ライフル射撃協会 武政 宏 会長、東京都ライフル射撃協会 高橋 眞 理事長、日本ライフル射撃協会 田村 恒彦 常務理事・国体委員長

●平成25年度審判講習会

会期：2014年2月23日(日)

会場：東京都・国立スポーツ科学センター 2階研修室A・B



講習会場内でのポスター掲示。日本ライフル射撃協会 松丸 喜一郎 専務理事 兼事務局長の挨拶



競技会場(射撃場内)に設置された分別ゴミ箱



講習会場内でのポスター掲示



競技会場(選手役員休憩所)に設置された分別ゴミ箱

●ライフル射撃情報誌への環境ポスターの掲載



(一財)全日本剣道連盟

All Japan Kendo Federation

●第61回全日本剣道選手権大会 決勝戦

会期：2013年11月3日(日)
会場：東京都・日本武道館



●平成25年度全日本少年少女武道(剣道)錬成大会

会期：2013年7月27日(土)～28日(日)
会場：東京都・日本武道館



●環境ポスターの掲示



北の丸事務所の入口

●リサイクルボックスの設置



北の丸事務所のリサイクルボックス

●中古剣道具の活用



武道具製造職人さんによる小手の補修作業



武道具製造職人さんによる面の補修作業

(公社)日本近代五種協会

Modern Pentathlon Association of Japan

●第1回近代3種日本選手権大会in千葉 兼 JOGジュニアオリンピックカップ

会期：2013年9月8日(日)／会場：千葉県・日本エアロビクスセンター



会場内にてゴミの分別を実施



大会参加者とスタッフの集合写真

●第6回近代3種大会in木曽

会期：2013年6月16日(日)／会場：長野県・フォレスパ木曽



環境ポスターの掲示



バナーの掲示

●第1回近代3種大会in有田

会期：2013年8月4日(日)／会場：和歌山県・竹田グラウンド



鉛弾・フロンガスを使わない、環境にやさしいエアースポーツガンを使用



参加選手、スタッフでBB弾を撤去

(公社)日本山岳協会

Japan Mountaineering Association

●ジュニア登山IN立山

会期：2013年8月11日(日)～14日(水)
会場：富山県・立山



●なすかし雪遊び隊

会期：2014年3月26日(水)～27日(木)
会場：福島県・甲子高原



●第37回自然保護委員総会

会期：2013年9月14日(土)～16日(月・祝)
会場：埼玉県・小川町



●第52回全日本登山体育大会

会期：2013年11月8日(金)～10日(日)
会場：茨城県・水戸市



●第16回JOCジュニアオリンピックカップ大会

会期：2013年8月10日(土)～12日(月)／会場：富山県・南砺市



(公社)日本カヌー連盟

Japan Canoe Federation

●2013年カヌースラロームジャパンカップ第5戦

2013年カヌーワイルドウォータージャパンカップ第4戦

会期：2013年7月21日(日)／会場：岐阜県・揖斐川特設カヌー競技場



大自然の中、ジュニア選手も多く参加した大会。環境委員会の活動を紹介し、最後に選手、監督、競技役員、地元のボランティアの方々みんなで集合写真

●JOCジュニアオリンピックカップ平成25年度全国中学生カヌー大会

B&G全国少年少女カヌー大会2013

会期：2013年7月26日(金)／会場：山梨県・精進湖カヌー競技場



世界文化遺産の富士山を正面に仰ぐ精進湖で、小学生、中学生チャンピオンを決める大会が合同開催されました。日本一の舞台で日本一を競います

●平成25年度あわらカップカヌーポロ大会

会期：2013年8月25日(日)／会場：福井県・北潟湖カヌーポロ競技場



地元の高校生チームの面々、未来の日本代表だ！



カヌーポロ競技会場ではすっかりお馴染み。毎年恒例、今年のポスター男は俺だ！

(公財)全日本空手道連盟

JAPAN KARATEDO FEDERATION

●日本空手道会館内の様子



事務室内に環境ポスターを掲示(左)し、ロビー、廊下の照明を消し、徹底した節電に努めた(右)

●掲示物による呼びかけ



環境ポスターを実行委員控室(左)と人が多く集まるトーナメント速報(右)に掲示した



呼びかけの効果がみられ、実行委員会では自発的に可燃・不燃の区分以外にも段ボールをまとめたり、紙類のゴミをまとめたりした(左)。日本空手道会館における講習会でもゴミの分別回収を呼び掛けている(右)

(公財)全日本ボウリング協会

JAPAN BOWLING CONGRESS

●JOCジュニアオリンピックカップ 第37回全日本高校ボウリング選手権大会

会期：2013年7月30日(火)～31日(水)／会場：東京都・品川プリンスホテルボウリングセンター



左から協会相澤隆也専務理事、女子優勝者・古田奏絵選手、男子優勝者・田中棕也選手



大会プログラムに啓発用広告を掲載

●平成25年度JBC公認第3種審判員認定会

会期：2013年4月20日(土)～21日(祝)／会場：東京都・田町ハイレーン



●平成25年度定時評議員会

会期：2013年6月14日(木)／会場：東京都・田町ハイレーン



(一財)全日本野球協会

Baseball Federation of Japan

●アオダモ植栽キャンペーン2013

会期：2013年7月20日(土)／会場：北海道・苫小牧国有林



北海道日本ハム・大野奨太選手が参加



植樹風景



幼い頃から環境の意識を高める



地元高校生の植樹風景



(公社)日本カーリング協会

JAPAN CURLING ASSOCIATION

●第31回全農日本カーリング選手権大会

会期：2014年3月2日(日)～9日(日)／会場：長野県・軽井沢アイスパーク



●全農カーリングソチオリンピック世界最終予選日本代表決定戦

会期：2013年9月11日(水)～17日(火)／会場：北海道・どろぎんカーリングスタジアム



長野県カーリングホール御代田で



北海道妹背牛町カーリング場でジュニア選手



(公社)日本トライアスロン連合

Japan Triathlon Union

●グリーントライアスロンin横浜

会期：2013年4月8日(土)／会場：神奈川県・山下公園



横浜市観光創造局による「貝」を使用した水質浄化デモンストレーション



山下公園の清掃(ゴミ拾い)の様子。一般参加者からも協力を得られた



山下公園前全面海域に生息する海の生物を紹介。タッチプールで生物とふれあう機会を設け、海の豊かさをアピールした



本企画の一環として、大会前の5月7日地元企業(ジョンソン株式会社)の協力を得て、山下公園の清掃を実施した

●グリーントライアスロンinお台場

会期：2013年10月12日(土)／会場：東京都・お台場海浜公園



選手・コーチ等関係者をはじめ、150名以上が参加した



選手自身が会場を清掃することで自然への意識向上につながった

(公社)日本スカッシュ協会

Japan Squash Association

●第42回全日本スカッシュ選手権大会

会期：2013年11月21日(木)～24日(日)／会場：岡山県・倉敷スポーツ公園 マスカットスタジアム



久々となる全日本大会の地方開催。今年のテーマはエコの全国展開。本戦出場選手の濱野昭彦選手



ロッカー室でもアピール

●第23回東京都スカッシュ選手権大会

会期：2014年4月19日(土)～20日(日)
会場：東京都・フィットネスクラブフォーラス



ごみの分別収集

●JOCジュニアオリンピックカップ

第18回全日本ジュニアスカッシュ選手権大会

会期：2014年3月28日(金)～30日(日)
会場：神奈川県横浜スカッシュスタジアムSQ-CUBE



学連の大会運営ボランティア。大会本部にエコポスターを掲出し、大学生へもエコ運動の協力を依頼

●第23回東京都スカッシュ選手権大会

会期：2014年4月19日(土)～20日(日)
会場：東京都・フィットネスクラブフォーラス



地方大会でもエコをアピール。全国へ広げましょう

●第7回静岡県スカッシュ選手権大会&オープンフレンドシップ大会

会期：2014年4月12日(土)～13日(日)
会場：静岡県・フィットネスプラザ スブラッシュ



(公社)日本ボディビル・フィットネス連盟

Japan Bodybuilding & Fitness Federation

●第17回日本クラス別ボディビル選手権大会

会期：2013年7月21日(日)

会場：北海道・ホテルロイトン札幌ロイトンホール



●2013年九州・沖縄・宮崎県ボディビル選手権大会

会期：2013年7月28日(日)

会場：宮崎県・都城市高崎福祉保健センター



●第11回中国四国ボディビル選手権大会

会期：2013年8月11日(日)／会場：鳥取県・米子コンベンションセンター



●第5回日本クラシックボディビル

第18回オールジャパンミスフィットネス

第7回オールジャパンミスボディフィットネス選手権大会

会期：2013年8月25日(日)

会場：大阪府・エルおおさか



●第47回日本社会人ボディビル選手権大会

会期：2013年9月1日(日)

会場：東京都・きゅりあん 大ホール



(公社)日本ダンススポーツ連盟

Japan Dance Sport Federation

●第17回神奈川県ダンススポーツ選手権

会期：2013年4月7日(日)

会場：神奈川県・県立体育センター体育館 スポーツアリーナ



●オールジャパンジュニアダンススポーツカップ2013inちば

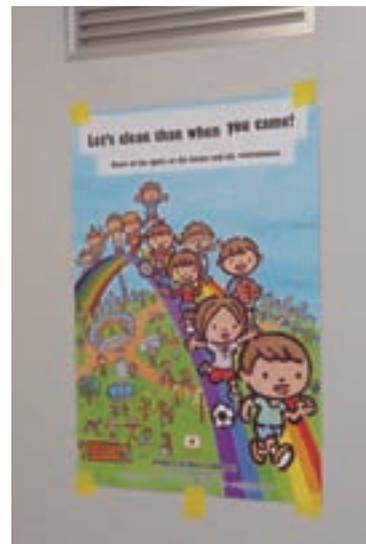
会期：2013年8月11日(日)

会場：千葉県・千葉ポートアリーナ



●第16回東京オープンダンススポーツ選手権

会期：2014年3月8日(土)、9日(日)／会場：東京都・東京体育館



東京オープン選手入場(左上)
会場内に掲示した横断幕(左下)と
外国選手控え室に掲示したポスター(上)



(一社)日本バイアスロン連盟

Japan Biathlon Federation

●第50回バイアスロン日本選手権大会

会期：2014年2月28日(金)～3月4日(火)／会場：札幌市豊平区西岡



大会実行委員会事務局にポスターを添付、事務局内でのゴミの分別を行っている



北海道バイアスロン連盟の大会庶務係の新井さん



会場周辺の競技開始前後の清掃作業。収集して分別している。北海道バイアスロン連盟の競技審判・庶務係の皆さん

(公社)日本ボート協会

Japan Rowing Association

●セーフティアドバイザー講習会

会期：2014年2月2日(日)・16日(日)／会場：埼玉県・戸田公園管理事務所2F会議室 福岡県・アジアインポートマート会議室



セーフティアドバイザー講習会の会場にポスターを掲示



講師は小沢哲史アドバイザー

●第91回全日本選手権大会

会期：2013年10月10日(木)～13日(日)

会場：埼玉県・戸田ボートコース



(公財)全日本弓道連盟

All Nippon Kyudo Federation

●名古屋国際弓道セミナー

会期：2014年2月3日(月)～6日(木)

会場：愛知県・日本ガイシスポーツセンター弓道場



大会開会式で環境に関するスピーチをする岡崎主任講師(講習会)

●平成25年度全日本弓道選手権大会

会期：2013年9月20日(金)～24日(火)

会場：三重県・神宮弓道場



競技会場での環境ポスター掲示

(公財)全日本軟式野球連盟

JAPAN RUBBER BASEBALL ASSOCIATION

●天皇賜杯第68回全日本軟式野球大会

会期：2013年9月13日(金)～18日(水)
会場：島根県・出雲ロイヤルホテル



監督会議の会場に環境啓発ポスターを掲示

●高松宮賜杯第57回全日本軟式野球大会1部

会期：2013年10月11日(金)～14日(月)
会場：大分県・別大興産スタジアム



環境バナーの掲出(優勝チーム 群馬県代表 関東西濃運輸)

●中古用具を海外へ寄贈



各支部から収集した中古の軟式ボール、用具など



日本から贈られた用具を手にするコロンビアの子どもたち

(公財)日本ラグビーフットボール協会

JAPAN RUGBY FOOTBALL UNION

●第56回網走市植樹祭「TRY for GREEN事業」トップリーグの森 植樹

会期：2013年5月19日(日)／会場：北海道・大曲湖畔園地オホーツクトップリーグの森



日本協会理事・事業委員長の稲垣よりご挨拶



水谷洋一網走市長(右)と

(公社)全日本銃剣道連盟

ALL JAPAN JUKENDO FEDERATION

●第44回全日本青年銃剣道大会

会期：2013年8月8日(木)／会場：東京都・日本武道館



大会会場にバナーを掲示



監督会議会場にポスターを掲示

●高松宮記念杯争奪第21回全日本銃剣道選手権大会

会期：2013年8月9日(金)／会場：東京都・日本武道館



大会会場にバナーを掲示



(公社)全日本テコンドー協会

All Japan Taekwondo Association

●JOCジュニアオリンピックカップ 第6回全日本ジュニアテコンドー選手権大会

会期：2013年7月28日(日)／会場：長野県・松本市総合体育館メインアリーナ



会場入口にポスターを掲出



自然光取り入れで省エネ配慮の会場

(一社)日本セパタクロー協会

JAPAN SEPAKTAKRAW FEDERATION

●第20回全日本セパタクローオープン選手権大会

会期：2013年6月8日(土)、9日(日)
会場：東京都・墨田区総合体育館



大会役員、選手、観客が協力し、選手のプレー環境の保全に努めている(写真は大会会場の墨田区総合体育館)

●第24回全日本セパタクロー選手権大会

会期：2013年12月21日(土)、22日(日)
会場：東京都・駒沢オリンピック公園総合運動場



全日本選手権大会では環境保全の取り組みとしてゴミの持ち帰りを推奨している(写真は女子優勝メンバー)

●第13回JOCカップ全日本Jr.セパタクロー選手権大会

会期：2013年1月25日(土)、26日(日)／会場：東京都・国立オリンピック記念青少年総合センター



写真左は男子の大会入賞レグ、右は女子の大会入賞レグ。大学生が中心となる全日本Jr.セパタクロー選手権では、特にゴミ対策を含め選手のみならず観客が心地よく観戦できる環境を作り出す努力を継続している

(特非)日本クリケット協会

Japan Cricket Association

●JOCジュニアオリンピックカップ 2013年日本19歳以下クリケット選手権

会期：2013年8月7日(水)～9日(金)／会場：静岡県・富士市富士川緑地北広場クリケット場



グラウンドにてポスターを掲示するとともにゴミの分別を徹底。またドリンクサーバーを使うことでゴミの少量化を図った

(一社)日本カバディ協会

JAPAN KABADDI ASSOCIATION

●第24回全日本カバディ選手権大会

会期：2013年12月7日(土)～12月8日(日)／会場：東京都・国立オリンピック記念青少年総合センター大体育室



左から井藤理事、河合常務理事、西郊専務理事、村川理事、酒井理事



女子優勝決定戦

●国際女子カバディ親善大会

会期：2013年10月5日(土)～10月6日(日)／会場：東京都・国立オリンピック記念青少年総合センター大体育室



タイvsチャイニーズタイペイ



韓国vsチャイニーズタイペイ

●第3回インドアカバディ選手権大会

会期：2013年5月11日(土)～5月12日(日)／会場：東京都・大正大学礼拝堂



男子試合

(公社)日本チアリーディング協会

Foundation of Japan Cheerleading Association

●JAPAN CUP 2013チアリーディング日本選手権大会

会期：2013年8月25日(日)

会場：東京都・国立代々木競技場 第一体育館



世界選手権大会出場日本チーム(女子、男女混成)

●サマーキャンプin東京

会期：2013年8月7日(水)

会場：東京都・国立オリンピック青少年総合センター



海外スタッフとともにトレーニング



小学校4年生以上部門優勝チーム

●大会プログラムへ掲載



JAPAN CUP 2013チアリーディング日本選手権大会



大学部門優勝チーム

●環境ポスターの掲示



事務所内

(公社)日本パワーリフティング協会

Japan Powerlifting Association

●第42回全日本パワーリフティング選手権大会

会期：2013年5月31日(金)～6月1日(土)

会場：兵庫県・神戸市中央体育館



全日本PL大会開会式



ゴミ分別収集



全日本PL大会表彰式

●第25回全日本ベンチプレス選手権大会

会期：2013年11月30日(土)～12月1日(日)

会場：栃木県・宇都宮市コンセール大ホール



開会式・選手宣誓

●全日本障害者パワーリフティング選手権大会

会期：2013年12月8日(日)

会場：日本体育大学体育館



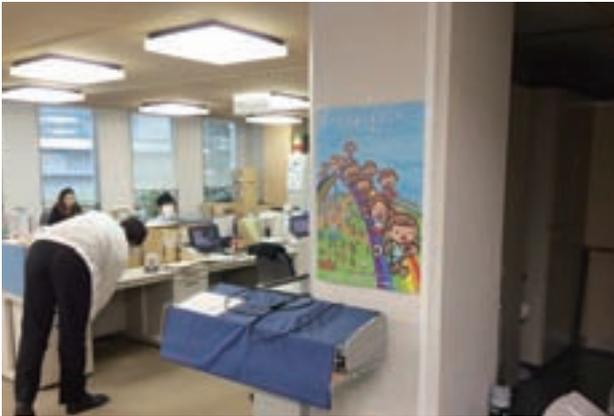
表彰式

(公財)日本体育協会

Japan Sports Association

●(公財)日本体育協会事務局

場所：岸記念体育会館2階



事務局内のコピー機周辺に掲出。日常排出されるゴミの抑制や紙の無駄をなくすよう啓発

●第36回全国スポーツ少年団剣道交流大会

会期：2014年3月28日(金)～3月30日(日)

会場：いしかわ総合スポーツセンター



会場入口に掲出。参加者及び来場者に対し、環境保全を喚起

●日本スポーツマスターズ2013

会期：2013年9月13日(金)～9月17日(火)

水泳競技／9月7日(土)～9月8日(日)

ゴルフ競技／9月11日(水)～9月13日(金)

会場：福岡県・北九州市



大会期間中の大会本部に掲出。排出されるゴミの分別を喚起

(特非)日本オリンピック・アカデミー

Japan Olympic Academy (JOA)

●JOAセミナー／真田 久

「嘉納治五郎と明治神宮外苑競技場」

会期：2013年5月26日(日)

会場：明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン



真田 久氏(筑波大学教授)

●JOAセミナー／舛本直文

「オリンピック・レガシーとYOG」

会期：2013年5月26日(日)

会場：明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン



舛本直文氏(首都大学東京教授)

●JOAレクチャー 018／山口 香

「福田敬子先生に学ぶ」

会期：2013年5月26日(日)

会場：明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン



山口 香氏(筑波大学准教授)

●JOA設立35周年記念第36回JOAセッション

「TOKYO 2020レガシー ケーベルタンの理想と国立競技場からの展望」/ シンポジウム「TOKYO 2020レガシー 国立競技場からの展望」

会期：2013年12月8日(日)

会場：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー



左からコーディネーター・後藤光将氏(明治大学准教授)、嵯峨 寿氏(筑波大学准教授)／シンポジスト・室伏広治氏(ミズノ、中京大学准教授)、南後由和氏(明治大学専任講師)、黒川光隆氏(日本スポーツ芸術協会理事長)

●オリンピック・レクチャー019／アントワン・ド・ナヴァセル氏

「ピエール・ド・クーベルタン生誕150年に寄せて」

会期：2013年12月8日(日)

会場：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー



アントワン・ド・ナヴァセル氏(国際ピエール・ド・クーベルタン委員会理事)

●第9回国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム報告

会期：2013年12月8日(日)

会場：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー



左から中塚義実氏(筑波大学付属高等学校教諭)、加納時定氏(筑波大学付属高等学校生徒)

平成25年度 JOCスポーツ環境専門部会活動報告書

JOC Sport and Environment Commission Report 2013

■写真によるスポーツ環境の啓発活動報告……………	2
Photographic Report of Activities on Sport and Environment	

本文目次

Contents

1.JOCスポーツ環境専門部会活動の意義について……………	51
Objective of the JOC Sport and Environment Commission	

2.第9回JOCスポーツと環境・地域セミナー 開催報告……………	52
Report of the 9th JOC Regional Seminar on Sport and Environment	

3.第10回スポーツと環境担当者会議 開催報告……………	56
Report of the 10th JOC National Sport Federations Conference on Sport and Environment	

4.スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について……………	59
Issues Regarding Awareness and Implementation Activities	

(1)各競技団体等の活動……………	60
Activities of the JOC affiliated NFs and organizations	

(2)JOCスポーツ環境専門部会員の活動……………	106
Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission	

(3)スポーツと環境に関するアンケート集計結果について……………	110
Results of the Questionnaire Regarding Environmental Activities of NFs	

(4)スポーツと環境についてのレクチャー原稿……………	113
Lecture draft on Sport and Environment	

5.IOCスポーツと環境委員会について……………	124
IOC Sport and Environment Commission	

6.東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた環境活動……………	125
Environmental Activity for TOKYO 2020 Olympic/Paralympic Games	

7.関連資料	127
--------	-----

References

(1)JOCスポーツ環境活動者一覧	127
Activities Person of Sport and Environment	
JOCスポーツ環境専門部会	127
Member of Sport and Environment Commission	
本会加盟団体スポーツ環境担当者一覧	128
National Federation	
(2)IOCスポーツと環境委員会	131
IOC Sport and Environment Commission	
(3)OCAスポーツと環境委員会	131
OCA Sport and Environment Commission	
(4)IOCスポーツ環境委員会小史	132
Brief History of the IOC Sport and Environment Commission	
(5)JOCスポーツ環境専門部会小史	133
Brief History of the JOC Sport and Environment Commission	
(6)オリンピックムーブメント アジェンダ21(要約)	134
Summary of the Olympic Movement's Agenda21	

1

JOCスポーツ環境専門部会活動の意義について

Objective of the JOC Sport and Environment Commission

平成25年度は、スポーツ界において2020東京オリンピック・パラリンピックの開催決定や、第22回オリンピック冬季競技大会(2014/ソチ)が開催され、国際オリンピック委員会の提唱するオリンピック・ムーブメントの柱の一つである「環境」について、改めて意識する年度となった。



その中でも10月に熊本市で開催した「JOCスポーツと環境・地域セミナー」において、2020東京オリンピック・パラリンピックではどのようにして環境問題に取り組むか、CO₂削減を行うか、という論議が行われた。3月のJOCスポーツと環境担当者会議においても、「6年後を見据えた持続可能な方法論」が提唱と議論され、日本スポーツ界が「スポーツと環境」の取り組みに関して前向きに真摯にそして次世代に継承できる素晴らしい環境作りを目指していることの手ごたえを感じた一年であった。

さらに我々が2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて世界のスポーツの仲間たちに約束した開催計画の中には、環境をテーマにした多くの事柄が記載され、実現を公約している。平成25年度はその実現のための「スタートイヤー」であったと確信している。

今後も日本スポーツ界は、2020年に照準を合わせ「スポーツ庁の設立」、「2020競技会場の建設」、「事前合宿の誘致」、「テストイベント(プレ大会)の開催」、「国際大会・国際会議の開催」、「文化・芸術関連事業の実施」など多くの新たな動きがスタートしていくが、その流れの中でJOC及び各競技団体(NF)が中核となって2020東京オリンピック・パラリンピック組織委員会と歩調を合わせながら、21世紀のスポーツ界発展の最大のテーマである「スポーツと環境: 持続可能な環境保全」の活動に誠心誠意、取り組んで行かなくてはなりません。

引き続き、気候の変化や自然界の激変する状況、温度湿度の問題、海河川の水質問題、空気汚染問題、ゴミ処理問題などによって、スポーツができなくなる環境が来ることが囁かれている中で、我々JOC及びNFができる現状の改善策を少しでも実践できる手助けになるよう取り組んでいきたいと思えます。

公益財団法人日本オリンピック委員会
スポーツ環境専門部会
部会長 大塚 眞一郎

2

第9回JOCスポーツと環境・地域セミナー 開催報告

Report of the 9th JOC Regional Seminar on Sport and Environment

■開催概要

1. 趣 旨：公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)は、平成13年度からスポーツ環境専門部会を設置し、環境に係わる啓発・実践活動を推進してまいりました。この度、その活動のひとつとして、第9回の環境地域セミナーをJOCパートナー都市の熊本市で開催します。このセミナーでは、熊本市を中心としたスポーツ関係者の皆様とともに、スポーツ界における地球環境保全の必要性について改めて考え、その活動をどのように実践に移していくか、スポーツ団体の具体的な実践例を交え一緒に学ぶことを目的に実施致します。
2. 主 催：公益財団法人 日本オリンピック委員会
3. 共 催：熊本市(JOCパートナー都市)
4. 後 援：文部科学省、環境省、公益財団法人 日本体育協会、
公益財団法人 熊本県体育協会、熊本市体育協会
5. 日 時：平成25年10月31日(木)13：30～16：30
6. 場 所：くまもと森都心プラザ プラザホール(熊本市西区春日1-14-1)
7. 参加者：JOC、熊本市、環境省、日本体育協会、熊本県体育協会、熊本市体育協会の関係者及び加盟団体、
スポーツ関係団体、JOCパートナー都市
8. プログラム：テーマ『スポーツと環境の関わり』
 - 13：30 開会
主催者挨拶
青木 剛 JOC副会長兼専務理事
幸山政史 熊本市長
 - 13：50 基調対談「アスリートから見た環境問題」
大林素子(JOCスポーツ環境アンバサダー)
宮下純一(JOCスポーツ環境アンバサダー)
鈴木絵美子 オリンピアン
熊倉基之 環境省地球環境局地球温暖化対策課市場メカニズム室長
コーディネーター：大塚真一郎 JOCスポーツ環境専門部会部会長／理事
 - 15：00 休憩
 - 15：15 プレゼンテーション「スポーツを通じた環境保全の啓発・実践活動」
「熊本市の活動について」
永田 努 熊本市環境局水保全課 課長補佐
 - 15：50 「ロアツ熊本の活動について」
松山周平 (株)アスリートクラブ熊本 強化本部 普及ダイレクター
 - 16：20 閉会の挨拶
大塚真一郎 JOCスポーツ環境専門部会部会長／理事
 - 16：30 閉会

以上

■セミナー概要

日本オリンピック委員会（JOC）は10月31日、JOCパートナー都市・熊本市のくまもと森都心プラザで「第9回JOCスポーツと環境・地域セミナー」を開催。このセミナーはスポーツ界における地球環境保全の必要性について考え、その活動をどのように実践に移していくかを学ぶことを目的に平成17年度からJOCパートナー都市で行われ、今年度は地元のスポーツ関係者ら約280名が参加した。

●開会挨拶

はじめに、JOCを代表して青木剛副会長兼専務理事があいさつに立ち、「昨今、ますます地球温暖化が加速し、スポーツ界、特に冬季競技の関係者にとって切実な問題となっています。国際オリンピック委員会（IOC）がオリンピック精神の柱に『環境』という概念を加えて来年で20年になりますが、スポーツができる環境をこれからも保つべく、一人一人が環境問題について考えていくことが大切です。今日がそのために有意義な時間になれば幸いです」と挨拶。

続いて熊本市の幸山政史市長が登壇。「熊本市は2006年に世界女性スポーツ会議が開催されたことをきっかけにJOCパートナー都市になり、2019年のハンドボール女子世界選手権の開催も決定しました」と熊本市とスポーツのつながりを紹介し、「本日は熊本市の財産であり、世界にも高く評価されている地下水資源に関する報告も行われます。このセミナーがスポーツを通じた環境保全活動のさらなる推進役となることを願います」と挨拶された。

●基調対談「アスリートから見た環境問題」

前半は「アスリートから見た環境問題」をテーマに基調対談が行われ、大塚眞一郎JOCスポーツ環境専門部会長をコーディネーターに、JOCスポーツ環境アンバサダーの大林素子さん（バレーボール）と宮下純一さん（競泳）、オリンピックの鈴木絵美子さん（シンクロナイズドスイミング）、環境省地球環境局地球温暖化対策課市場メ

カニズム室の熊倉基之室長が登壇。

まず、熊倉室長から環境省が普及に取り組む「カーボン・オフセット」について、カーボン・オフセットとは、事業活動や日常生活で排出される温室効果ガスについて削減努力を行った上で、どうしても削減できなかった温室効果ガス排出量を、他の場所で行われた温室効果ガスの排出削減・吸収量等（クレジット）でオフセット（埋め合わせ）し、自らの排出に責任を持つ取り組みと説明。事例として約1万人が参加した第1回熊本城マラソンや、2006年にドイツで行われたサッカーワールドカップ、2012年のロンドンオリンピック大会の事例や、買うだけでカーボン・オフセットに取り組める商品として熊本県小国町の麦焼酎などが紹介された。

これを受けて宮下さんは「子どもの頃は地球温暖化といえば、先の世代が抱える問題だと思っていましたが、すでに私たち世代の問題となっています。今回、カーボン・オフセットという具体的な手法を学ぶことができよかったです」と感想を述べ、「競泳ではプールの水温調整のために、多くの二酸化炭素CO₂を排出しています。このことを知ったのは現役を引退してからでしたが、これからは後輩選手にもこの事実と環境保全の大切さを伝えていきたいです」と、現役アスリートへの啓発活動が必要だという考えを示した。

鈴木さんは自らが出場した2008年北京オリンピック大会のエピソードにふれ、「北京大会は開幕前から大気汚染が問題になっていました。私はぜんそくの持病があったので、試合前に喉の治療をしなければいけませんでした」と実体験を

語り、「引退後はゴミを減らし、買い物をする際に環境に良い製品を選ぶことを心がけています」と、オリンピックに出場したことでより一層環境保全に対する意識が高まったことを語った。

大林さんは日本バレーボール協会が行っている「バレーボールバンク」という取り組みについて、「2009年に公式球が統一されたことをきっかけに、古いボールを集めて小銭入れやポシェットにリサイクルしたり、被災地に寄付する活動を行ったりしています。ただ、ボールの保管費や輸送費など多大なコストがかかり、事業拡大には多くの課題もあります。」と紹介。大塚部会長が「ボールバンク事業が確立されれば、バレーボールだけでなく、他競技の模範事業となりえる非常に素晴らしい取り組みです。是非環境省のご協力をお願いしたいですね。」と補足し、熊倉室長から「スポーツ界が率先して環境活動に取り組むことは、普及啓発という観点からも非常に影響が大きく、今後も様々なアイデアを頂きながら可能な限り協力していきたい」と答えた。

●プレゼンテーション「スポーツを通じた環境保全の啓発・実践活動」

「日本一の地下水都市・熊本」を守る活動

後半は、熊本市で行われている「スポーツを通じた環境保全の啓発・実践活動」を紹介。

まず、熊本市環境局水保全課の永田努課長補佐が登壇。水道水を100%地下水で賄っている都市では国内最大規模の熊本市で、昭和50年ごろから始まった地下水の保全運動を報告。

熊本市は、太古の時代から続いた阿蘇山の噴火によって厚く積もった火砕流堆積物の地層と、およそ400年前から整備された水田により豊富な地下水に恵まれているが、徐々に水量が減少したことをきっかけに、保全運動がスタート。主な活動として水量を維持するために節水を呼びかけ、転作水田に水を張るなどの取り組みが挙げられた。

そのほかにも、オフィシャルウォーター「熊本水物語」の販売や「水検定」「水遺産」といった啓発事業など、市を挙げて地下水を守ろうとしている活動が紹介された。

運営理念に基づき環境保全活動に取り組む

ロアツ熊本

続いて、サッカーJリーグ2部のロアツ熊本を運営するアスリートクラブ熊本の松山周平強化本部普及ダイレクターから、クラブで取り組んでいる環境活動を紹介。

最初に、クラブが掲げる3つの理念、「県民に元気を」「子ども達に夢を」「熊本に活力を」に触れ、この理念に基づいて環境保全活動にも取り組んでいることを説明。

ロアツでは、自家用車の利用者数が多い熊本市を中心に、クラブのロゴマークなどをペイントしたバスを走らせたり、熊本市電とコラボレーションして公共交通機関の利用を呼びかけたりすることで、CO₂の削減を目指している。

また、食用油を回収し、本拠地のナイター照明に活用するキャンペーンや、環境問題に対する意識付けを幼少期から行うべく、幼稚園・保育園に直接出向き、子どもたちと一緒に給食を食べながら、「食べ残しをやめよう」と教える活動などが報告された。

●閉会挨拶

最後に、大塚部会長は「オリンピックはメダル獲得、経済効果だけが目的ではありません。2020年東京オリンピック・パラリンピックを成功させるためには、チームジャパンで環境保全にも取り組む必要があります。本日まで参加いただいた皆さまにはオリンピック・ムーブメントの一環として、環境保全活動の先頭に立っていただき、熊本市もそのリーダー都市となることを願います」と述べてセミナーを締めくくった。

出席者一覧

所属/団体名	氏名
(公財) 日本オリンピック委員会	青木 剛
	大塚 眞一郎
	熊倉 基之
	石井 将之
	清水 智恵
	植松 克之
	大塚 慶二郎
	鎌賀 秀夫
	玉利 聡一
	幸山 政史
熊本市	田上 聖子
熊本市スポーツ推進委員協議会	田中 誠一
熊本県教育庁教育指導局保健体育課	中村 誠希
秋田県観光文化スポーツ部 スポーツ振興課	内布 志保美
	新号 和政
秋田市教育委員会スポーツ振興課	藤原 正人
(公財) 熊本県体育協会	松本 健司
	下舞 祐介
	山崎 苑華
	井 薫
熊本市体育協会	久我 正大
	西村 和幸
	田中 尚美
	岩崎 健一
熊本市スポーツ推進審議会	守 昌宏
(一社) 日本ウエイトリフティング協会	林 研一
(公財) 日本ソフトテニス連盟	黒江 浩二
(公社) 全日本テコンドー協会	小野寺 等
(公社) 日本ボート協会	中村 ゆり子
(公財) 全日本なぎなた連盟	竹崎 キミコ
熊本市バレーボール協会	上妻 弘
熊本市ボウリング協会	三宅 洋介
熊本市弓道連盟	原野 靖子
熊本市グラウンド・ゴルフ協会	原口 貞信
熊本県軟式野球連盟	本田 肇
熊本県セーリング連盟	多比良 景三
熊本県テニス協会	宮部 直
熊本県トライアスロン連合	富田 達朗
熊本県レスリング協会	大野 豊重
熊本県ソフトボール協会	矢野 文男
	緒方 國幸
	清原 誠喜
	津川 美清
熊本県卓球協会	北島 潤一
熊本県ハンドボール協会	岡崎 恭代
熊本県ラグビーフットボール協会	藤井 功
熊本県弓道連盟	荒木 英幸
熊本県ライフル射撃協会	小早川 央
熊本県スケート連盟	立山 秀樹
熊本県ゴルフ協会	緒方 正明
熊本県ダンス・スポーツ連盟	坂本 省一
熊本県武術太極拳連盟	岩元 克雄
	小崎 修一
熊本県中学校体育連盟	清水 宏一郎
花園校区体育協会	田尻 清輝
壺川校区体育協会	吉田 可照
川尻校区体育協会	高濱 享
	松本 末行
田迎校区体育協会	石原 輝捷
高橋校区体育協会	吉村 孝
城北校区体育協会	増田 寛治
託麻西校区体育協会	内山 富士登
麻生田校区体育協会	浅井 亀久代
楡木校区体育協会	南 洋一
長嶺校区体育協会	荒木 頼信
山東校区体育協会	鈴木 努
大和校区体育協会	川田 賢治
(財) 熊本市社会教育振興事業団	寺本 敬司
中央区スポーツ推進委員	本島 徹也
東区 スポーツ推進委員	山本 恵
	辻口 ふみ子
	桐生 ふさ

所属/団体名	氏名	
東区 スポーツ推進委員	米岡 康子	
	赤崎 由紀	
	高本 徹	
	笠 和子	
	森下 静穂	
	吉崎 昭久	
	米野 結貴	
	田島 妙子	
	上山 勝昭	
	森田 政司	
南区 スポーツ推進委員	島田 ゆき	
	石原 穂子	
	田中 誠一	
	井上 俊泰	
	田口 良二	
	中村 信	
	広瀬 正憲	
	後藤 佐和子	
	中村 典子	
	杉山 友宏	
西区 スポーツ推進委員	中村 典子	
	林田 育子	
	吉村 達巳	
	柞原 幸代	
	山下 日出男	
	林田 久美子	
	中山 実	
	高橋 三千代	
	益田 貴敏	
	福田 一彦	
北区 スポーツ推進委員	佐藤 耕一郎	
	川上 崇	
	山下 淳	
	丸山 春雄	
	松尾 歩	
	安藤 優子	
	中村 正信	
	袋田 清光	
	松本 博明	
	松岡 修	
財政課	中山 清志	
	松岡 世子	
	堀田 正幸	
	橋本 宏志	
	管財課	村上 悠
	車両管理課	松崎 太成
	税制課	田上 明日香
	中央税務課	米ヶ田 裕
	幸田保育園	花月 美香
	国保年金課	中田 美樹
障がい保険福祉課	津田 みどり	
障がい者福祉相談所	澤井 愛	
医療政策課	村上 裕司	
食肉衛生研究所	中尾 奨吾	
子ども支援課	八木 美子	
高齢介護福祉課	中村 洋介	
環境政策課	嶋村 裕介	
環境政策課温暖化対策室	芥川 正寿	
環境政策課温暖化対策室	伊藤 暢章	
環境政策課温暖化対策室	山口 崇	
緑保全課	益田 勝行	
水保全課	吉田 大祐	
水保全課	村川 由希	
水保全課	井上 聖子	
廃棄物計画課	坂田 文昭	
ごみ減量推進課	竹下 佑太	
浄化対策課	山内 勇	
浄化対策課	内尾 雅子	
環境総合センター	丸山 龍也	
東部クリーンセンター	吉村 栄治	
にぎわい推進室	藤田 裕一郎	
観光振興課	森崎 朋子	
西区総務企画課	橋本 文紀	

所属/団体名	氏名
西区まちづくり推進課	三原 麗
西区区民課	山代 眞也
西区福祉課	濱田 道志
西区保護課	西村 勇哉
西区農業振興課	水牧 一也
河内総合出張所	原口 健仁
中央区総務企画課	宮本 静雄
中央区総務企画課	吉田 裕香
中央区まちづくり推進課	倉永 浩樹
中央区まちづくり推進課	藤本 清
中央区区民課	村田 博治
中央区区民課	林 美早貴
中央区福祉課	道野 公德
中央区保護課	小川 和也
中央区保護課	白井 亨
中央区保健子ども課	志水 利江子
商工振興課	古里 厚美
区政推進課	野本 達雄
情報政策課	渡辺 博文
人事課	竹崎 玲子
教育委員会	山口 敬三
熊本城マラソン事務局	原口 誠二
熊本城マラソン事務局	古保里 隆
市民協働課	渡邊 浩二
市民協働課	松尾 拓実
区政推進課	隈元 喜栄
職員厚生課	関口 啓明
土木総務課	岩坂 隆幸
熊本城総合事務所	宮崎 友二
熊本城総合事務所	下川 啓子
熊本城総合事務所	渡 和夫
契約検査総室	平川 美咲
交通政策課	寺本 直暁
熊本駅西土地区画整理事務所	甲斐 敬二
鉄道高架関連整備室	渡邊 枢
広報課	黒木 慎也
熊本城マラソン事務局	鳥山 清二郎
熊本城マラソン事務局	桑原 瑛輔
熊本城マラソン事務局	勝保 敬史
熊本駅周辺整備事務所	寺崎 真治
熊本駅周辺整備事務所	本郷 秀樹
熊本駅周辺整備事務所	大田 泰裕
環境施設整備室	吉留 健士
統計課	宮崎 貴司
都心活性化推進課	大野 佑介
環境総合センター	藤森 利一
総務課	前田 浩之
産業政策課	吉本 忠史
熊本城マラソン事務局	田中 唯
熊本城マラソン事務局	井上 佳代
都市政策課	城本 大祐
(株) アスリートクラブ熊本	松山 周平
熊本市環境局 水保全課	永田 努
熊本市観光文化交流局 スポーツ振興課	村上 誠也
	加藤 正治
	渡辺 正博
	赤石 宗知
	西 真一郎
	廣崎 誠
	岩野 良彦
	奥田 洋
	古賀 義久
	内村 由佳
道家 梨花	
中川 敬介	
山田 浩平	
秋田県観光文化スポーツ部	新号 和政
秋田市教育委員会	藤原 正人
(公財) 日本オリンピック委員会 事務局	阿部 幹雄
	黒川 仁美
	尾畑 雄志

3

第10回スポーツと環境担当者会議 開催報告

Report of the 10th JOC National Sport Federations Conference on Sport and Environment

■開催概要

1. 趣 旨： スポーツと環境に関する啓発・実践活動の理解を深めると共に、環境保全について多くの関係者・関係団体との連携、活動の推進を図るために標記会議を開催する。
2. 主 催： 公益財団法人 日本オリンピック委員会(JOC)
3. 後 援： 文部科学省、公益財団法人 日本体育協会
4. 日 時： 平成26年3月19日(水) 15:00～17:15
5. 場 所： 味の素ナショナルトレーニングセンター 1階 大研修室
6. 出席者： 本会役員、本会スポーツ環境専門部会員、本会加盟団体環境担当者
7. プログラム： テーマ『スポーツ界における環境保全・啓発活動の促進に向けて』

15:00 開会挨拶

青木 剛 JOC副会長兼専務理事

15:15 『IOCスポーツ環境世界会議及びソチオリンピック冬季大会の環境の取り組み』

水野正人 IOCスポーツと環境委員／JOC名誉委員

16:00 休憩

16:10 『2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた環境啓発・実践活動の取り組み』

水野正人 IOCスポーツと環境委員／JOC名誉委員

風間 明 (公財)日本陸上競技連盟事務局長／JOCスポーツ環境専門部会員

鎌賀秀夫 (公財)日本レスリング協会評議員／JOCスポーツ環境専門部会員

コーディネーター：大塚眞一郎 JOCスポーツ環境専門部会長／JOC理事

【質疑応答】

17:00 閉会挨拶

大塚眞一郎 JOCスポーツ環境専門部会長／JOC理事

17:15 閉会

■会議概要

日本オリンピック委員会（JOC）は3月19日、味の素ナショナルトレーニングセンターで「第10回スポーツと環境担当者会議」を開催しました。この会議はスポーツと環境に関する啓発・実践活動の理解を深めるとともに、環境保全について関係者・団体との連携、活動の促進を図ることを目的にしており、今回はJOCや加盟団体の環境担当者ら70名が参加しました。

●開会挨拶

冒頭、JOCの青木剛副会長兼専務理事が登壇し、「近年は地球温暖化が進み、夏は暑く冬は雪不足で、国内スポーツ大会が卑小化し、われわれスポーツ界にとっても大きな問題です。IOC（国際オリンピック委員会）が、スポーツと文化の2本の柱に環境を加えてから20年が経っています。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて各競技団体が取り組むべき環境対策を真剣に考えておられますが、今日は皆様方から積極的なご意見をいただき、有意義な会議にしたいと思えます」とあいさつしました。

[第1部]

●スポーツの持続可能性が大きなテーマに

第1部は、水野正人JOC名誉委員・IOCスポーツと環境委員が、昨年10月に開催されたIOCスポーツと環境世界会議の報告と、ソチオリンピックにおける環境の取り組みを発表しました。

水野委員はまず、2020年東京オリンピック・パラリンピックについて、招致活動のプレゼンテーションで使用した映像を用いて会場紹介などを行い、改めて開催決定に対して感謝の言葉を述べるとともに成功のポイントを説明しました。そして、地球温暖化の影響と思われる世界各地の気候変動の例を挙げ、社会だけでなくスポーツにおける「持続可能性」を考えて今のうちからできる限りの対策を講じる必要があると訴えました。

今回で10回目となったIOCスポーツと環境世界会議では、2020年に向けた課題が多数盛り込まれた「アジェンダ2020」が作られたと報告。1995年の会議発足後、これまでの取り組みで見えてきた課

題や反省をいかして、今後の進め方を改めて見直していこうというIOCの姿勢を伝えました。

ソチオリンピックにおける環境対策については、(1)健康な生活の営み、(2)自然との共生、(3)バリアフリー、(4)経済の繁栄、(5)新しい技術の導入、(6)文化と価値という6つのテーマで取り組んだと説明。テーマに即した様々な事例を写真で見せながら具体的に紹介しました。

そして、今回の会議に参加している環境担当者に対し、各競技団体の中で啓発活動と実践活動をしっかりと行い、加えてそれぞれの活動を是非写真で報告してほしいとの要望を述べ、環境活動への協力を促しました。

[第2部]

●パネルディスカッションで取り組みを紹介

第2部では、大塚真一郎JOC理事・スポーツ環境専門部会長コーディネートのもと「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた環境啓発・実践活動の取り組み」と題し、JOCスポーツ環境専門部に所属する日本陸上競技連盟（陸連）の風間明事務局長と日本レスリング協会の鎌賀秀夫評議員の2名に水野委員が加わってパネルディスカッションが行われました。

水野委員は招致活動における環境啓発活動では、環境負荷を最小にすること、緑化推進、スポーツを通じての持続可能性という3つのポイントを柱にしたと報告。「招致活動において世界の仲間と約束したことなので、2020年に向かって実践していきます」と述べました。

風間事務局長からは日本陸上競技連盟の取り組みとして、現役選手が小学校を訪問し実技を行う「キッズアスリートプロジェクト」の中で環境に関

するプログラムを盛り込んでいると説明。2020年に向けては、大会前に各国代表チームが日本全国で事前合宿を行うため、その際にも環境への配慮をしていかなければならないとの見解を示しました。また、以前は植樹活動を行ったものの、木を植える場所の検討やメンテナンスなどで手間も費用もかかるため別の形に変更しているという事例も紹介しました。

鎌賀評議員は、レスリング競技会の会場で練習マットの周りや選手控室にごみが多数落ちている状況がなかなか改善しなかったと明かし、子供のころからの教育が大事だと訴えました。さらに将来的には「紙のリザルト(結果用紙)を無くす」という夢を持っていると述べました。

そして、大塚部会長も自身が専務理事を務める日本トリアスロン連合の例として4月に行われる「グリーントリアスロン」というイベントを紹介。横浜で毎年開催している世界トリアスロンシリーズ横浜大会の1カ月前のイベントとしてPRブースの設置や海底清掃、スイム会場の試泳などが予定されていると説明しました。

パネリストの発表に続いて、大塚部会長が2020

年に向けた取り組みを考える上でのヒントとなるデータを提示。近年は競技・種目数をはじめ参加国や選手の数が増え、提供する食事の量などが大幅に増えていることや、2020年は2000万人の外国人観光客が見込まれていることを挙げ、各競技団体がそれぞれの局面で環境を意識した対応が必要になると述べました。また、質疑応答では2020年に建設される会場の半分を仮設にした理由や、選手を使った啓蒙活動にかかる予算組みなど、熱心な質問が寄せられました。

●閉会挨拶

最後に、大塚部会長が「2020年東京オリンピック・パラリンピック開催が決まってからはじめて行われる環境会議ということで、テーマを絞った会議ができたと思います。2020年は今世紀で一番のオリンピックになることを目指していくので、環境問題は避けて通れません。皆さんと一緒にそれを乗り切っていけるように、本年度からスタートしていければと思います」と閉会のあいさつを行い、会議を締めくくりました。

■出席者一覧

敬称略・順不同

所 属 先	出席者名
日本オリンピック委員会	水野 正人
	青木 剛
	平岡 英介
	大塚 眞一郎
	尾崎 正則
	福井 烈
	山口 香
	板橋 一太
	植松 克之
	風間 明
	鎌賀 秀夫
	玉利 聡一
	西山 雄二
(公財) 日本水泳連盟	佐野 和夫
	丸笹 公一郎
	小川 知伸
(公財) 日本テニス協会	千葉 素久
	千葉 輝夫
(公社) 日本ボート協会	猪谷 赤塚
(公社) 日本ホッケー協会	寺田 一夫
(公財) 日本バスケットボール協会	堀井 幹也
	長谷川 光世

所 属 先	出席者名
(公財) 日本スケート連盟	新田 俊彦
	森村 直樹
(公財) 日本アイスホッケー連盟	佐々木 史郎
(公財) 日本セーリング連盟	永井 真美
	天辻 康裕
(一社) 日本ウエイトリフティング協会	多小田 一紀
(公財) 日本ハンドボール協会	兼子 真
	白崎 孝紀
(公財) 日本自転車競技連盟	宮本 勝典
(公財) 日本卓球協会	清野 祐
(公財) 全日本軟式野球連盟	吉村 登
(公財) 日本相撲連盟	長友 田村 好伸
(公社) 日本馬術連盟	前田
(公財) 全日本柔道連盟	久下 知宏
(公財) 日本ソフトボール協会	本多 修治
(公財) 日本バドミントン協会	井上 清一
(公財) 日本ソフトテニス連盟	清水 政範
(公財) 全日本弓道連盟	高水 大輔
	岩坂 守
(一財) 全日本剣道連盟	上瀧 守
(公社) 日本近代五種協会	野上 等
	小宮山 弘

所 属 先	出席者名
(公社) 日本山岳協会	尾形
(公社) 日本カヌー連盟	八坂 美由紀
(公社) 全日本アーチェリー連盟	島田 晴男
(公社) 全日本銃剣道連盟	平本 梯子
(一財) 全日本野球協会	柴田 稔
(特非) 日本スポーツ芸術協会	相原 茂明
(公社) 日本武術太極拳連盟	渡辺 敏雄
(公社) 日本カーリング協会	倉本 憲男
(公社) 日本トリアスロン連合	新井 康史
	大久保 拳志
(公財) 日本ゴルフ協会	塩田 良
(公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟	元木 俊博
(公社) 日本ダンススポーツ連盟	嶋田 洋子
	岸尾 政弘
(一社) 日本バイアスロン連盟	川口 征夫
(一社) 日本カバディ協会	河合 陽児
(公社) 日本アメリカンフットボール協会	和田 雅幸
(公社) 日本チアリーディング協会	久保田 友代
(公社) 日本パワーリフティング協会	宮本 英尚
	物江 毅
日本オリンピック委員会 事務局	阿部 幹雄
	黒川 仁美
	尾畑 雄志

4

スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について

Issues regarding awareness and implementation activities

(1)各競技団体等の活動

(公財)日本陸上競技連盟……………	60	(公財)日本バドミントン協会……………	85
(公財)日本水泳連盟……………	61	(公財)全日本弓道連盟……………	86
(公財)日本サッカー協会……………	63	(公社)日本ライフル射撃協会……………	86
(公財)全日本スキー連盟……………	64	(一財)全日本剣道連盟……………	87
(公財)日本テニス協会……………	65	(公社)日本近代五種協会……………	88
(公社)日本ボート協会……………	66	(公財)日本ラグビーフットボール協会……………	89
(公社)日本ホッケー協会……………	67	(公社)日本山岳協会……………	90
(公財)日本バレーボール協会……………	68	(公社)日本カヌー連盟……………	91
(公財)日本体操協会……………	69	(公財)全日本空手道連盟……………	92
(公財)日本バスケットボール協会……………	70	(公社)全日本銃剣道連盟……………	93
(公財)日本スケート連盟……………	71	(公財)全日本ボウリング協会……………	93
(公財)日本アイスホッケー連盟……………	72	(一財)全日本野球協会……………	94
(公財)日本レスリング協会……………	73	(公社)日本カーリング協会……………	95
(公財)日本セーリング連盟……………	74	(公社)日本トライアスロン連合……………	96
(一社)日本ウエイトリフティング協会……………	75	(公社)日本スカッシュ協会……………	97
(公財)日本ハンドボール協会……………	76	(公社)日本ボディビル・フィットネス連盟……………	98
(公財)日本自転車競技連盟……………	77	(公社)全日本テコンドー協会……………	99
(公財)日本ソフトテニス連盟……………	78	(公社)日本ダンススポーツ連盟……………	100
(公財)日本卓球協会……………	79	(一社)日本バイアスロン連盟……………	101
(公財)全日本軟式野球連盟……………	80	(一社)日本カバディ協会……………	102
(公財)日本相撲連盟……………	81	(一社)日本セパタクロー協会……………	103
(公社)日本馬術連盟……………	82	(特非)日本クリケット協会……………	103
(公財)全日本柔道連盟……………	83	(公社)日本チアリーディング協会……………	104
(公財)日本ソフトボール協会……………	84	(公社)日本パワーリフティング協会……………	105

(2)JOCスポーツ環境専門部会員の活動

板橋一太 部会員……………	106
西山雄二 部会員……………	107
松岡修造 部会員……………	109

※(公財)=公益財団法人、(公社)公益社団法人、(一財)=一般財団法人、(一社)=一般社団法人、(特非)=特定非営利活動法人

(1)各競技団体等の活動

Activities of the JOC affiliated NFs and organizations

(公財)日本陸上競技連盟

1. 実施概要

世界規模で「地球環境保全」が叫ばれている現在、スポーツ界においても環境問題は避けては通れない大きなテーマである。オリンピック開催に際しても、環境への配慮が大きな関心を集めており、本連盟はいち早くこの問題に対処すべく、2006年に総務委員会に環境プロジェクトを設け、その後、「JAAFグリーンプロジェクト」を立ち上げ、環境省ともタイアップし「チームマイナス6%」→「チャレンジ25」の募集活動と地球温暖化防止のPR・啓発活動を主催大会会場等において積極的に展開してきた。

さらに、本連盟が地域活性化イベントとして展開中の「キッズアスリート・プロジェクト 夢の陸上キャラバン隊」とタイアップし、小学生を中心に将来トップアスリートを志す子どもたちに環境問題の大切さを訴えている。

2. 平成25年度事業活動

- 啓発ポスターの活用(JOCポスターの掲示)
- 競技会プログラムでの「温暖化防止のPR」の掲載
- 競技会会場とキッズアスリート・プロジェクト会場に環境PRの横断幕(バナー)を掲示
- IT化の推進によるプログラム、リザルト等の紙減量運動の展開
- ゴミ分別の指導

3. 具体的な活動実施内容とその成果

1)キッズアスリート・プロジェクト7会場において横断幕の掲出やポスターの掲示

- ・10月11日 山梨会場 (南アルプス市立小笠原小学校)
- ・10月25日 茨城会場 (水戸市立吉沢小学校)
- ・11月1日 隠岐会場 (隠岐の島町立西郷小学校)
- ・11月8日 長野会場 (茅野市立玉川小学校)
- ・11月15日 奈良会場 (三宅町立三宅小学校)
- ・11月29日 宮崎会場 (都城市立祝吉小学校)
- ・1月17日 沖縄会場 (与那原東小学校)

2)東京マラソンにおける環境への取り組み

①スタッフウェア

ボランティア(Team Smile)のウェアは、アシックスと東レの共同取り組みで、スポーツ衣料分野で初めて、東レの植物由来ポリエステル繊維“エコディア®PET”※を使用

※地球環境問題に貢献する次世代の基幹素材。石油由来テレフタル酸とサトウキビなどを原料とする植物由来エチレングリコールを重合・熔融紡糸した植物度約30%のポリエステル繊維

②チャリティ

- 公益財団法人東京都農林水産振興財団への寄付
花粉の少ない森づくり・スギ林の伐採と花粉の少ないスギの植栽。
東京マラソンの森(八王子)森づくりイベントの開催。
- 公益財団法人山梨県緑化推進機構への寄付
森林の整備・花木の植栽・登山道の整備・獣害対策・耕作放棄対策・明るい山村の創造。
整備した登山道で「多摩川源流トレイルラン」を開催。

③グリーンプロジェクト

- 給水紙コップに間伐材を使用
- ハイブリットバスなど、環境に配慮した車を優先的に(はとバス：5台提供)使用
- 植物由来の合成繊維素材ランナー配布袋

4. 全体的な成果と今後の課題

主催大会会場等にて実施した環境活動(陸連独自の横断幕等の掲示、掲載・大会プログラム紙上でのPR・植樹・花の種の配布等)の成果には手ごたえを感じている。今後は啓蒙、啓発活動から一歩前進し実践活動へ移行し、競技会の運営のなかに資源、エネルギーの節減に努めるよう、大会のIT化を促進させ特に紙減量を目標に掲げていく。関係者一人ひとりが環境保全の重要性を十分に認識し、身の回りのできることから実践して頂けるよう啓蒙、啓発活動を継続していきたい。

また、「キッズアスリート・プロジェクト」を中心に、将来を担う子どもたちをターゲットにした環境保全の行動を進め、地球温暖化防止をともに考えていく。

5. JOCスポーツ環境専門部会員 風間明

屋外で行われる多くのスポーツにとって、大気汚染や温暖化は、競技の存続に直結する問題であり、率先して対応すべき課題である。個々人の意識に訴え、小さな波紋が幾重にもなり、陸上競技界からスポーツ界、そして社会を巻き込む大きな波となるように、地道に啓発活動を続けていきたい。

(公財)日本水泳連盟

1. 実施概要

『水』に直接かかわるスポーツ競技団体として、地球を取り巻く状況およびその環境整備を常に心がけるよう、積極的かつ持続できる身近な活動を行ってきた。国内の水泳競技に関係する3団体(一般社団法人日本スイミングクラブ協会、一般社団法人日本マスターズ水泳協会および本連盟)が共催でコンテストを実施するなどして、水泳関係者が共通認識を持つことで活動の拡大・促進を図り、連携の輪を広げたいと考えている。

2. 平成25年度事業活動

- 第5回エココンテスト実施(エコTシャツデザインコンテスト)
- 第6回エココンテスト企画(エコポスターデザインの募集)

- エココンテスト作品の製品化および普及活動への積極的利用
- エコグッズ作成による啓蒙活動
- ペーパーレス・マイボトル推進運動
- 競技会等における継続的環境啓発ポスター・バナー掲示、チラシ配布、ゴミ分別

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①第5回エココンテスト

水泳3団体共催でエコTシャツデザインの募集、応募総数277通からグランプリを決定し、本連盟主催「ジャパンオープン」(平成25年5月24日)開始式にて表彰式を行った。

*グランプリ(日本水泳連盟会長賞)

新家仁美さん(スウィン越谷スイミングスクール)

*準グランプリ(日本スイミングクラブ協会会長賞)

表原佐和さん(イトマンスイミングスクール堺校)

*準グランプリ(日本マスターズ水泳協会会長賞)

高松莞吹さん(シーバス・スポーツクラブ篠ノ井)

②エコグッズの作成

エコTシャツ：コンテスト応募作品より、グランプリ作品3点を製品化し、加盟団体や登録団体にアピール、競技会等での役員着用などを提案予定。

③マイボトル推進運動

- ・環境省マイボトル・マイカップ普及促進キャンペーンに伴い、ペットボトルの使用を廃止。
- ・タンクボトルを継続利用。

④『紙削減プロジェクト』の継続実施・強化

⑤環境バナー・ポスター・チラシの継続的配布

監督者会議で競技会参加者(コーチ・選手)に向けてのレクチャー実施。また、各大会で、大会休憩時間を使って、環境バナーを囲んでプールサイドでフォトセッション(集合写真撮影)を実施し啓発活動を行う。

4. 全体的な成果と今後の課題

エココンテストは、水泳3団体での大きな活動となり6年目を迎えるが、この結果競技団体内部だけではなく、全国規模で多くの愛好者が参加し、益々大きな活動となりつつある。

また、コンテスト応募者には競技会場にも足を運び、観戦と共に実際に会場でのエコ活動を体験する参加型イベントとして企画を発展させたい。

今後も、このような社会とのつながりを持った活動の輪を益々拡大し、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、関係者も直接水資源にかかわる事から、より積極的に環境活動に参加できるよう、身近な事から積み上げていきたい。

5. JOCスポーツ環境専門部会員 齋藤由紀

スポーツ環境委員会が連盟内に発足して9年を重ね、基本的活動内容とその習慣は、かなり浸透した。又「エココンテスト」で競技関係者のみならず一般観客参加型活動も軌道に乗ってきた。今後の課題としては、この一般参加型環境活動を更に膨らませるなど、継続可能な活動の輪を広げたい。

(公財)日本サッカー協会

1. 実施概要

JFAの「理念」、および「国連グローバル・コンパクト」における環境3原則（2009年7月に署名）、そして、環境省「チャレンジ25キャンペーン」（2010年1月に登録）に基づき活動を継続。2014年3月26日には、低炭素社会実現に向けた新たな気候変動キャンペーン「Fun to Share」キックオフイベントにサッカー界を代表して、本会中西哲生特任理事（環境プロジェクト・リーダー）にもご登壇いただいた。

2. 平成25年度事業活動

- 主催／後援競技会等におけるゴミ分別や公共交通機関利用の啓発
- JFAグリーンプロジェクトの推進
- 環境プロジェクトを通じた各種啓発活動の推進
- 国連グローバル・コンパクトの国内分科会活動参加（環境経営分科会）
- オフィス（JFAハウス）における環境への配慮（クールビズの実施等）

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①JFA事務局内での代表的な活動

スマートオフィスの取り組みが前進。2014年3月中頃より、事務局内主要会議から本格的にペーパーレス運用を開始、iPad利用により、約4,000枚/月（A4サイズ）を削減。また、2013年10月開催の47都道府県チーフインストラクター研修会（2会場での開催）では、試験的に資料のダウンロード等を行い、約17,000枚/2回数（A4サイズ）規模の紙の削減可能性を見出すことができた。

②JFAグリーンプロジェクト

前年同様、都道府県協会、サッカークラブ、自治体、学校、幼稚園・保育園を対象に芝生の苗の提供等を実施。今年度は、約55万株の芝生の苗を全国40箇所提供し、合計139,202㎡（サッカーピッチ19面分相当）を芝生化。

③環境プロジェクト

中西哲生リーダーによる企業との合同勉強会での環境講演を実施した。なお、同プロジェクトは、2013年3月度理事会にて発展的解消を行い、「社会貢献活動推進プロジェクト」として見直す運びとなった。

④地域／Jリーグ

徳島ヴォルティス	「ボカリスエットスタジアム クリーンアップ活動」を継続。クラブスタッフ、チアリーディング部「BLUE SPIRIT」、サポーターなど約200名にてスタジアム周辺清掃、スタジアム内ベンチ拭き、ヴォルティスロード（鳴門駅～スタジアム間）の清掃等を実施。
ザスパクサツ群馬	スタジアム清掃活動を継続中。活動の浸透に合わせ、不定期開催から毎月ホームゲーム開催時に実施、数十名のサポーターが毎回参加。
ジュビロ磐田	芝生化事業の協力に加え、エコパートナーの株式会社リサイクルクリーンの協力により、ホームゲームで回収したアルミ缶を資源化して植樹を行い、天竜川水系の水質保全活動も実施。

清水エスパルス	「エスパルス エコチャレンジ」の一環として、県内の小中学校、幼稚園・保育園等の運動場の芝生化支援を実施中。2013度は10の施設の運動場を芝生化(補修・拡張含む)。
アルビレックス新潟	「ホームタウンオレンジプロジェクト」の一環として、スタジアム周辺の清掃活動を実施。クラブスポンサーの協賛、有志サポーター、監督・選手の参加等、順調に活動を継続中。
栃木サッカークラブ	かつて東洋一の生産量を誇った銅山である足尾鉱山の緑化事業を2010年より実施中。2012、2013年からは、自転車ロードレースチーム、宇都宮ブリッツェンと共催。

4. 全体的な成果と今後の課題

●JFA

例年通りの活動を継続。前述の通り、事務局システム化等の強化によりペーパーレス化を推進中。

●Jリーグ

各クラブの取組が継続的に続いている。一部クラブについては活動定着に合わせ、参加者の増加等取組が根付いていることが成果として出ている。

5. JOCスポーツ環境専門部会員 玉利聡一

JFA、Jリーグ等全国的に継続して活動を継続している。JFAについては、組織強化の一環として「JFAリフォーム」等、組織規約の整備等のコンプライアンス推進から組織整備等を進めている。「環境プロジェクト」については、本活動の成果として「社会貢献活動推進プロジェクト」として、環境活動だけにこだわらない包括的な取り組みとして見直すこととなった。2020年に向かうオリンピック・ムーブメントの中で、本会も社会的責任への取り組みをより強化することができればと考えている。

(公財)全日本スキー連盟

1. 実施概要

本連盟は冬季スポーツ競技団体として、地球温暖化による雪不足を切実な問題として捉え、「I LOVE SNOW」キャンペーンを展開し9年目を迎えている。このキャンペーンでは、「自然に対する感謝を表す活動」、「雪を通じた感動体験の共有」、「親子の絆を深める機会の提供」、「健康や楽しみを得るための機会の提供」という四つのキーワードを掲げ、「スキー選手」を通して環境保全に対する啓発活動を行っている。

2. 平成25年度事業活動

- ①チャレンジ25キャンペーンへのチャレンジャー登録活動
- ②2014 FIS フリースタイルワールドカップ 福島猪苗代大会における環境省の環境保全に対する啓発活動への協力
- ③「I LOVE SNOW」One's Handsキッズフェスタ2014 in 福島の開催

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①チャレンジ25キャンペーンへのチャレンジャー登録活動

本連盟会員(約9万人)のチャレンジ25キャンペーンチャレンジャーとしての登録活動を推進し、環境保全に対する啓発活動を行った。

②2014 FIS フリースタイルワールドカップ 福島猪苗代大会における環境省の環境保全に対する啓発活動への協力

2014 FIS フリースタイルワールドカップ 福島猪苗代大会において、環境省が大会協賛する際に現地組織委員会との調整を行うと共に、大会期間中、選手を起用しての環境保全に対する啓発活動への協力(環境省Web素材提供等)を行った。

③「I LOVE SNOW」One's Handsキッズフェスタ2014 in福島の開催

スキーヤーをゲストに迎え、東日本大震災で被災し今も福島県会津地域に避難している子どもたちを対象とした雪上イベントである「I LOVE SNOW」One's Handsキッズフェスタ2014 in福島を開催した。参加した子どもたちがイベントを通してスキーを楽しむことで、復興に向け元気を取り戻すと同時にスノースポーツの素晴らしさや雪の大切さを実感してもらう機会を提供した。

<成果>

これらの活動により、雪や自然を守ることの大切さ、継続して実践することが環境保全につながることをアピールできた。また、ソチオリンピック後のワールドカップにおいて、環境省の環境保全に対する啓発活動に協力できたことは、大きなアピールとなった。

4. 全体的な成果と今後の課題

「I LOVE SNOW」キャンペーンを展開して9年目を迎え、本キャンペーンの主旨や活動が定着し、環境保全に対する啓発活動ができてきている。今後もこの活動が継続的に行えるよう努めていきたい。また、オリンピックでの好成績をバネに更なる環境保全に対する啓発活動を行いたい。

5. JOCスポーツ環境専門部会員 谷 雅雄

世界各地から報告される異常気象に自然の驚異と地球環境の変化を実感させられている。世界中の人がこれらの現象に危機を感じ、環境保全に努めなければならない状況の中、本連盟は冬季スポーツ競技団体として、「雪」をキーワードに地球温暖化防止や環境保全に関するメッセージを発信し、自らも継続して活動を行っていきたいと考えている。また、新たに始動した『Fun to Share』キャンペーンにも今後積極的に取り組んでいきたいと考えている。

(公財)日本テニス協会

1. 実施概要

本協会では、テニス界における環境保全、啓発、実践活動の3つの柱を掲げている。「ほんのちよっとのエコ活動」をスローガンに日々の生活の中でも環境意識を持ってもらえるように、環境保全活動に取り組む。

2. 平成25年度事業活動

- 日本テニス協会主催大会をはじめ、カンファレンス、大会等で環境バナーを掲示

- テニス界における環境保全啓発活動
- ジュニア委員会と共同発信、協働で、ジュニアの大会のプログラムにジュニア憲章掲載に加えて「ごみゼロ運動」なるキャンペーンの実施
- 日本で行われる国際大会での啓発活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①「テニスの日」共同イベントでの啓発活動

「テニスの日」の共同イベントとして、各団体と協力をし、47都道府県でエコ活動の奨励「ほんのちょっとのエコ活動」をスローガンに啓発活動を実施した。

②テニス指導者、選手、観客の方への環境啓発活動

日本テニス協会主催大会をはじめ、カンファレンス等で「ベイビーステップ」環境ポスターの掲示により環境保全啓発活動を行った。

③グローバルスポーツアライアンス（GSA）を通じてボールの回収とリユース、エコフラッグの掲出

④楽天ジャパンオープンテニスにおける環境啓発活動

楽天ジャパンオープンテニス2013年に於いて、スポーツと環境についてのトークショーを開催し、啓発活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

「テニスの日」での共同イベント、楽天ジャパンオープンテニス、「ベイビーステップ」環境ポスターの掲示を行うことでの啓発活動は毎年行うことにより、関係者、選手、観客の方々に定着してきていると実感している。これからも継続をして、理解し協力していってもらえるように活動をしていくとともに、また新たな活動にも挑戦していきたいと思っている。

(公社)日本ボート協会

1. 実施概要

ボート競技は自然と一体化した競技である。

全国の水域のほとんどは自然に囲まれており、環境の変化は競技そのものにも大きく影響してくる。このことは、競技関係者が環境活動の重要性を強く認識する背景となる。

「地球温暖化」に象徴される環境破壊は、人々に環境保全の重要性を再認識させる大きな契機となった。競技関係者のみならず、水域を取り巻く多くの人たちにも環境活動の重要性をアピールしながらこの活動の推進に取り組むこととした。

2. 平成25年度事業活動

- 大会時、諸会議時での環境啓発ポスターの掲示
- 大会プログラムへの環境啓発PRの掲載
- 競技会場でのゴミ分別回収等の環境活動 他

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①ポスター等による啓発活動

- ・本会主催大会にて環境啓発ポスターを掲示するなど、啓発活動を行った。
- ・大会プログラムへの環境啓発ポスター(縮小)1ページ全面掲載による、啓発活動を行った。

②実践活動

- ・競技関係者のボランティアによる荒川での粗大廃棄物の回収。
- ・SA講習会での環境活動に関する啓発活動(開催場所：戸田市、北九州市)。
- ・第9回JOCスポーツと環境・地域セミナーに出席し、地域や団体の環境活動を学習。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境活動の重要性に対する認識は高まりつつある。

今後は、協会としての取組み優先順位をさらに引き上げて、より具体的な活動を拡大し積極的に環境保全に努めていきたい。

(公社)日本ホッケー協会

1. 実施概要

当協会は主管協会・連盟とともに、環境活動の重要性を促し、啓発・実践活動を行った。今後も全国の方々に広めていけるように、より多くの啓発・実践活動に取り組む。

2. 平成25年度事業活動

- ①大会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示
- ②競技会等における環境活動
- ③研修会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示

当協会主催大会にて環境啓発ポスター、横断幕の掲示を行い、啓発活動を行った。

②競技会等における環境活動

当協会主催大会において、ゴミ箱の設置、清掃活動を行った。

③研修会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示

当協会の各種研修会にて環境啓発ポスター、横断幕の掲示を行い、啓発活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、横断幕の掲示などの啓発活動を実践してきた事が実り、選手・開催地等の関係者に環境活動の啓発が徐々に理解されてきた。今後は啓発活動に加えて、スポーツと環境保全の内容をより理解して頂き、実践活動を一人ひとりが行えるように促していきたい。

(公財)日本バレーボール協会

1. 実施概要

2009年の国際バレーボール連盟による統一球の制定により、練習や試合では使えないボールが大量に発生し、これを廃棄せざるを得ないという問題が生じた。しかし、実際には、捨てられないままで多くのボールが体育館の倉庫などで眠らざるを得ない状況となった。

そこで2010年にボールを介して世界の人々と手と手をつなぐ国際貢献・国際交流を目的に、本協会の社会貢献プロジェクトとして『バレーボールバンク』を設立した。国内のチームからボールを回収し、回収したボールを海外のバレーボール協会、国際協力機構（JICA）や国内のNPO団体を通して、海外へ寄贈することにより、環境に対する取り組みを行っている。

また、ボールとしての使用が難しいものは小銭入れやペンケースなどに加工し、リサイクル活動を推進し、将来的には、大会会場やホームページなどで販売し、その売上金の一部を現状の最大課題である輸送費に充当したいと考えている。

2. 平成25年度事業活動

- 発展途上国へボールほかバレーボール用器具を寄贈して競技の普及を図り、同時にさまざまなバレーボール情報を提供し、発展途上国のスポーツ振興に貢献する。
- 同事業の戦略的展開を通じ、寄贈対象となった各国のバレーボール協会（NF）との友好関係を結び、連携を強化する。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

1) バレーボールバンク活動の認知を高める事業<広報活動事業>

① 公益財団法人日本バレーボール協会（以下JVA）主催大会会場でのブース展開（リーフレット配布、パネル、ポスター、バナーの掲出、プロモーションビデオの上映など）、及びバレーボールバンク公式ホームページでの活動報告、バレーボールバンク関連SNSツールを活用する。

② 広報活動を実施したJVA主催大会

- ・ 平成25年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会
- ・ JOCジュニアオリンピックカップ第27回全国都道府県対抗中学バレーボール大会
- ・ 春の高校バレー第66回全日本バレーボール高等学校選手権大会

③ 効果

- ・ 収集ボール数1,419個（2010年からの累計5,413個の26.2%）
- ・ 大会期間中のTwitterのフォロワー数7,380件

2) 支援依頼者とのネットワーク事業

世界会議での本企画のプレゼンテーションを実施し、本企画の認知を高め、支援依頼者（国）からの依頼に早急に対応し、相互間の信頼関係を醸成し、寄贈対象となった各国のバレーボール協会（NF）との友好を継続的かつ円満に結び、連携強化が図れる体制を構築する。

① 平成25年度寄贈総実績24件

寄贈ボール数3,017個(2010年からのボール寄贈累計4,082個の73.9%)

②各国のバレーボール協会(NF)との友好実績(上記24件中13件)

- ・モンゴルバレーボール協会へボール1,000個寄贈
- ・アフガニスタンバレーボール連盟へボール500個寄贈
- ・ネパールバレーボール協会へボール300個寄贈
- ・オセアニア諸国9カ国(627個)
- ・北朝鮮(ネット3張)

4. 全体的な成果と今後の課題

これまでのバレーボールバンク事業の実績と課題を再検証し、現状の最大課題である支援依頼者(国)自身の輸送費負担を軽減すべく、バレーボールバンク事業の活動趣旨に賛同する企業ならびに団体を募っていく。

5. JOCスポーツ環境専門部会員 大塚慶二郎

(公財)日本バレーボール協会では、「バレーボールバンク」事業を2010年から展開し、4年が経過した。今後もこの事業が益々拡大してゆくように広報活動に重点を置いて活動し、世界規模に発展させていきたいと考えている。

(公財)日本体操協会

1. 実施概要

(公財)日本体操協会では、これまで継続して実施してきた環境保全活動を引き続き実施した。

2. 平成25年度事業活動

- 環境啓発横断幕(バナー)の設置
- 炭酸マグネシウム対策
- ゴミ分別回収

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①環境啓発横断幕の設置

これまで、国内で実施されてきた競技会とイベントの会場に、環境啓発に関する横断幕を設置した。この活動は、すでに各加盟団体においても横断幕を独自に作り、それぞれの事業における横断幕設置として慣例化されている。

②炭酸マグネシウム対策

継続的に問題視されている炭酸マグネシウム対策は、これまで同様に、ビニールシートの設置、大会主催者の準備する炭酸マグネシウム以外の利用禁止、競技前後の清掃活動など、従来の方法を踏襲して進めている。

③ゴミ分別回収

ゴミの分別回収ボックスを会場に設置し、継続的な分別意識を啓発した。特に役員の弁当箱などは、それ独自に回収し、円滑に業者回収ができるように対応した。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発横断幕設置などをイベントごとに必ず行っていることが慣例化したことについては、継続性が重要な本活動にとって意義あることである。ただし、現状において、発展的な、あるいは新規の環境問題に対する取り組みは行われていない。

その原因の一つは、単独で組織化されていた環境委員会を、組織のスリム化を図るため、総務委員会内に設置したことにある。総務委員会は他に多くの案件を処理していかなければならず、室内競技である体操の場合、環境問題は身近に感じにくい。今後、特化した体制について改めて審議していく必要がある。

(公財)日本バスケットボール協会

1. 実施概要

公益財団法人日本バスケットボール協会<JBA>は、昨年度に引き続き【次世代を担う子どもたちが、ずっとバスケットボールを楽しめるように！】とのスローガンの下、スポーツ活動が地球温暖化と無縁ではないことを自覚し、傘下の連盟・団体、プレイヤー及びファンの方々も共有出来るような環境関連のメッセージを発信することで、環境保全活動を積極的に推進している。

2. 平成25年度事業活動

- ①『環境啓発ポスター』及び『環境PR横断幕(バナー)』の掲示
- ②『環境取組みメッセージ』広告の掲載
- ③大会会場における取組の推進とゴミ分別活動の徹底
- ④協会内部における環境活動強化

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①『環境啓発ポスター』及び『環境PR横断幕』の掲示
 - ・協会主催の大会会場で、ポスター、横断幕を掲示し観客にアピール。
 - ・全カテゴリーの合宿には必ず掲載し、選手自らが意識するように徹底している。
- ②『環境取組みメッセージ』広告の掲載
 - ・協会主催大会公式プログラムに、環境ページを掲載し広く訴求。
- ③大会会場における取組の推進とゴミ分別活動の徹底
 - ・協会主催大会実行委員会へ出席し、環境に対する提案を実施。
 - ・大会スタッフの、観客席巡回によるゴミ回収を実施。
 - ・ゴミ分別は子供にも分かるように絵表示等で分別を徹底。
- ④協会内部における環境活動強化
 - ・クールビズ(夏季期間)、ウォームビズ(冬季期間)の実施。
 - ・会議資料の電子化及び裏紙再利用による紙の削減を実施。
 - ・パソコン、オフィス内蛍光灯の小まめな電源切断を実施。
 - ・協会内部での事務用品等の購入にあたっては、エコ商品の購入を徹底した。

4. 全体的な成果と今後の課題

平成25年度は、例年通り実施している環境活動の取組み（横断幕、ポスターの掲出、プログラムへの啓発広告）に加え、①トップ選手参加による訴求活動、②バスケットボールファン（観戦者）を巻き込んだ訴求活動、を目論んで取り組んだが実践までに至らなかった。平成26年度は引き続き新しい活動を検討し、選手・バスケットボールファンが常に自然に環境を意識できるような取組みを考案し実践していきたい。

(公財)日本スケート連盟

1. 啓発対象競技会

【フィギュア】

国内競技会	全日本ノービス選手権	25年10月	ポスター	
	全日本ジュニア選手権	25年11月	ポスター	バナー
	全日本選手権	25年12月	ポスター	バナー
国際競技会	世界国別対抗戦	25年 4月	ポスター	バナー
	グランプリNHKトロフィー	25年11月	ポスター	バナー
	グランプリファイナル	25年12月	ポスター	バナー
	世界フィギュア選手権	26年 3月	ポスター	バナー

【スピード】

国内大会	ソチ五輪選考会	25年12月	ポスター	バナー
国際大会	世界スプリント選手権	26年 1月	ポスター	バナー

【ショート】

国内大会	ソチ五輪選考会	25年12月	ポスター	バナー
------	---------	--------	------	-----

2. フィギュア審判セミナー

審判員セミナー	東セミナー	25年9月	東京TKPセンター	172名	ポスター
	西セミナー	25年9月	大阪府立体育館	137名	ポスター

スポーツと環境保全セッションにて啓発スピーチ

3. フィギュア新人発掘合宿

野辺山 25年 7月 ポスター

A・Bコース開校式でスポーツと環境のかかわりについてレクチャー

4. 実践活動

- 競技会におけるゴミ分別の徹底
- ペーパーレスの推進
競技会結果等をホームページ掲載閲覧に振り替え記録紙の使用量削減
- シールタンブラーを推奨し紙コップ・ペットボトルの使用削減に努めた

(公財)日本アイスホッケー連盟

1. 実施概要

「この星にスポーツを」をスローガンに、全国大会開催期間中にバナー掲示及びエコ活動ブースなどを設置し大会参加選手及び関係者へ向けて積極的に推進を行った。今後は地方大会においても周知徹底を図り、全国に発信していけるような活動に取り組む。

2. 平成25年度事業活動

- 全日本アイスホッケー各種大会開催時に、啓発ポスター及びバナー等の掲示
- 公認アイスホッケー指導員講習会でのポスター掲示による指導者への啓発活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示

全国大会時に環境啓発ポスター、バナー掲示、エコ運動ブース設置、エコ活動実施等を行い、啓発活動を実施した。

エコ活動内容は、大会開催時に地域ボランティア（主婦及び観光協会職員）によるおもてなし活動を通して、選手や観客等にゴミの分別や再生容器の活用をアピールし、エコ活動に参加してもらった。

②指導者講習会でのポスター掲示

指導者に対してスポーツにおける環境問題の提起により、選手に意識付けができるよう啓発活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、バナーの掲示、エコ運動ブース設置等、啓発活動を行った成果が、選手をはじめ多くの観客や関係者に周知され、徹底されるようになってきた。

今後は、積極的に指導者を通じて選手の環境保全に対する啓発活動を行っていききたい。また、スケートリンクに関してもエコリンクの積極的な導入を関係機関へ働き掛けていきたい。

(公財)日本レスリング協会

1. 実施概要

日本レスリング協会が環境の啓発・実践活動に取り組み始めて10年が経過した。その間、競技団体の活動を写真入りで掲載している「日本オリンピック委員会スポーツ環境部会」の報告書に随分お世話になった。当初はこの報告書を参考に、模倣できる範囲で啓発・実践活動を行ってきた。特に日本水泳連盟の啓発・実践活動を手本に、本協会がその活動に少しでも近づけるよう活動してきた。

2. 平成25年度事業活動

- 傘下団体の大会時の環境保全に関する紹介や会場内アナウンス
- 会場内のポスターとバナーの掲示及びゴミの分別処理
- 大会パンフレットおよび、協会機関誌、大会要項での啓発
- 大会でのペーパーレス化(大会要項など)

3. 具体的な活動実施内容

- ①大会時に環境バナー、ポスターの掲示、大会プログラムへ(大会要項など)の掲載、会場内の環境活動啓発のアナウンス。
- ②公認レスリング指導員講習会でスポーツと環境啓発活動についての講義と試験を行う。
- ③協会機関誌、ホームページなどへのポスターデザインの掲載

4. 全体的な成果と今後の課題

日本水泳連盟のペーパーレス化の活動には目をみはるものがあり、当協会は本年度の目標にそれを掲げスタートし、どのような方法で具現化していくか検討した。そこで年間どの程度のコピー用紙を使っているか調査してみると、協会事務局内の利用枚数を含め年／約16万枚であった。(この中には全日本の主要二大会で9千枚弱の使用も含む)大会時のペーパーレスとしてリザルト代わりに大型ビジョンの設置を模索していたが、その経費は一大会400万円を超え、ペーパーレスとの費用対効果を考えると非常に厳しいことがわかり、違う方法でペーパーレス化を進めることに結論付けた。

5. JOCスポーツ環境専門部会員 鎌賀秀夫

10年を区切りとして振り返り、啓発活動こそが一番の環境保全の実践につながる基本として位置づけ活動していく。ペーパーレス化は継続的に行うが、大会を通じ生活の中でどのようにゴミの減量や分別処理などにつながる3Rの啓発活動を指導・教育していくかを基本に、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け進めていきたい。また、この活動を国際連盟に対してどのように働きかけていくか、実現に向けて検討していきたい。

(公財)日本セーリング連盟

1. 実施概要

主に海、湖で行うセーリング競技は直接環境へその影響が跳ね返ってくるスポーツであり、常に、また積極的に環境保全への取り組みを推進していく義務があると考えている。平成25年度も「残したいのはきれいな海」をスローガンに全国で環境保全活動を推進してきた。

2. 平成25年度事業活動

- ① 35の全日本選手権において環境キャンペーンを実施、支援
- ② 2013環境コンテストを実施
- ③ Used Sailの活用

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ① 35の全日本選手権において環境キャンペーンを実施、支援
 - ・ 環境フラッグ、横断幕（バナー）等掲示により選手はもとより、大会運営関係者、観客も含め環境保全への意識の向上を推進。
 - ・ レースの帆走指示書にレース中に海にゴミを捨てた場合のペナルティ、失格条項等を記載、厳しく対処。
- ② 2013環境コンテストを実施
 - ・ 昨年まで実施していた小中学生を対象にした絵画コンテストに替り、「残したいのはきれいな海」をスローガンに環境コンテストを開催。
 - ・ 自分たちが今環境保全、啓発活動のために何をすべきかを独自に考えてもらい、良い案には補助金を支給し、その実現を後押しした。
 - ・ CO₂を減らすためにアイドリングストップを促すステッカーの作成、不要になったヨットの帆を有効活用し、日よけやバッグ作る案、計2案が採択された。JSAFでは今後もこれらの活動を支援していきたい。
- ③ Used Sailの活用
 - ・ 廃棄予定のヨットの帆からトリプルエコバッグを作るワークショップを国体で開催。
 - ・ 環境啓発活動の一環として物を大切する意識の向上も図る。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境キャンペーンも徐々に選手、及び運営関係者には浸透してきたが、より簡便で分かりやすいものにしていきたい。また環境コンテストの募集を通じて、自らが環境のために何ができるか、何をすべきか考えてもらう1つのきっかけとなるよう全国展開をし、働きかけていきたいと思う。

(一社)日本ウエイトリフティング協会

1. 実施概要

(一社)日本ウエイトリフティング協会は、スポーツ活動における環境問題を改善するために、事務所内及び競技会での環境への取り組みを実施し、環境保全啓発ポスター、バナーの掲示により大会関係者及び観客に向けて環境保全の啓発を促し環境保全意識の向上を図っている。

2. 平成25年度事業活動

- 競技会での環境啓発活動
- 競技会等における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①競技会等における環境啓発ポスター、バナーの掲示

前年度より継続して、各競技会や催事等において環境啓発のポスター、バナーを会場内に設置した。

②競技会等におけるペーパーレス化

全日本選手権大会や全日本ジュニア選手権大会においては大会要項を協会ホームページにアップし、ウェブからのダウンロードによる配信を行った。

大会リザルト等については、公式記録員から各都道府県事務局への配信を行い、ペーパーレス化に向けての実践を行っている。

③競技会等における環境活動

当協会においては、より環境負荷の少ない競技会運営を目指し、審判・監督に協力を呼びかけながら、継続的に活動を行っている。

大会の運営にあたっては、できるだけ廃棄物を出さないことはもちろん、飲み物の容器・食器についても再利用や原材料としての再生利用を考慮している。北九州市において開催した全日本選手権大会では、役員の弁当に紙と経木でできた容器を使用した。大阪府羽曳野コロセアムで開催する学生連盟主催の全日本学生新人大会・全日本大学対抗選手権大会(2部)では、競技役員の昼食に会場内食堂の通常の食器を使用して、廃棄物をできるだけ出さないようにしている。

国民体育大会・全国高校総体・社会人選手権大会・レディースカップ全日本女子選抜大会などでは、開催自治体の協力によるゴミの分別収集も定着した。

全日本学生連盟では、清掃班を編成して競技会場トイレを巡回し、清掃活動を行うだけでなく、ゴミの減量化・分別・持ち帰りを呼びかけるなど、環境への配慮を促している。

また、競技会自体の運営については、炭酸マグネシウム対策として、粉の粉塵化を最小限に抑えるため上部へ2カ所の取り出し口のあるものを活用しているとともに、滑りにくいプラットフォームを使用することによって靴底の滑り止めの松ヤニを使用せずに競技会を行い、競技会場の床や競技者の靴底の汚れを防止している。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全啓発ポスター、バナーの掲示などの活動を通して、環境保全の重要性をアピールした。今後も、会場地元等との協力のもと、環境保全の活動を行うとともに、主催者・参加者の意識向上に向け、今後もさまざまな取り組みを行っていききたい。

(公財)日本ハンドボール協会

1. 実施概要

全世界的な環境問題を改善していくためには、我々一人ひとりの自覚が不可欠である。そこで、スポーツ団体に取り組み可能な環境活動として、多くの方々が集まる大会等での啓発が効果的であると考え、会場へのバナー・ポスター掲示、プログラムへのポスター掲出等を行った。今後も、各都道府県協会、各連盟とも積極的に連携し、個人レベルから環境問題への意識が更に高まるように取り組みたい。

2. 平成25年度事業活動

- 全国大会開催時の会場に環境バナー、ポスターを掲示
- 大会プログラムへの環境ポスター掲出
- 「チャレンジ25キャンペーン」の推進

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会における環境啓発活動
 - ・環境バナー、環境ポスターを会場内に掲出し広報した。
 - ・環境ポスターを大会プログラムに印刷するようにした。
- ②チャレンジ25キャンペーンの推進
 - ・協会ホームページからチャレンジ25ページにリンクし啓発に努めた。
 - ・都道府県協会・連盟・役員に「チャレンジ25キャンペーン」News Letterを再配信し、キャンペーン参加を促進した。
- ③事務局におけるクリーン購入・エネルギー節約
 - ・事務用品の利用にあたり、エコ商品の購入に努めた。
 - ・資料配付にあたりメール添付を多用し、ペーパーレス化に努めた。
 - ・夏季はクールビズとした。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境バナー、ポスターの大会や集会会場への掲出により環境問題への啓発活動を行って来たが、必ずしも十分に意識浸透したとは言えない。これからは、より具体的な例を挙げて啓発活動を行うことが必要と考え、他のNFの取組を参考に、その方法を検討していききたい。

(公財)日本自転車競技連盟

1. 実施概要

自転車競技、とくにロードレースは元来自然の中を走るスポーツである。また、有害物質を排出しない、健康的で環境にやさしい乗り物として自転車は広く国民に利用されている。

環境にやさしいスポーツ・自転車競技として今後さらなる発展を目指し、積極的な環境保全活動を行う。

2. 平成25年度事業活動

- ①大会時の環境啓発ポスター、バナーの掲示
- ②紙消費量の削減
- ③ゴミの分別回収
- ④ロードレース中におけるゴミ廃棄の禁止徹底
- ⑤ゼッケン用安全ピン配布の中止

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会時の環境啓発ポスター、バナーの掲示
大会会場に環境啓発ポスター、バナー掲示、環境パンフレットの配布を行い、啓発活動を行った。
- ②紙消費量の削減
大会におけるコミュニケの配布を可能な限り掲示に変更。事務連絡における郵送の削減およびメールの活用。コピーの際は集約コピーをし、紙消費量を削減。
- ③ゴミの分別回収
大会会場でのゴミを分別回収し、廃棄でなくリサイクルへとつなげた。
- ④ロードレース中におけるゴミ廃棄の禁止徹底
レース中に摂取した補給飲食物の包装紙等をむやみに廃棄することが無いように、廃棄区間を設定し回収を実施。競技規則にも定め、違反者には罰則を与えた。
- ⑤ゼッケン用安全ピン配布の中止
ゼッケンを止める安全ピンを選手持参とし、新たな配布を行わない。

4. 全体的な成果と今後の課題

大会等イベント開催時における環境活動を重点的に行った。

昨年度と比較し、さらに書類のデータ化を実施した。インターネット等を有効活用した結果、WEB情報の充実につながり好評を得た。

また大会ごと各選手に配布をしていた安全ピンについて、持参をお願いすることで、従来1回で使い捨て状態であった安全ピンを再利用する意識を選手に意識させることができた。

今後は、上記のような活動を環境とより強く関連付けることから、より強い啓発活動として進めていきたいと考えている。



大会要項で安全ピン持参を呼びかけ

(公財)日本ソフトテニス連盟

1. 実施概要

(公財)日本ソフトテニス連盟環境部会は、平成23年度に環境・教育部会に変更し、公益財団法人移行とともに平成24年度からは環境・教育プロジェクトとし、特別委員会とした。

特別委員会設置の目的は、「ソフトテニス長期基本計画2012」の主要な取組み事項として、公益財団法人としての高い社会的信用を維持し、公益目的事業を行うために、ソフトテニスを通じて環境と教育に取り組む。ソフトテニスを通じて環境保全を図っていくとともに、自己責任及びフェアプレーの精神を身につけ、マナーを重んじる教育を推進し、青少年の健全育成を図ることとした。

環境対策について、傘下47都道府県支部と日本学生連盟に既に配布済の「この星にスポーツを」の横断幕(バナー)を、各支部の施設に常設するとともに大会や会議での啓発活動として掲出するとともにゴミの分別等エコ意識の高揚を図る活動を継続している。

25年度には、下記の全国大会会場で上記横断幕の掲出の他、環境ポスター掲示、機関誌・大会プログラムに広告(「来たときよりもキレイに!」～スポーツの心、環境と未来へ～)を加盟支部へも呼びかけて刷り込み、分別ゴミ箱の設置、ゴミの持ち帰り、マイペットボトルにより紙コップ削減のリデュース活動等々を継続実施し、スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進するための物を大切に生活習慣の徹底を推進した。

また、「教育」の視点に立って青少年の健全育成の推進、スポーツマンとしての倫理教育を推進するために、日体協の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンとの連動、及び暴力行為根絶に取り組むため、全国指導者研修会議(小中高の指導者を各県から召集し26年1月実施)の主要テーマとして、各層で意見交換を行い今後の対応策を検討した。

26年度は、環境・教育プロジェクトを中心に、引き続き上記の活動を各支部と連携を図り推進していくとともに、ソフトテニス連盟独自の環境横断幕の作成、大会等での役員、選手、保護者、応援者のマナーの実態調査を実施し、マナー向上に取り組む予定である。

主な大会名	開催日	会場	主管団体
東アジア競技大会日本代表予選会	4/28～29	広島市	広島県ソフトテニス連盟
全日本シングルス選手権大会	5/18～19	熊本市	熊本県ソフトテニス連盟
全日本実業団選手権大会	7/26～28	佐世保市	長崎県ソフトテニス連盟
全日本小学生選手権大会	8/1～4	甲府市他	山梨県ソフトテニス連盟
全日本高等学校選手権大会	7/28～8/4	大分市	大分県ソフトテニス連盟
全国中学校大会	8/19～21	一宮市	愛知県ソフトテニス連盟
全日本社会人選手権大会	9/7～8	札幌市他	北海道ソフトテニス連盟
JOC杯・全日本ジュニア選手権	9/14～15	広島市	広島県ソフトテニス連盟
全日本シニア選手権大会	9/20～22	神戸市他	兵庫県ソフトテニス連盟
全日本選手権大会	10/25～28	神栖市	茨城県ソフトテニス連盟
西日本選手権大会	7/20～21	瑞浪市他	岐阜県ソフトテニス連盟
東日本選手権大会	7/13～14	福井市他	福井県ソフトテニス連盟
国民体育大会	10/4～7	世田谷区	東京都ソフトテニス連盟

日本実業団リーグ	11/1～3	福知山市	京都市ソフトテニス連盟
全日本クラブ選手権大会	11/2～3	白子町	千葉県ソフトテニス連盟
ジュニアジャパンカップ	11/15～18	宮崎市	宮崎県ソフトテニス連盟
日本リーグ	11/21～24	広島市	広島県ソフトテニス連盟
全日本インドア選手権大会	26・2/2	大阪市	大阪府ソフトテニス連盟

(公財)日本卓球協会

1. 実施概要

近年地球温暖化が進み環境変化による大きな生態の変化も考えられることから今後地球環境を如何に保つか国際会議も開かれ大きな課題が一人ひとり課せられている事で、我々日本卓球協会に属する関係者も取り組める環境活動の重要性を十分認識し「温暖化防止」をスローガンに継続的活動を積極的に行った。

活動は全国中学大会・全国高校大会・全国大学大会・全国社会人大会・全国レディース大会等各カテゴリーから環境委員を設け、それぞれの全国大会では環境問題を取り上げてゴミ問題等小さな事から実行した。

2. 平成25年度事業活動

- 大会時地球環境改善ポスター掲示・環境パンフレットの配布など啓発活動実施
- 日本卓球協会 平成25年度第一回理事会（平成25年6月8日）時、JOC委員会環境保全・啓発の為環境ポスターを掲示し会議を行い全国理事の方に環境問題の啓発活動を行った
- 各カテゴリーの全国大会時清掃活動実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- 全国高校総体（平成25年7月27日～8月2日）時、環境省地球環境改善ポスター掲示・環境パンフレットの配布など啓発活動実施。
- 日本卓球協会 平成25年度第一回理事会（平成25年6月8日）時、JOC委員会環境保全・啓発の為環境ポスターを掲示し会議を進めた。
- 平成25年度全日本選手権（平成26年1月14日～19日）時、環境・エネルギーに関しての全国大会会場内ではゴミの分別回収並びに大会終了時は観客席のゴミ回収を役員等が行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

これまでポスター掲示・環境パンフレットの配布また協会会議・各大会等で環境啓発活動を実施、選手・役員に環境改善の重要性を訴え理解を得る事はできた。今後はより環境改善効果の上がる活動（用品のリサイクル活用等）と積極的に環境省地域環境局の活動援助など幅広く協力して一層の環境保全のアピールに努めていきたい。

5. JOCスポーツ環境専門部会員 植松克之

地球温暖化が加速、地球の生態系の変化が顕著になった昨今、世界は今後の地球の環境保全について「京都議定書」に見られる1997地球温暖化防止京都会議をはじめ、世界の各地で、

環境問題・環境保全にかかわる国際環境会議が開催されている。

(公財)日本卓球協会も「温暖化防止」をスローガンとして、日本卓球協会傘下の全国都道府県支部協会をはじめとして、実業団・学連・高体連・クラブチーム等の会員への積極的な啓発活動を行っている。“帰るときは来たときよりも美しく”、“資源を有効に活用しよう”をスローガンに具体的な取り組みとして、ホープス・カデット・全国中学・全国高校・全国大学・全国社会人・全国レディース・全国マスターズ等各種大会において競技者、競技運営役員の立場からの環境保全活動を実践した。

(公財)日本卓球協会諸会議において、環境保全に関する活動を細部にわたり報告し、これからの環境保全の在り方等、環境保全の協力を求めた。

今後の取り組みについては、2020東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れながら環境省地球環境局の指導を仰ぎながら、JOCスポーツ環境専門部会の指導方針を取り入れ、全国都道府県市町村の行政の指導・協力の下「温暖化防止」をスローガンとしての環境問題・環境保全に取り組んでいきたい。

(公財)全日本軟式野球連盟

1. 実施概要

公益財団法人全日本軟式野球連盟はスポーツ振興に寄与する目的から、平成17年度に環境担当委員会を設置し事務所内及び競技会での環境への取り組みを実施し、環境保全啓発ポスター、チラシを作成、競技会場で掲出・配布し当連盟関係者・大会参加者及び観戦者に向けて環境保全の啓発を促し環境保全意識の向上を図っている。

平成19年から各支部より使用済軟式野球用具を集め、野球用具の入手困難な国や地域へ寄贈する活動も6年目を迎えた。

平成24年度から、一部の事務連絡等の文書配布において、ペーパーレス化を図り、加盟団体支部(47支部)に電子メールで配信を実施している。

2. 平成25年度事業活動

●競技会等での環境啓発活動と環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

【競技会等での環境啓発活動】

連盟主催大会及び講習会にて、JOC環境啓発ポスター、JOC環境啓発バナーの掲出、全軟連環境啓発ポスターの掲出、JOC環境啓発パンフレット、全軟連環境パンフレットの配布を行った。

また、競技会場においては、ゴミの分別・ゴミ持ち帰りの呼び掛けなど、選手や観戦者に対して環境啓発活動を行った。

【環境活動】

日本ではゴミとなる使用済み野球用具が海外の国や地域によっては、まだ使用でき、野球の普及にもつながるといった観点から、国際協力機構(JICA)の「世界の笑顔のために」プログラ

ムに参加する形でボール、キャッチャー用具、ヘルメット、ユニフォームなどを寄贈している。平成25年度の寄贈国は、フィリピン、コロンビア、カメルーン、ケニア、パプアニューギニア、エクアドル他、合計14カ国である。

その他、他団体や個人で海外の野球を支援している方々を通じ、使用済み野球用具の寄贈を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスター、バナーの掲出、環境パンフレットの配布やゴミ分別・持ち帰りの呼び掛けにより、全国大会においては参加者の環境への意識向上につながってきた。今後は、各都道府県大会においても積極的な環境啓発活動を行えるよう、加盟団体支部へも呼びかけていきたい。

屋外スポーツである軟式野球は、地球温暖化等による異常気象や大気汚染が進むことにより、競技に与える影響を理解した上で、改めて環境保全に対する取り組みを積極的に行っていきたい。

(公財)日本相撲連盟

1. 実施概要

相撲大会会場は、国技館や各県の県立武道館特設土俵など屋内の場合と靖国神社相撲場や堺市大浜公園相撲場など屋外の場合に分かれている。

本連盟として、環境活動の重要性を認識し、それぞれの大会では、一般のゴミの分別の徹底と持ち込んだゴミは、持ち帰るという活動を今後も継続的に実施している。

2. 会場別対策

- 屋内の大会でゴミが放置されていることは殆ど見当たらない。
- 屋外においても持ち帰りを指導しているため、ゴミについての問題はない。

3. 相撲競技に特異な注意点

- 屋内相撲場では、特に砂の扱いに注意が必要である。

小中学生の大会では、少年選手達が砂を付けたまま観覧席に入ることがある。

砂は足などのほか、まわしにも付いているため、国技館の枱席などにはまわしを付けたまま入ることを禁止している。よって砂を取るための清掃費は、数十万円かかる場合がある。

監督会議で注意をするほか、大会当日の放送や見回りを繰り返しており、現在では殆ど問題がなくなってきている。

4. 平成25年度の具体的な取り組みと今後の取り組み

国体競技(東京都大島町)や全日本選手権(東京都・国技館)の会場において、『来たときよりもキレイに!』のポスターを掲示し、選手、監督、役員などの関係者全員に、ゴミの分別と持ち帰りの徹底を促した。

これからは今までの取り組みを継続するとともに、スポーツと環境が大きなかわりを持つことを多くの方に理解してもらえるように、大会会場等にポスターや横断幕等を掲示して環境保全に努めていきたい。

(公社)日本馬術連盟

1. 実施概要

子どもたちと一緒に取り組む「環境とスポーツのあり方」をスローガンに、継続的活動を積極的に行った。

2. 平成25年度事業活動

- 馬術競技大会時に環境啓発ポスター、バナーの掲示
- ジュニア競技大会時に子どもたちに対し環境活動の啓発
- 連盟機関誌「馬術情報」に、定期的に「スポーツの力でさわやかな未来を」のJOCスポーツ環境専門部会ポスターを掲載。同様に全日本大会プログラムへも掲載し、環境への啓発活動を実施。

3. 具体的な活動実績内容とその成果

〈馬術競技大会時に環境啓発ポスター、バナーの掲示〉

日本馬術連盟主催大会において、環境啓発ポスター及びバナーの掲示、環境パンフレットの配布を行い、啓発活動に努めた。また、ゴミの分別収集を徹底した。

〈ジュニア競技大会に子どもたちに対し、環境活動の啓発〉

ジュニア選手に対し、競技大会前に環境パンフレットの配布を行い、大会役員から環境活動について説明を行った。

大会名(開催場所)	参加選手数
第30回全日本ジュニア馬場馬術大会(御殿場市馬術・スポーツセンター)	88名
第34回全日本ジュニア総合馬術大会(山梨県馬術競技場)	55名
第37回全日本ジュニア障害馬術大会(山梨県馬術競技場)	156名

4. 全体的な成果と今後の課題

平成25年度は、引き続きジュニア選手たちを中心に啓発活動を行った。この活動を積極的に続けることにより、啓発から実践に繋がるものと考えている。今後も馬術競技大会を通じて、多くの方に環境に対する啓発活動を続けていきたい。

(公財)全日本柔道連盟

1. 実施概要

(公財)全日本柔道連盟では、前年度に引き続き、事務局が中心となって、環境保全にかかわる啓発・実践活動に取り組んだ。

当連盟主催の大会・イベントにおいて、横断幕（バナー）・ポスターを会場内に掲示し、選手や当連盟役員とも協力して、スポーツと環境保全活動の啓発に努めた。練習会場や観覧席においては、担当の係員を配置し、選手や観客による自発的なゴミ分別を徹底した。

2. 平成25年度事業活動

- 大会時の環境啓発ポスター、バナー掲示
- 大会プログラムへの掲載
- 大会・イベント時の会場内におけるゴミ分別の徹底

3. 具体的な活動実施内容とその成果

全国レベルの大会だけでなく、都道府県柔道連盟・協会における柔道ルネッサンス委員会が主導し、多くの都道府県において、大会時の観客や保護者に対するゴミ持ち帰りの呼び掛け、ゴミ分別の徹底、参加者全員による大会終了後の会場内清掃等、会場美化運動、あるいは社会奉仕として地元地域の清掃活動を実施している。

柔道界としては、嘉納治五郎師範の遺訓である「精力善用」「自他共栄」という柔道の根本原理を、「人と自然との共存」というテーマにおいて応用実践することで、今後も環境保全に努めていきたいと考えている。

4. JOCスポーツ環境専門部会員 山口 香

JOCスポーツ環境専門部会では以前にも部会員として参加させていただいたが、今期再び活動を行わせていただくことになり嬉しく思っている。柔道は室内競技であり、環境についての問題意識や関心を持っていただくためのアプローチが難しい部分があるが、社会に関心を持つことは柔道家として重要な役割であり、選手の発言や行動は多くの人に影響力があることを伝えるようにしている。特に2020年東京オリンピック・パラリンピックが決まった今、日本に求められるものは大きい。10月にはソチで行われたIOC世界スポーツ環境会議にも出席した。環境においてもスポーツが担っている役割があることを再認識できた。全日本柔道連盟には環境委員会はないが、教育普及委員会、アスリート委員会などにおいて環境活動の啓発を行うように働きかけをしていきたい。

(公財)日本ソフトボール協会

1. 実施概要

屋外競技であるソフトボールが、地球温暖化等による天候不順や、大気汚染によって実施できなくなる事を危惧し、JOCスポーツ環境専門部会のスローガンである「この星にスポーツを」、また(公財)日本ソフトボール協会の環境スローガンである「ホームラン 入ったスタンド ゴミはなし!」を、大会毎にバナー掲示をし、継続的活動を積極的に行った。また、今年度より各大会のプログラムに、環境に関する標語もしくはメッセージを入れ、より積極的な活動を進めた。また、本協会主催のソフトボール講習会、ソフトボールフォーラムにおいて、環境啓発を行った。

2. 平成25年度事業活動

- 大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
- 各大会のプログラムに環境標語もしくはメッセージを入れる
- 講習会等でのオリンピックを中心とする講師による環境啓発

3. 具体的な活動実施内容とその成果

本協会主催大会にて、環境啓発ポスター、バナー掲示を行い、啓発活動を行った。また、本協会が主催する各大会のプログラムに環境標語もしくはメッセージを入れ、啓発活動を行った。また、本協会が全国9地区で行うソフトボールフォーラムにおいて、講師を務める指導者(主にオリンピック)に、講習の際、環境問題の啓発のためのソフトボール版「5分間スピーチ原稿」(別添)を作成配布し、環境啓発を講演の内容に織り込んだ。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、バナーの掲示や、ソフトボールフォーラムでの講演などの啓発活動を行ってきた成果が実り、選手をはじめ多くの関係者及び観客に環境啓発の知識や、理解を得ることができた。

来年度以降も引き続きより多くの方々の環境に対する理解を求めて、より積極的に環境保全に努めていきたい。

ソフトボールと環境についての5分レクチャー原稿
(5分のレクチャーの機会がある場合は次の話をお願いします)

- ### 1 ソフトボールと環境についての理解
- (1) ソフトボールを愛する私たちも皆、地球人
① スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係がないと思われるかもしれませんがそれは違います。
② ソフトボールをするためには、「きれいな空気」、「試合や練習の後に飲みおしい水」、「プレーをする汚染されていないグラウンド」が必要です。また、人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に、環境保全を実行する義務があります。
③ ソフトボール協会では、みんなが環境保全するため、全国から環境標語を募集し、最優秀者に当時東京の中学生の佐野清希さんの「ホームラン 入ったスタンド ゴミはなし!」が選ばれ、その標語の横断幕を作り全国の大会でフッスンに掲示しています。
④ ソフトボールがオリンピック種目に入るためには、環境対策が重要な要素の一つ
JOC(国際オリンピック委員会)は、オリンピック運動は「スポーツ」「文化」「環境」を三本の柱とすることを定めて、種目採用の基準にその種目がどのくらい環境対策に配慮しているかが、選定の大きな要素になっています。
 - (2) 私たちの宇宙船(地球号)の乗組員として環境を大切にすることを実行する。
(3) Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、身の回りのことを実行する)
① 環境保全を推進するにあたり大切なことは、まず、地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、また、その原因がどこにあるかをしっかり知ることで、
② そして、地球規模で起こっている問題を考えて対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てばできる簡単なことです。
- ### 2 協力依頼
- (1) まず、環境でどのような問題があるかを理解しましょう。
地球規模で温暖化が進み、それが原因で気候が大きく変動し、農業・漁業・多くの産業が大きな打撃を受けています。
(2) 高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を享受している反面、二酸化炭素を多く排し温暖化など環境問題が起きています。
(3) 私たちがソフトボールをやるうえで実行できること
① ソフトボール会場へは、できる限り公共の交通機関が自転車、徒歩で行く。
② 全てのゴミ(食べ残し、ボトル、ビニール袋等)は、設置されているゴミ箱に分別して捨てるか、家に持ち帰る。リサイクルするもの・廃棄するものに分別する。
③ クラブ、また各チームとして、菜園作り、地域の清掃、植樹などの環境活動に参加する。参加が難しい場合、そのような活動を率先して推進する。
あるインターハイの会場で、試合後、参加したチームがきれいに会場清掃しただけでなく、皆さんが使用したトイレまできれいに清掃して行ってくれた例もあります。
④ 使い古した用具は整理整頓し、適切に処理する。(分別して市の施設で処理など)
 - (4) 私たちが社会生活の中でできること
a エネルギー資源を節約するために3R (Reduce, Reuse, Recycle) の実行
a 削減 (Reduce) : まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです(例: 電機や紙の削減)
b 再使用 (Reuse) : 同じものをできるだけ多く回数使うように工夫することです。(例: サイズの問題で着ることの出来なくなったウェアを使える人に回す)
c リサイクル (Recycle) : 使えなくなったものを上手に分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。(例: ペットボトル-繊維)
③ 温暖化の原因である二酸化炭素を減らすため炭酸水回収作用(二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用)をする炭酸水を増やす手伝いをしましょう。
* 環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行しましょう。

ソフトボールをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進することが大切です。できればスポーツマンが積極的活動を推進して社会の中で環境保全のリーダーとなるように願っています。

* ソフトボールの講習会などでは、**講話は5分**を重点に、お話をしてください。2~3分で対応できると思っています。

(公財)日本バドミントン協会

1. 実施概要

一スポーツ団体として環境活動の重要性を認識して、環境委員会を中心に新しいことはできないものの地道に「出来ることから始める」をスローガンに登録会員全員に向けて、環境保全の意識を高めることを中心に地道ながら継続的な活動を実施した。そこから本会だけの活動に止まらず、より多くの人に発信していけるような活動を目標に取り組む。

2. 平成25年度事業活動

- ①大会時環境啓発ポスターの掲示
- ②大会の要項に環境啓発項目の記載他、大会時の環境活動
- ③環境保全として、大会時、合宿時にゴミの分別活動実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発ポスターの掲示

本会評議員会、日本リーグ全国16カ所他、主催20大会において、環境啓発ポスター、パンフレットの配布を行い、啓発活動を行った。

②大会の要項に環境啓発項目の記載他、大会時の環境活動

本会主催20大会及び日本リーグの要項に以下の三つの事項を必ず記載し、環境活動の重要性を認識させている。

- ゴミの分別収集に協力してください。
- 部屋から出るときにはエアコン、テレビ、ライトのスイッチを消してください。
- マイ歯ブラシを持参して大会に参加してください。

また、大会開催にあたり、本会の案内、大会要項の申し込み方法、連絡方法などにあたり電子メールを活用して、紙の削減を行い、より環境保全の意識を高めることを徹底した。

③環境保全として、大会時、合宿時にゴミの分別活動実施

大会時における役員、参加選手へのゴミの分別を徹底させている。

本会強化合宿のナショナルチームからジュニアナショナルチームまでの選手に対しては味の素ナショナルトレーニングセンターの練習における年間のドリンク類の使用量の多さに注目し、キャップと本体の分別、ゴミの分別を徹底し、環境活動の重要性を認識させている

4. 全体的な成果と今後の課題

本会では環境委員会を正式に平成18年4月1日より立ち上げ、主に大会時におけるポスター掲示、パンフレット配布など地味な活動を中心に行ってきた。選手を始め、加盟団体の関係者、登録会員には環境啓発の知識、理解を得られたと認識している。今後は継続的に現在の活動を続けるとともにより環境にやさしい、具体的な実践活動を目指して、スポーツと環境のかかわりを多くの方に理解していただくように活動していきたい。

(公財)全日本弓道連盟

1. 実施概要

スポーツ団体として環境活動参加の重要性を認識し、行事参加者各位へ啓発活動を行った。

2. 平成25年度事業活動

- ①主催行事における環境啓発活動
- ②主催行事における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①主催行事における環境啓発
本連盟主催大会にて環境啓発ポスターを掲示し啓発活動を行った。
本連盟主催講習会において主催者挨拶の中で環境に関する内容を話した。
- ②主催行事における環境活動
ゴミの分別を徹底し、資源の再利用に努めた。
照明、空調の調整をこまめに行い、CO₂削減について取り組んだ。
大会速報を掲示のみに留め、紙の使用を削減した。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスターの掲示など啓発活動により、参加者に環境保全を促すことができた。25年度は最高位の大会での活動によりトップ選手ならびに役員の意識の啓発に努め、地元での活動に期待できる。

これからも個々の意識を高め、実践活動につなげていくことが必要だと考えている。

(公社)日本ライフル射撃協会

1. 実施概要

(公社)日本ライフル射撃協会は、環境保全に関する活動の重要性を認識し、総務委員会を中心に環境保全に関する取組みと会員の環境意識の向上を図る活動を行っている。

2. 平成25年度事業活動

- ①競技会、会議等での環境ポスター掲示
- ②射撃場施設でのゴミの分別収集の徹底とゴミ持ち帰り運動の実施
- ③競技後の使用銃弾(鉛弾)の回収と適切な処理作業
- ④環境保全に関する内容を講習会等で実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①競技会、会議等での環境ポスター掲示
全国加盟団体や関係団体に環境ポスターを配布するとともに全国競技会で環境ポスター

を掲示し、会員への啓発に努めた。

②射撃場施設でのゴミの分別収集の徹底とゴミ持ち帰り運動の実施

射撃場施設でのゴミ分別収集を徹底するとともにゴミを持ち帰ることによる施設から発生するゴミの減量化に努めた。

施設駐車場でのアイドリング禁止や施設内照明電力等の省エネを呼び掛け、施設利用者全員の協力で活動を展開した。

③競技後の使用銃弾(鉛弾)の回収と適切な処理作業

競技に使用する鉛弾の回収について、各射撃場において適切な処理を行った。

④環境保全に関する内容を講習会等で実施

(公財)日本体育協会公認コーチ養成講習会等において、環境保全についての取り組み内容を講義で説明することにより指導者への意識の向上に努めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

競技会での環境に関する啓発を多くの機会をとらえて行うことにより、会員の意識の向上に成果があった。今後、競技会場や都道府県事務局等への環境ポスターの掲示をはじめ、機関誌やウェブ協会サイト上への環境に関する記事掲載、講習会及び研修会での環境教育のカリキュラムの導入等を引き続き実施する。

ゴミの分別収集の徹底とゴミの減量化はかなり進んでいると思われる。特に、使用銃弾(鉛弾)の回収と適正な処理は全国で適切に処理されている。

施設利用時の場内清掃の励行(クリーン運動)やゴミのポイ捨て禁止の徹底、ゴミの持ち帰り、場内駐車場での静かな運転とアイドリングの禁止、射撃場施設への緑化と花の栽培の推進及び施設管理上の省エネの実践、グリーン購入について、会員の理解と協力を得る中で拡大する。

今後も地道な活動ではあるが、具体的な行動指針を示す中で、身の周りのことから実施する。

(一財)全日本剣道連盟

1. 実施概要

全国の剣道愛好家から中古剣道具をいただき、剣道具の入手が困難な海外の剣道連盟や団体への寄贈を継続的に実施することを通して、身近なところから「地球規模の環境保全意識」を啓発・実践することに力を注いだ。

2. 平成25年度事業活動

- ①中古剣道具の海外への寄贈を継続
- ②環境保全啓発ポスターの活用
- ③大会等でのゴミの分別回収等の実践

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①中古剣道具の海外への寄贈を継続

平成25年度も全国から寄せられた中古剣道道具を補修し、ボリビアをはじめとする8か国地域に寄贈した。

②環境保全啓発ポスターの活用

全国剣道大会等の開催時、また職場においてもポスターを掲示して環境保全意識の高揚に努めた。

③大会等でのゴミの分別回収等の実践

全国剣道大会等でのゴミの分別回収（弁当箱・ペットボトルの専用回収）、事務所内のリサイクルボックスの利用を促進した。

4. 全体的な成果と今後の課題

中古剣道道具の補修・活用により剣道の国際的普及の一翼を担うことができた。国内においては、更なる「剣道と環境保全」意識の高揚と活動内容の検討を進めていきたいと考えている。

(公社)日本近代五種協会

1. 実施概要

当協会は練習会・記録会・大会を実施するにあたり、可能な限りの方策を持って環境の保全と負担の低減をはかり、参加者に対しても協力の要請と啓発活動を行った。

五種類の競技を行う運営者と競技者は、各競技の主管協会とも連絡を密に保ちながら互いの持つ環境保全に対する知識と経験を学びあうことができる。その意味からは、異なる競技を主管する協会が個別に活動するだけでなく協力し合いながら効率的に事業を行いうる可能性が有る。

近代五種競技参加の前段階の位置付けの近代3種競技は若年の参加者が多く、幼少期よりスポーツにおける環境保全意識を浸透させることが可能と思われる。

2. 平成25年度事業活動

6 / 16(日) 近代3種大会in木曾 長野県木曾郡

6 / 30(日) 近代3種大会in奄美 鹿児島県奄美市

7 / 7(日) 近代3種大会in野幌 北海道江別市

8 / 4(日) 近代3種大会in有田 和歌山県有田市

8 / 11(日) 近代3種大会in串間 宮崎県串間市

9 / 8(日) 第一回近代3種日本選手権大会・

第8回JOCジュニアオリンピックカップ

9 / 14(土)～16(月祝)

第53回近代五種日本選手権大会 自衛隊体育学校・JRA馬事公苑

その他、練習会及び記録会

3. 具体的な活動実施内容とその成果

以下の項目に留意しながら上記の事業を行った。

- ・環境啓発ポスターを集中掲示して啓蒙効果を高めた。

- ・地域ごとの大会バナー上の開催年月日の書き換え等を実施して再利用を図った。
- ・役員の移動に際し可能な限り公共交通機関を利用して自家用車の利用を抑制した。
- ・ゴミの持ち帰り協力要請と競技会場における分別を励行した。
- ・近代3種競技では手動式競技用スポーツガン、近代五種競技では国際ルールに則りレーザーピストルを使用して、フロンガス使用等で生ずる環境負荷をゼロとしている。
- ・近代3種競技終了後は競技運営者参加者全員協力してタマを集め、施設の環境を保護すると同時に環境意識向上に努めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

競技参加者と役員が当協会の行う環境保全のための活動を通じて取得体得した知識と意識を、自らが所属する各地域でのスポーツ活動のみならず日常生活や業務においても実践することを望む。

私どもは環境保全のための活動が、経費抑制にも寄与することを経験として学んだ。創意工夫と熱意をもって限られた予算を無駄無く有効に使いながら、来るべき2020年東京オリンピックを環境面でも大成功に導くために努めて参りたい。

より一層のご指導を賜りますようお願いを申し上げます。

(公財)日本ラグビーフットボール協会

1. 実施概要

日本ラグビーフットボール協会は、総務委員会に環境部門を設置して7年目を迎え、環境部門委員によりスポーツにおける環境活動への取り組み事例の研究及び検討を行い、『社会貢献活動の1つと位置付け、ラグビーを通じて環境保全に関する啓発・実践活動の推進を図る』ことをテーマとして下記の事業を実施した。

2. 平成25年度事業活動

- 日本協会『環境保全活動推進宣言』に基づいた推進活動の展開
- 地球温暖化防止のための『チャレンジ25キャンペーン』(環境省主管)
加盟メンバーとして環境保全活動への協力
- 協会内各委員会との連携・協力体制により環境PR活動推進を図る
- 日本代表チーム、トップリーグとのコラボレーションによる相乗効果を図る
- 2014年3月19日開催のJOC環境担当者会議に参加し他団体の取り組み事例を研究
- 2016年リオデジャネイロオリンピック(公式競技)、2019年ワールドカップ(日本開催)、2020年東京オリンピックに向けての環境PR発信

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①広報活動(環境啓発PR)

広報委員会との連携によりホームページ、機関紙、大会プログラム、メンバー表等への掲出により関係者、ファンへの環境保全運動を推進した。

- ・「FOR ALL, FOR EARTH」の日本協会環境タイライン活用

- ・「チャレンジ25キャンペーン」の露出PR
- ②試合（競技場）を観客・ファンへの環境啓発活動のチャンスと捉えてのPR推進、場内アナウンスにより、ゴミ分別回収協力の呼び掛け
 - ③秩父宮ラグビー場での「エコキャップ運動」を展開
ペットボトルキャップを回収し、資源の再利用を促進することでCO₂排出量の削減、キャップの再資源化で得る売却益をもって発展途上国の子どもたちにワクチンを届ける活動を行った。また、キャップを回収した総数、それを焼却した際に発生するCO₂の量、提供できるワクチン数は定期的にホームページ等で報告している。
 - ④試合開催時にチャレンジ25イベントブースを設置しファンへの参加協力呼びかけ
 - ⑤トップリーグ参加チームと日本協会による「TRY for GREENプロジェクト」を展開
トライ数に応じた寄附により、網走市の植林ならびに森林保全活動「トップリーグの森」への支援を行う（2月12日ジャパンラグビートップリーグ年間表彰式にて北海道網走市水谷市長へ寄付金を寄託）。
 - ⑥省エネルギー、エコ商品利用、試合観戦時の公共交通機関利用の推奨

FOR ALL, FOR EARTH.

(公社) 日本山岳協会

1. 実施概要

当協会における環境保全に関する活動は、登山者がフィールドとしている山岳地域での自然環境保護活動を主体とし、自然保護委員会を組織してスポーツ環境活動に取り組んでいる。

2. 平成25年度事業活動

- 独自制度である「自然保護指導員制度」(現在1500名を超える登録数)の普及
- 自然保護委員総会(各都道府県に委員を1名配置)の開催
- 環境省や日本を代表する山岳団体などと連携しての山岳自然保護活動
- 山岳地域におけるゴミ持ち帰りやトイレマナーの向上などを推進
- 各地における清掃登山や登山道の補修などを実践
- 環境省自然公園指導員を推薦し、自然公園内の適正利用や安全指導を推進等年間を通して活動している。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

平成25年度の特記すべき活動としては、「守ろう、伝えよう、山岳の自然と文化」を合言葉に、山岳自然を通して、山岳自然保護の集い全国集会(第37回自然保護委員総会)を平成25年9月14日～16日に埼玉県比企郡小川町で開催し、全国から107名の関係者が集った。国土面積の7割が山岳地で占められている我が国にあっては、山岳地の環境保全が大事であるとし、集会では各地の代表から活動内容や課題などの発表や討論、3名の有識者による環境問題に関する講演を聴講するなど、自然環境に対する認識を新たにする集会となった。

当協会では独自の制度として、「自然保護指導員制度」を運営している。この制度は、登山をとおして、日本の素晴らしい山岳自然を後世に引き継いでいくよう、全国各地の加盟団体から1500名の登録を受けて、正しい登山者マナーを広く呼び掛け、自然環境の保護に向けた活動を推進している。

◆登山者マナー

1)自然を大切にす

この恵み多い自然を、末永く後世に伝えるため、自然と友達のように接し大切にす。

2)水資源を大切に

水は山からの恵みであり、あらゆる生命の源であるから、水源を汚さない。

3)テイクイン・テイクアウト

山に持ち込んだものは全て持ち帰る。山にはゴミを残さない。

4)トイレマナーを守る

登山口で用を済ませて、携帯トイレの使用を習慣付ける。山岳トイレでは利用ルールを守る。

5)ローインパクトに心がける

野生動物への配慮(餌やり、ペット同伴など)、移入植物の侵入への配慮(靴の泥に混入)。

(公社)日本カヌー連盟

1. 実施概要

本連盟では、「環境対策委員会」において従来より「クリーンリバー・クリーンウォーター活動」を推進し、JOCスポーツ環境専門部会提供ポスター及び横断幕(バナー)を国内主要競技大会期間中に掲示することで環境保全に対する啓蒙活動を行ってきた。

「クリーンリバー・クリーンウォーター活動」は1981年より各種大会において利用する河川、湖等において競技会開催期間中の水上及び周辺施設内の清掃を行うことを主にして継続的に活動している。

2. 平成25年度事業活動

- ①大会時環境啓発ポスター、横断幕の掲示
- ②競技会等における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会時環境啓発ポスター、横断幕の掲示
本会主催大会にて環境啓発ポスター、横断幕掲示を行い、啓発活動を行った。
- ②競技会等における環境活動
分別収集用のゴミ箱を設置し、競技会場周辺の自然環境を美しく保つよう呼びかけた。
競技会終了後は、選手も加わって撤収、清掃活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

自然環境下で行うスポーツであることから、環境保全に関しては選手・役員ともに関心が高く、競技会後の撤収・清掃活動等はトップレベルの選手が率先して行っている。若手選手や子どもたちにも良い影響を与えており、今後は観客を含め、より多くの方に環境に対する意識を高めてもらえるよう積極的な活動を行っていききたい。

(公財)全日本空手道連盟

1. 実施概要

昨年度に引き続き、日本空手道会館内の節電や、その他会館内外で環境保全に関する取り組みを行った。

2. 平成25年度事業活動

- ①徹底した節電
- ②大会や講習会等におけるゴミ分別収集徹底の呼びかけ

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①日中は廊下の電灯をすべて消した。また、エレベーター、エアコンのスイッチの近くに掲示物を張り、日本空手道会館を利用するすべての方に節電への意識付けを行った。冷暖房の使用を控えたり、設定温度を控えめにしたほか、階段で移動を行う姿が多くみられた。また、職員は日常の業務においても、夏は窓を開け放ちエアコンの使用を控え、冬は暖房の温度を控えめに設定し、上着を着たりひざかけを使用するなど、節電に努めた。
- ②大会会場や、日本空手道会館を利用するすべての団体に対しゴミの分別を呼び掛けた。

4. 全体的な成果と今後の課題

当連盟では継続して徹底した節電を行っている。本会館を使用する団体の中には、真冬の寒さの中でも暖房の使用をしないという、協力的な団体も見受けられた。今後も節電に対する取り組みを継続していく。

また、掲示物を利用した呼び掛けは効果があり、大会実行委員では自発的にゴミの分別を行う姿が見られるようになった。

(公社)全日本銃剣道連盟

1. 実施概要

環境保全活動の重要性を認識し、当連盟主催の各種大会・講習会において、参加者に対し積極的な啓発活動を行った。

2. 平成25年度事業活動

- 大会会場に環境啓発ポスターを掲示
- プリントを配布して、大会参加者に対するゴミ分別の徹底
- 照明、空調等の調整による節電

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会会場に環境啓発ポスターを掲示し、選手や関係者に対し啓発活動を行った。
- ②事務室や道場の電気、空調をこまめに管理し、使用していない電化製品のプラグは抜く等、節電に努めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全の重要性を幅広くPRすることができ、選手や関係者の意識も向上してきている。今後もこの活動を継続して行い、環境保全に貢献できるよう努めていきたい。

(公財)全日本ボウリング協会

1. 実施概要

平成25年10月より協会の委員会構成が再編されたことにより、スポーツと環境保全への啓発活動は「普及・広報部会」の担当となった。「施設を大事にすることが、自分の最高のプレーを引き出す」というテーマを継続し、具体策としての大会における活動は「競技委員会」の協力のもと実施した。

2. 平成25年度事業活動

- 協会の大会、行事における環境啓発ポスター掲示とパンフレット配布
平成25年度理事会、評議員会、協会主催各大会、審判員資格試験等
- 協会主催の各大会、行事での環境保全のためのルール、マナー等周知徹底と指導
- 成績公開の効率化と記録用紙使用量削減
競技成績の大型スクリーンによる公開、webサイト連動による効率化
データ活用によるスコアシート使用削減、最終成績一覧表のデータによる提供

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①協会の大会、行事における環境啓発ポスター掲示とパンフレット配布
- ②協会主催の各大会、行事での環境保全のためのルール、マナー等周知徹底と指導

協会主催大会や、理事会・評議員会などの会場に環境啓発ポスターを掲示した。一部の大会ではプログラム冊子に環境啓発の広告を掲載し、選手・役員への環境啓発パンフレットの配布を行った。また全ての協会主催大会の「監督会議」や「選手ミーティング」では、環境保護とルール、マナーの遵守について注意喚起を行い、大会中は場内アナウンス等により、選手、役員、観客など、大会にかかわるすべての人がマナーを意識し守るよう導くことを目標とし実施した。

③成績公開の効率化と記録用紙使用量削減

「競技成績の大型スクリーンによる公開」と「webサイトでの成績公開」の併用による効率化が図られた。特にwebサイトでの公開は実施大会が前年度の8割から9割に増加したうえ、参加全選手(チーム)の順位・スコアも公開したことで選手の利便性が高まった。

「データ活用によるスコアシート使用削減」も前年度より継続して実施した。また最終成績一覧表はコピーを配布していたが、メール送付対応を始めたことにより、成績公開方法の改善と合わせて、コピー用紙や専用の複写式スコアシートの消費量はさらに減少傾向となっている。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全のためのルール・マナーについては、競技に慣れていないジュニア選手や、指導者・審判員養成の場面で指導に力を入れることが先々の徹底につながると考えている。

成績公開に関しては、選手側の「結果を素早く、スムーズに知りたい」というニーズに応えること、記録スタッフの負担減やコストの削減といった課題が解決に近づいた1年となった。しかしwebサイトに関しては、「web上に自分の成績が載るのは抵抗がある」という意見もあった。アマチュア競技者だけに難しい部分もあるが、選手に説明し理解を求めながら、運営側と選手側相互に良い効果をもたらすように活動を続けていきたいと思う。

(一財)全日本野球協会

1. 実施概要

日本野球界全体が環境活動の重要性を認識し、「～愛する自然と野球のため～アオダモ植樹キャンペーン2013」をスローガンに北海道において植栽環境保全に貢献しながら、バット材として世界一と言われているアオダモの“バットの森”を育てる取組みを展開している。

2. 平成25年度事業活動

- 植林活動
- 木製バットリサイクル活動
- 募金活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①植林活動

- ・日 程：平成25年7月20日（土）10:00～11:30
- 場 所：苫小牧国有林 1357林班い2小班

参加者：大野奨太（北海道日本ハム）、苫小牧駒澤大学野球部員、苫小牧工専野球部員、苫小牧東高校野球部員、苫小牧スポーツ少年団野球部、美園スラカーズ、飛翔スワローズ、豊川スポーツ少年団、地元ボランティア、林野庁北海道森林管理局、北海道庁及びアオダモ資源育成の会関係者 以上 158名

植樹本数：200本（シカ対策との同時併行作業）

・日 程：平成25年9月28日（土）10:00～11:30

場 所：由仁町道有林 119林班2小班

参加者：東海大学北海道キャンパス野球部員、札幌国際大学野球部員、札幌新陽高校野球部員、札幌開成高校野球部員、地元ボランティア、林野庁北海道森林管理局、北海道庁及びアオダモ資源育成の会関係者 以上 201名

植樹本数：300本

・日 程：平成25年10月12日（土）10:00～11:30

場 所：新冠国有林 2101林班る小班

参加者：地元ボランティア、林野庁北海道森林管路局及びアオダモ資源育成の会関係者 以上 77名

植樹本数：1,000本

②募金活動

ミニバット「BAT FOREVER」募金の実施。本会の主旨を広く一般に理解していただくとともに、全野球人のこの運動への参画を願い、募金商品としてミニバットを製作した。破損バットをリサイクルしたこのミニバット2本を購入することで1本のアオダモの苗木を植える事ができる。

4. 全体的な成果と今後の課題

野球界はスポーツと環境が大きなかわりを持つことを以前から考え啓発し、実践してきた。すでに「NPO法人アオダモ育成の会」が出来て10年以上経過している。今後も変わることなく環境保全に努めていきたい。

(公社)日本カーリング協会

1. 実施概要

全国のカーリング専用ホールへポスターの展示を行うとともに、環境保全活動に対する意識の向上を目指した。

2. 平成25年度事業活動

●専用施設へのポスター掲示

どうぎんカーリングスタジアム(北海道)

軽井沢アイスパーク(長野県)

カーリングホール御代田(長野県)

青森市スポーツ会館(青森県)

北見市 常呂カーリングホール(北海道)

妹背牛町カーリングホール(北海道)
北海道立サンピラーパークカーリング場(北海道)

3. 具体的な活動実施内容とその成果

日本カーリング協会主催大会においてポスターの掲示を行い、大会参加者、スタッフを含めゴミの分別回収の徹底をし、環境への意識の向上を図った。

〈実施大会〉

- ・2013ソチオリンピック最終予選日本代表決定戦
平成25年9月11日～17日 北海道札幌市：どうぎんカーリングスタジアム
- ・2013ユニバーシアード日本代表決定戦
平成25年9月26日～29日 長野県軽井沢町：軽井沢アイスパーク
- ・第22回 全農日本ジュニアカーリング選手権大会
平成25年11月26日～12月1日 北海道北見市：常呂町カーリングホール
- ・第4回 全日本大学カーリング選手権大会
平成25年12月22日～24日 北海道名寄市：サンピラーパーク
- ・第9回 全国高等学校カーリング選手権大会
平成26年2月8日～11日 青森県青森市：青森市スポーツ会館
- ・第11回 日本シニアカーリング選手権大会
平成26年2月13日～16日 北海道名寄市：サンピラーパーク
- ・第7回 日本ミックスダブルスカーリング選手権大会
平成26年2月19日～2月23日 青森県青森市：青森市スポーツ会館
- ・第31回 全農 日本カーリング選手権大会
平成26年3月2日～9日 長野県軽井沢町：軽井沢アイスパーク

4. 全体的な成果と今後の課題

今後はより大きな取り組みへと発展させるために、26年度の環境委員会設置に向け理事会で検討することとなった。

(公社)日本トライアスロン連合

1. 実施概要

「グリーントライアスロン」※をスローガンとする環境保全活動の継続実施

※「グリーントライアスロン」とは、国際トリアスロン連合(ITU)と日本トリアスロン連合(JTU)が共同で取り組む、「トリアスロン」を通じて行う環境活動。主にスタッフ・選手・スポンサー・来場者を対象とし、①リデュース(減らす)、②リユース(再利用)、③リサイクル(再資源化)の3つをテーマとして環境保全活動を大会主催者と連携して実施。

2. 平成25年度事業活動

- ①グリーントライアスロンin横浜〔2013年4月8日(土)山下公園〕
- ②グリーントライアスロンinお台場〔2013年10月12日(土)お台場海浜公園〕
※大会(10月13日)前日に出場選手・関係者を集め実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①グリーントライアスロンin横浜〔2013年4月8日(土)山下公園〕
 - ・大会開催1カ月前（大会開催：5月11日・12日）にスタッフ・スポンサー・一般来場者の協力を得て、会場内清掃およびスイムコースの海底清掃を実施。
 - ・付帯イベントとして、海中実況中継や海の生物（タッチプール）の紹介を行い、山下公園来場者に対し、大会を通じた水質のアピールにつながった。
 - ・海底清掃後、試泳を実施。水質の安全PRを行った。
- ②グリーントライアスロンinお台場〔2013年10月12日(土)お台場海浜公園〕
 - ・翌日開催される日本トライアスロン選手権のスタート地点であるお台場海浜公園を選手・関係者で清掃を行った。
 - ・メディア説明会および競技説明会後に実施したことで、メディアへの周知と選手および関係者の確実な参加につながった。

4. 全体的な成果と今後の課題

- ①数年間に渡る継続した「グリーントライアスロン」のフレーズとマーク使用の効果により、各会場で周知活動ができたとともに、一般への拡がりが見られはじめている。
- ②今後、大会開催時に常に実施する環境活動として全国に浸透させる。
- ③ホームページによる事業周知と、全国加盟団体への啓発ツール提供を引き続き検討。

5. その他

- ①上記以外の大会においても、ゴミの分別やコース周辺のゴミ拾いなどの活動を一般的に実施している他、なお大会協賛社の協力を受け、実施している大会や活動が増加している。
- ②2012年に続き2013世界トライアスロンシリーズ横浜大会が、「イベントマネジメントの持続可能性に関する国際標準規格(ISO20121)」を取得した。

(公社)日本スカッシュ協会

1. 実施概要

平成25年度は前年のキャンペーンを継続して行った。コートを保有するクラブ利用時の心構えなど、全てのライフスタイルに環境意識を取り込むように促し、生活の基本となるよう取り組んだ。

また、全国の地区支部への浸透を深める為に会議等でも説明を行った。

2. 平成25年度事業活動

- 大会開催時に会場に応じたエコキャンペーンの実施(マイカップ・靴袋リユース)
- 大会会場にJOC制作の環境啓発ポスターを掲示
- 大会表彰式において環境啓発のスピーチを入れる
- 協会公式サイトで啓発

3. 具体的な活動実施内容とその成果

<大会開催時の実施状況>

当協会主催の全ての大会でJOC啓発ポスターを掲示。当協会エコキャンペーンは4年目に入るため周知されているが、さらなる啓発を行った。全国の支部への浸透が十分ではなかったため、今年度もさらに支部長に説明を行った。

<エコキャンペーンの具体的内容>

ジュニア大会ではドリンクはマイボトル、マイカップを利用するように給水タンクを用意する。この活動は何年も継続してきているため、すでに定着している。

各大会スタッフは持参のマグカップやマイボトルでドリンクゴミを減らす努力を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

5年目となるエコキャンペーンは、ジュニア大会では意識が定着し、子供たちが率先してキャンペーンへ参加している。大人を対象とした大会でもスタッフを中心にエコ意識の向上が見られている。この意識が選手や観客に波及し、より広がって行く事を期待したい。

当協会主催のすべての大会では上記のように実施しているが、全国の支部ではまだ浸透不足の所があるので、全ての支部に再度説明を行った上で、JOCの環境啓発ポスターのデータを送付して4月以降の各支部大会にて協会同様にさまざまな環境エコ活動の実施をお願いし、写真送付を依頼する取り組みを始めた。

その結果まだ一部だが、実施して写真も送られてきたので、今後この取り組みを全国に広げていきたい。

(公社)日本ボディビル・フィットネス連盟

1. 実施概要

役員が中心となり全国の公認クラブ、選手、大会観客、関係者等の方々に環境問題の啓発活動を進め、環境保全意識の浸透と高揚を図っている。

2. 平成25年度事業活動

- 事業局での書類を電子化
- 協議会等における環境美化活動
- 大会プログラムへ啓発資料の掲載
- 大会会場での広報活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①書類の電子ファイル化によりペーパーレス化を図っている
- ②ボディビル全日本選手権大会をはじめ各ブロック大会、地方大会等年間約50回開催される大会会場でゴミの分別化
- ③大会プログラムへ啓発資料の掲載
- ④環境標語横断幕(バナー)の設置による広報
- ⑤ポスター掲示等の広報活動

4. 全体的な成果と今後の課題

- ・ポスター、バナーの掲示、プログラムへの掲載など啓発活動を行った結果、役員、選手、観客等に徐々に環境問題意識が高まってきた。
- ・「出来ることからやる」「STOP！ 地球温暖化」をスローガンに役員一丸となり環境問題に積極的に取り組む。

(公社)全日本テコンドー協会

1. 実施概要

テコンドー協会では、環境にやさしい大会運営を軸として環境活動の重要性を認識し、国内主要大会、各都道府県、オープン大会開催時においても、各委員による啓発活動および指導実施を行い、スポーツと環境の密接な関係を知ること、また実際の行動を促進することにより環境負荷低減を図ることを目標とした。

2. 平成25年度事業活動

- 大会時に環境啓発ポスターを掲示、パンフレット裏表紙
- 会長挨拶文での環境啓發文挿入
- 大会時にゴミの分別回収および持ち帰り運動の徹底推進
- 事務局内での裏紙使用・ペーパーレス化推進
- 各都道府県大会時の環境啓発活動
- 大会終了後の巡回による清掃確認

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①手にする大会パンフレットで『来たときよりもキレイに！』を啓発
- ②大会開催がエコムーブメントとなる意識の啓発
- ③『さわやかマナーアップ』運動として行動
- ④省電力、省資源の促進(コンパクトな大会運営、大会プログラムの圧縮)
- ⑤公共交通機関の利用がしやすく省エネに配慮した大会会場
- ⑥大会終了時に参加者によるクリーンアップ活動の実施

4. 全体的な成果と今後の課題

当協会では、「環境にやさしい大会運営」をテーマに環境問題を考えてきたが、ポスター、パンフレットの配布などの啓発活動の結果、より環境にやさしい大会運営につなげて行くことができた。今後の課題としては、啓発と実施を推し進め続けること。そしてペットボトル使用量削減をテーマに選手、参加者に「マイボトルでマイドリンクを作って飲む」といった個人で簡単に取り組めることなどを推進していく。環境に配慮するスポーツマンを養っていくことも課題としている。

(公社)日本ダンススポーツ連盟

1. 実施概要

2013年1月から12月までに当連盟(JDSF)が公認して開催されたダンススポーツ競技会は335回で、これらの大会ではゴミの分別・持ち帰りを啓発するとともに、実践を促した。また、主な主催競技会で環境横断幕(バナー)やポスターを掲示し、JOCが推進する環境問題についての意識を喚起した。

2. 平成25年度事業活動

- JDSF及び加盟団体主催の競技会での環境横断幕の掲出
- JDSF事務所会議室への環境啓発ポスター掲示
- 競技会等における環境活動
- 事務所における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

<大会時環境啓発横断幕等の掲示>

JDSF主催の三笠宮杯及び東京オープン競技会のほか、加盟団体である神奈川県及び沖縄県ダンススポーツ連盟主催の競技会において、JDSFロゴマークをも配したJOC環境横断幕を掲出し、環境保全の必要性と運動の意義について訴えた。

特に東京オープンは国際的な競技会であるため、ポスターのキャッチフレーズを英文にして選手控え室に掲示した。

<事務所会議室への環境啓発ポスターの掲示>

来客があった場合等にJOCの環境保全活動について説明し、理解を求めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

大会時のゴミ分別は、多くの会場で実践されるようになり、主催者及び会員の環境保全に対する意識向上が見られた。引き続き、JDSF及び加盟団体の各イベントにおいて、JOCポスターの張り出しや環境横断幕の掲示などを行い、環境保全の重要性を訴えていきたい。

また、事務所や大会開催時での紙使用及びコピー数の削減の必要性をこれまで以上に訴えていきたい。

(一社)日本バイアスロン連盟

1. 実施概要

一般社団法人日本バイアスロン連盟は環境活動の重要性を認識し、継続的活動を積極的に行った。

2. 平成25年度事業活動

- ①大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
- ②競技会等における環境活動と清掃活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示

本会主催大会にて環境啓発ポスター、バナー掲示、環境パンフレットの配布を行い、啓発活動を行った。

- ②競技会等における環境活動と清掃活動

札幌市等の自治体が行ったイベントを通じて、小・中学生を対象にバイアスロン体験講習会や北海道上川郡東川町、札幌市、虻田郡倶知安町、富山県南砺市で開催したミニバイアスロン競技大会を実施し、その中で、参加者に環境とスポーツとのかかわりや、環境保全・啓発活動の重要性を訴えるとともに周辺地域の清掃活動を行った。また、東日本選手権競技大会・日本選手権大会・西日本選手権大会等の競技会においては、前後に参加者と一緒になって会場周辺地域の清掃活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

競技会場内へのポスター、バナーの掲示など啓発活動を行ってきた成果が徐々に実り、選手を初め多くの関係者に環境啓発の知識や、理解を得ることができた。

今後も、競技者、啓発活動から実践活動へ意識を変え、より具体的な活動を行っていく。スポーツと環境が大きなかかわりを持つことを一人でも多くの方に理解してもらえようこれからも積極的に環境保全に努めていきたい。

(一社)日本カバディ協会

1. 実施概要

日本カバディ協会では、平成19年4月に環境委員会を設置以来、引き続いてスポーツ団体が取り組み可能な環境保全の啓発、実践活動を行っている。これから、より積極的な活動を全国に展開できるよう、組織を強化していく。

2. 平成25年度事業活動

- 国内大会（全日本選手権大会、東日本大会、西日本大会、インドア大会）での環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布
- 国際親善大会での環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布
- 競技会等における環境活動
- 事務所における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

<大会での環境啓発ポスター、バナーの掲示、パンフレットの配布>

当協会が主催した大会（国際親善大会、全日本選手権大会、東日本大会、西日本大会、インドア大会）にて環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布を行った。

<競技会等における環境活動>

ゴミの分別、持ち帰りの徹底、冷暖房の電源には触れない等の環境保護の呼びかけを行い、大会プログラムに注意事項を記載した。また、式典でのアナウンスも併せて行った。

<事務所における環境活動>

ペーパーレス化推進の為、文書データは郵送やFAXによる送受信を避け、Eメールによる連絡事項のやり取りを極力行った。コピー、FAX用紙の両面使用を徹底し、ゴミの削減、資源節約に努めた。また、事務所を出るときは電源を抜くなどのエネルギー、コスト削減も心がけている。

4. 全体的な成果と今後の課題

大会におけるバナーや呼びかけの成果が実り、自主的にゴミの分別を行う選手が今まで以上に見られるようになった。カバディは、ほとんど道具を必要としないエコなスポーツである。

そのようなスポーツだからこそ、今後環境問題への意識付けをより一層行い、積極的に環境保全に貢献していきたい。また、会議などでも議論を重ね、全国規模で展開していけるよう、より一層の環境保全に努めていきたい。

(一社)日本セパタクロー協会

1. 実施概要

(一社)日本セパタクロー協会では、環境委員会及び事務局メンバーが中心となり、平成25年度もスポーツと環境保全に関する啓発・実践活動を積極的に推進してきた。

事務局では、チャレンジ25キャンペーンで紹介されている6つのチャレンジ、25のアクションで紹介されている地球温暖化防止につながるアイデアなどを参考にして、極力温室効果ガスの排出量を抑える努力をし、低炭素化社会づくりの重要性について、大会などを通して会員に啓発する活動を進めてきた。

2. 平成25年度事業活動

- 事務局におけるエコを意識した業務の実践
- 会員ならびに大会時の参加選手や観客への環境保全の啓発活動
- CO₂削減活動(公共交通機関の使用など)の実践

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①事務局の空調温度管理及び稼働時間の短縮
- ②会議室、便所などの照明のこまめな消灯
- ③不使用時のPC電源OFF
- ④ゴミ分別の細分化及びエコキャップの推進の呼びかけ
- ⑤大会開催時のゴミの分別・持ち帰り、公共交通機関利用の呼びかけ

4. 全体的な成果と今後の課題

今後もクールビズ、ウォームビズの実践、マイバッグ・マイボトルの使用、公共交通機関の利用など、ゴミの分別や持ち帰りについて継続して取り組んでいきたいと思う。

(特非)日本クリケット協会

1. 実施概要

(特非)日本クリケット協会では、環境保全活動の重要性を認識し、スポーツ団体としてできることを考え、取り組みを行った。これからも大会関係者やクラブ関係者にとどまらず、より多くの人に環境保全の啓発を促し、環境保全意識の向上を図っていききたい。

2. 平成25年度事業活動

- ①大会時環境啓発ポスターの掲示
- ②各種イベントなどにおけるポスター掲示
- ③ゴミの分別回収
- ④ペーパーレス化

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発ポスターの掲示

大会会場で誰もが見えるところに環境啓発ポスターを貼り、啓発活動を行った。またドリンクサーバーを幾つか用意し、水分補給でゴミをなるべく出さない工夫をした。

②各種イベントなどにおけるポスター掲示

普及イベントや地域貢献活動において環境啓発ポスターを貼り、啓発活動を行った。またその準備段階で作成した紙の資料は、針なしホチキスを使って作成した。

③ゴミの分別回収

事務所内でのごみの分別はもちろんのこと、大会やイベントでのごみの分別を徹底し、当協会が環境活動の手本となるよう努めた。

④ペーパーレス化

当協会内でのミーティングはパソコンの共有システムを使うなどして、ペーパーレス化を進めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境委員会は協会内で昨年立ち上がったばかりなので、まずは協会スタッフや選手、関係者内で環境保全の意識を高めていこうと考えている。昨年の活動を継続しつつ、スポーツ団体としてできることは何か、他の団体の活動などを参考にしながら考え、行動していきたい。

(公社)日本チアリーディング協会

1. 実施概要

公益社団法人日本チアリーディング協会は、地球環境問題の重要性を認識し、スポーツ活動環境保全に関する啓発と実践活動を推進する。

2. 平成25年度事業活動

- ①大会時環境啓発ポスターを掲示、大会プログラムにポスターを印刷・配布
- ②大会会場における分別回収の促進
- ③省エネ・省資源活動の実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発ポスターを掲示、大会プログラムにポスターを印刷

当協会主催大会にて環境啓発ポスターを掲示するとともに、大会プログラムにポスターを印刷・配布し、啓発活動を行った。

②大会会場における分別回収の促進

大会会場内のダストボックスの分別を徹底し、ビニール袋使用による回収を実施した。

③省エネ・省資源活動の実施

- ・大会会場や控室の照明、空調温度を調整し省エネを実施した。
- ・大会会場の整理・清掃を行い、競技環境の整備を促進した。
- ・加盟団体等との各種事務手続きを電子化し、ペーパーレス、省資源を実施した。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスターを掲示するとともに大会プログラムにポスターを印刷・配布し啓発活動を行ったことにより、選手をはじめ関係者に環境啓発の理解を得ることができ、「スポーツと環境問題」の認識が向上した。今後も、競技者をはじめ関係者・関係団体への啓発活動を推進するとともに、計画的な活動を実践し積極的に環境保全に努める。

(公社)日本パワーリフティング協会

1. 実施概要

パワーリフティングを一般社会に紹介しつつ、一般トレーニーの大会参加を促し、数あるスポーツの中でも生涯スポーツの最たるものである旨をアピールする。

ディスエイブル連盟との連携を強化し、健常者・障害者との交流を図り、パラリンピック出場資格獲得者の増加を目指す。大会会場として公共体育館・公会堂等をお借りする場合多々あるが、競技中及び終了後の会場・施設の復元及び清掃・ゴミの持ち帰りを徹底する。

2. 平成25年度事業活動

全日本・ブロック・都道府県大会に於ける出場者のゴミ持ち帰りを開催要項に記載し、会場において大会事務局から、大会使用器具撤収・会場復元に、大会関係者（開催者・出場者）全員参加協力しての現状回復をアピールした。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ①全日本パワーリフティング選手権大会及びその他大会での、ゴミの分別収集を徹底。
- ②健常者・障害者の交流大会を日本各地で数回実施し、お互いの相互理解を深めた。

4. 全体的な成果と今後の課題

- ・全日本規模の大会出場者数の増加
- ・施設提供者との良好な関係維持
- ・協会会報及び大会ポスター等に環境保全実施を徹底する旨記載し環境意識の向上を図る

(2) JOCスポーツ環境専門部会員の活動

Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission

板橋 一太 部会員

新しい展開を迎える環境活動

●意識の変化

スポーツ団体や競技会の会場を訪れるたびに施設の運営やそこで働く人々、スポーツ活動をしている人々に地球温暖化対策に関係してどのような変化が現れているかが気にかかる。これは長年環境問題にかかわってきたことからくる習性に近い。他人を観察する前に、この問題の旗振り役を務めているJOCはどうであろうか。

岸記念体育会館(渋谷区神南)と味の素ナショナルトレーニングセンター(北区西が丘)についてみると、まず目につくのは啓発ポスターの掲示である。この種のポスターは時間の経過とともに色あせていつのまにか消え去るものだが、JOCの啓発ポスターに関する限りは毎年図柄が更新されており、標語も変わるので目新しく感じる。いつのまにか掲示される場所も特定し、まるでそこに住む権利を獲得しているかのように見える。

次に明らかな変化と言えるのはゴミの分別収集である。これは発生するゴミをエネルギーとして再利用するためには不可欠な作業であるが、いまやゴミ収集箱が「カン、ビン、ボトル」、「燃やすゴミ」、「燃えないゴミ」などの種類ごとに置かれるのは当然のようにになっている。

もう一つの変化としてエネルギー資源の節減の意識が挙げられる。コピーする紙の量の削減や電気や水が無駄に消費されないように昼休みに消灯し、蛇口をしっかり締めるなどのことである。これに更に付け加えればJOC事務局は環境取組団体としての認証登録を得ているので毎年職員を一同に集めての意識再確認のミーティングを行っていることが挙げられる。これは外部から見えるものではなく、一年に一回のことではしかないが、職員の意識を高め維持する上で大きな力になっていると言えよう。

●米国で

最近、ニューヨークを訪れる機会があったが、資源、エネルギーの節約という観点から気になったことがある。米国で食事をすると提供される食事の多さに閉口することが多い。特に筆者は少食なので、レストランで量を少なめにお願いすることがある。今回もそのようなお願いをしたところもの見事に断わられてしまった。ウェイターの言い分は、「メニュー以外の選択はありません。多過ぎれば残せばよい。一向に構いませんよ。」と言うものだが、当方は量を消化できないという問題よりも食べ残したものの処理が気になる。それは間違いなく残飯として処理されてしまう。どうももったいない気がして仕方がない。

また、駅頭や街角のレストラン・バーで飲料水を購入すると空き缶やボトルの処理が気になる。見ていると残飯と一緒にビニール袋に放り込まれている。ある時、缶やボトルを捨てる箱は無いかと聞いたら、一つしかないゴミ箱を指さして「そこに捨ててください」と指示されてしまった。早朝の街を歩くとゴミ回収車が動いているが、どうも分別のゴミ置き場が見当たらない。もしかしたら見落としているのかもしれないが、日本ではゴミ置き場に分別の箱が置かれているのは今や当然であることと比

べると残念な気がする。

コロラド・スプリングスのUSOC（米国オリンピック委員会）を訪ねた。USOCの事務局とナショナルトレーニングセンターは少し離れておりタクシーで10分程度のところにあるが、両方の施設を拝見する機会があった。事務局は中心街のビルで何階ものフロアーを有し、またセンターも広大な敷地を占めており到底日本の比ではない。うらやましく感じたが、こと環境問題への取り組みに関する限りは日本が一步先んじている印象を持った。もっとも、見過ごしていることもあるので確信を持っては言えないが、少なくとも上記に述べたような環境啓発ポスターは見なかったし、目に見える箇所に分別のごみ箱はなかったように思う。もしかしたら美観を配慮して配置されているのかもしれない。しかし、USOCが環境問題を一つの大きな課題として取り組んでいることは職員の口からもうかがうことができたし、またIOCの「スポーツと環境委員会」での活躍も耳にしているところである。

●2020年に向けて

オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定し、日本は6年後に向けて大きな約束を果たさなければならない。環境問題もその一つであるが、東京招致の企画書では「都市の持続可能性の新しいモデル」、「環境への影響が少ない省エネルギー型の会場配置と施設設備」、「都市の中心に新しい緑の空間を演出」、「循環型の大会運営」などが盛り込まれている。また環境問題を少し離れるがIOCの全理事を対象としたプレゼンテーションでは、日本の「おもてなし」文化をアピールし聴衆の関心をひきつけたことが大きく報じられた。「おもてなし」というのは「訪れる人を心から慈しみお迎えする」ということであるが、日本の伝統と文化を感じてもらえるような接待という点ではいわゆる「サービス」とは異なる意味が込められていると思う。日本には、一枚の布切れに様々な用途を持たせる「ふろしき文化」や、ものの値打ちが生かされず無駄になるのを惜しむ「もったいない文化」もある。これらはエネルギー資源の節減と共通するところがある。日本を訪れる多くの外国人にゴミの分別回収のような身近な環境活動とともにこのような日本の生活文化を知ってもらうことも地球環境問題への貢献の一つではないだろうか。

西山 雄二 部会員

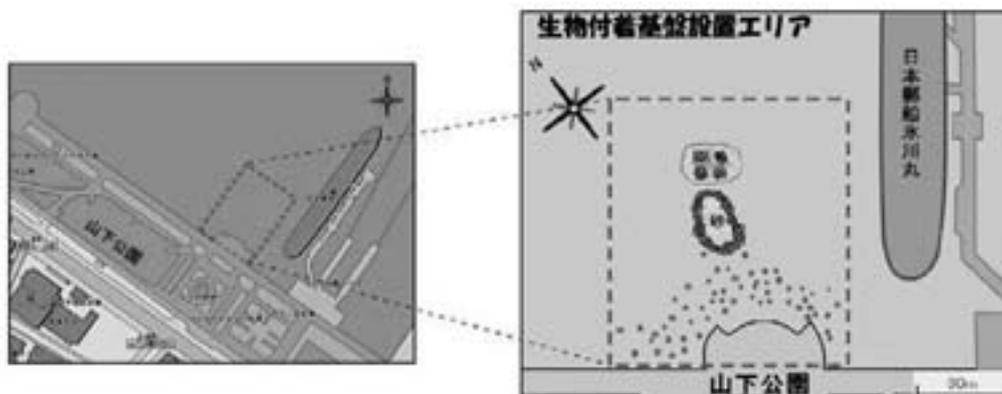
横浜市における環境啓発・実践活動について

① トライアスロン大会開催を契機とした海の環境への取り組み

横浜市は、2009年に開港150周年を迎え、その記念事業として世界最高峰のトライアスロンイベント、「トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会」を開催。平成25年5月には、第4回目となる「世界トライアスロンシリーズ横浜大会」を開催した。

2009年大会開催を契機に横浜市は「きれいな海づくり事業」を展開。平成25年10月には、大会のスイム会場となる山下公園前海域において、生物付着基盤や再生資材を沿岸域に配置し、浅場を造成した。

海域が本来持っている生物による水質浄化能力の回復に向けた生物生息環境の改善手法を検討している。



② 2013トライアスロン大会開催前イベント「グリーントライアスロン」の実施

「グリーントライアスロン」とは、大会運営にあたって隅々まで自然環境に対する負荷を抑える配慮を施し、様々な視点からリデュース(減らす)、リユース(再利用)、リサイクル(再資源化)の「3R」を目指し、トライアスロンというスポーツを通じてより多くの方に地球環境の意識を高めることを目的としている。

平成25年4月には、大会会場となる山下公園にて大会開催1カ月前イベント「グリーントライアスロン」を開催した。スイムコースとなる山下公園前海域ではダイバーが海中にもぐり海底に沈んだゴミを拾い、海の浄化の大切さを市民の皆様知ってもらうとともに、大会開催に向けた安全なスイムコースづくりを行った。その他、水中リポーターによる海中の実況生中継や山下公園前海域で採取したカニやヒトデ、魚を展示し、タッチプールとして子供たちに触れてもらう機会を作り、横浜の海の豊かさを実感してもらった。



③ ISO20121に適合したトライアスロン大会運営

「2012世界トライアスロンシリーズ横浜大会」では、わが国においてイベント分野で初めて「ISO20121(イベントマネジメントの持続可能性に関する国際標準規格)」の認証を横浜大会として取得した。この横浜大会をさらに発展させ、多様な要望や期待に応えていくため、2013大会では、機動力のある大会運営体制の確保、大会運営の質の向上を目指し、大会組織委員会での取得に取り組んだ結果、平成25年8月29日に大会組織委員会での認証を取得することができた。

松岡 修造 部会員

日本テニス協会における啓蒙活動

「修造チャレンジトップジュニアキャンプ」開催時に、会場内におけるポスターの掲示や横断幕の提示、ゴミの分別など啓蒙活動を積極的に行った。

●修造チャレンジトップジュニアキャンプ開催概要

日程	対象	会場
2013年6月11日（火） ～14日（金）	松岡修造とJTAナショナルチームに選抜された16歳以下の男子ジュニア選手11名	クラブヴェルデ
2013年9月8日（日） ～13日（金）	松岡修造とJTAナショナルチームに選抜された16歳以下の男子ジュニア選手19名	荏原湘南スポーツセンター
2013年11月5日（火） ～8日（金）	松岡修造とJTAナショナルチームに選抜された12歳以下の男子ジュニア選手19名	クラブヴェルデ
2014年3月4日（火） ～7日（金）	松岡修造とJTAナショナルチームに選抜された14歳以下の男子ジュニア選手16名	味の素 ナショナルトレーニングセンター



(3) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について

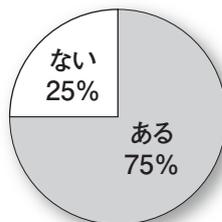
Results of the questionnaire regarding environmental activities of NFs

平成25年度JOC加盟団体を対象に10年前から、「スポーツと環境」に関するアンケートを実施。活動の現状や浸透状況を把握しつつ、今後の指針づくりにも役立てている。

その7割以上の団体で「スポーツ環境委員会」あるいは「環境保全プロジェクト」が設けられていると解答を得た。

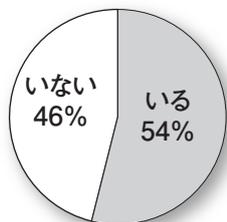
【平成25年度】

1 貴団体にスポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクト等がありますか

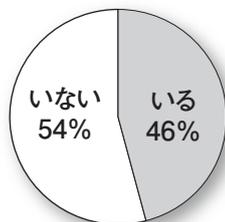


2 貴団体に環境保全啓発のため実施されている活動について

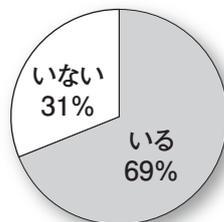
ア 団体・組織にかかわる人々にマニュアルなどで啓発している



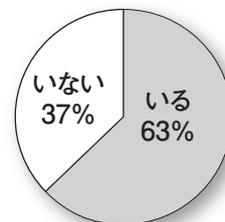
イ 選手・コーチにマニュアルなどで啓発している



ロ トップ選手や影響力のある人々に機会があれば環境保全のアピールをするようにすすめている

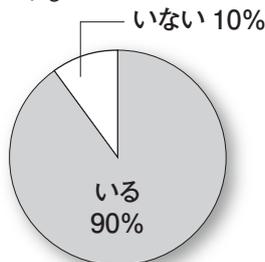


リ 環境に配慮した用品・用具を使用し、また選手に推奨している

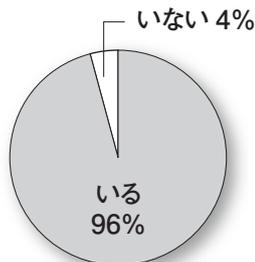


3 競技会における環境保全のため実施されている活動について

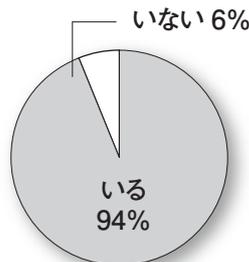
ア 競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮している



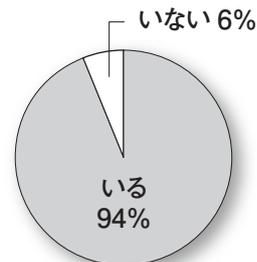
イ ごみの分別を実施している



ロ ポスター貼付など何らかの方法で環境保全を啓発している



リ 会場設営、運営の際、環境に配慮されるよう働きかけている

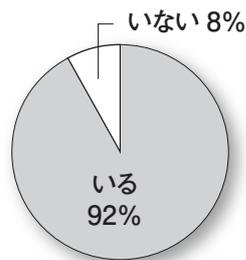
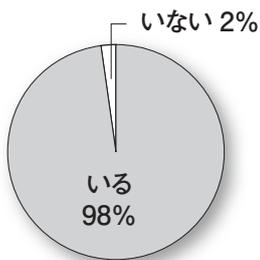
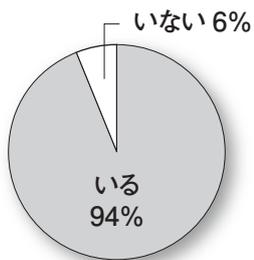


4 JOC スポーツ環境委員会活動報告書は活用されていますか

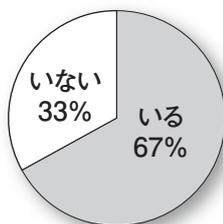
いると答えられた場合：どのように活用していますか

㉗ 活動の参考として参照している

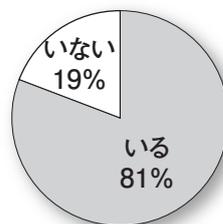
㉘ いつでも閲覧できるように設置している



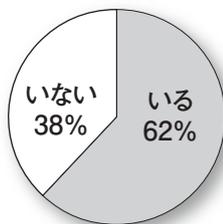
5 機関誌、大会プログラム等に環境保全について掲載していますか



6 事業実施の時に、横断幕、ポスターおよびパンフレットを配布していますか



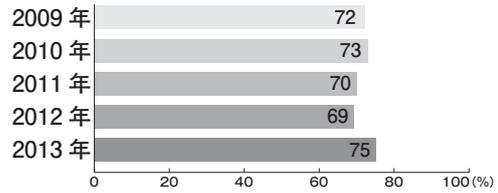
7 会議、大会開催時に環境についてのスピーチを行っていますか



【年次推移】

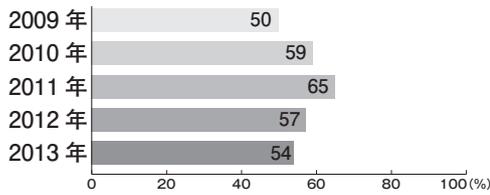
※数値はすべて「はい」の割合
※過去5年の推移

1 貴団体にスポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクト等がありますか

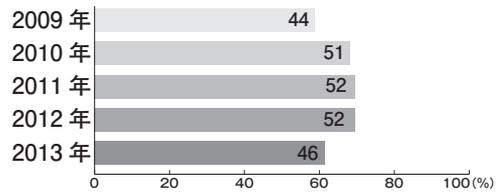


2 貴団体に環境保全啓発のため実施されている活動について

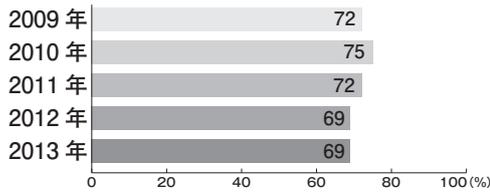
ア. 団体・組織にかかわる人々にマニュアルなどで啓発している



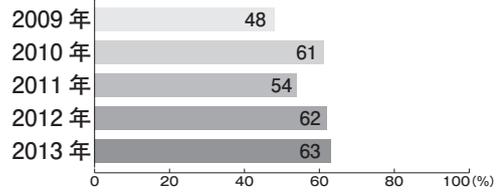
イ. 選手・コーチにマニュアルなどで啓発している



ウ. トップ選手や影響力のある人々に機会があれば環境保全のアピールをするよう勧めている

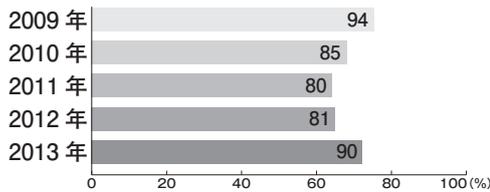


エ. 環境に配慮した用品・用具を使用し、また選手に推奨している

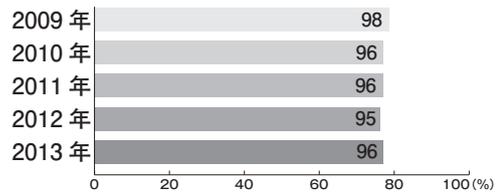


3 競技会における環境保全のため実施されている活動について

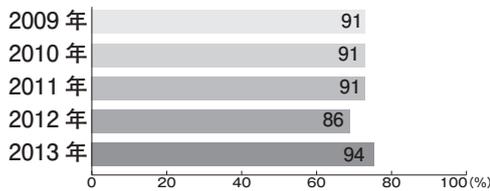
ア. 競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮をしている ※2010年より具体的な活動の説明を求めた



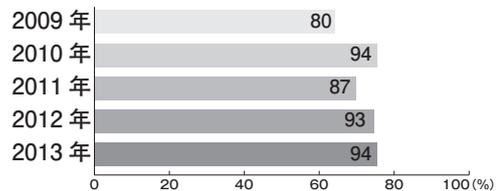
イ. ゴミの分別を実施している



ウ. ポスター貼付など何らかの方法で環境保全を啓発している

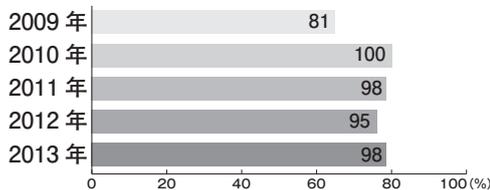


エ. 今後競技会場建設が計画されるときは環境保全に配慮する(2011年：会場設営、運営の際、環境に配慮されるよう働きかけている)

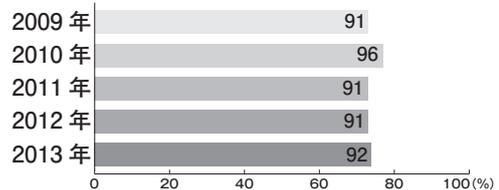


4 JOC スポーツ環境委員会活動報告書は活用されていますか

ア. 活動の参考として参照している



イ. いつでも閲覧できるように設置している



(4) スポーツと環境についてのレクチャー原稿

Lecture draft on Sport and Environment

短い一言のご挨拶の機会がある時は次の一言をお願いします。

「私たちスポーツを愛するものは環境保全の大切さを理解し温暖化防止などにエネルギー・資源の節減やゴミの分別などできることから実行しましょう」

スポーツと環境について 5分レクチャー原稿

5分のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1. スポーツと環境についての理解

(1) スポーツを愛する私たちも皆、地球人

- ① スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかもしれませんがそれは幻想です。
- ② 人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります。

(2) 私たちの宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります

- ① 地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行くことは不可能なのです。
- ② ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生き続けても地球からのバックアップなしには生き続けられません。
- ③ よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うための環境保全を実行する必要があります。

(3) Think globally, Act locally (地球規模で考え、身の回りのできることを実行する)

- ① 環境保全を推進するにあたり大切なことはまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、またその原因がどこにあるかをしっかり知ることです。
- ② そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てばできる簡単なことです。

2. 協力依頼

(1) まず、環境でどのような問題があるかを理解しましょう

- ① 地球規模で温暖化が進み、それが原因で気候が大きく変動し、私たちの環境が破壊されています。
- ② 農業、漁業、多くの産業が気候変動によって大きな打撃を受けています。
- ③ 生態系の根本である食物連鎖が途切れて絶滅種が多くなりつつあります。

(2) 高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

- ① エネルギー資源を節減する為に3R (Reduce、Reuse、Recycle) の実行。
 - a. 削減 (Reduce)。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。(例：電気や紙の削減)
 - b. 再使用 (Reuse)。同じ物をできるだけ多い回数使うように工夫することです。例えばサイズの問題で着ることができなくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。
 - c. リサイクル (Recycle)。使えなくなった物を上手に分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。(例：ペットボトル→繊維)

- ②夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫で冷暖房のエネルギー使用を削減。
 - a. 冬には暖かい下着を着用し、或いはもう一枚重ね着をすることで暖房の温度を少し下げることができます。(ウォーム・ビズ)
 - b. 夏はできるだけ涼しい服装をし、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げることができます。(クール・ビズ)
- ③ゴミは分別してリサイクルをしやすいように工夫する。
 - a. 『混ぜればゴミ、分ければ資源』の言葉通り、廃棄物を分別することで資源として再利用やリサイクルが可能になります。
 - b. 日常生活やスポーツ活動の中でも分別を心がけましょう。
- ④温暖化の源である二酸化炭素を減らす為に炭酸同化作用(二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用)をする樹木を増やす手伝いをしましょう。

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行しましょう。

スポーツをする人たち、見る人たちも平等しく地球人として環境保全を推進することが大切です。できればスポーツマンが模範的活動を推進し社会の中で環境保全のリーダーとなるように願っています。

スポーツと環境について 15分レクチャー原稿

15分のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1. 私たちは全員地球人です(宇宙船地球号の乗組員)

- ①46億年前に地球は形成されました。
- ②300万年前に人類が地上に出現しました。
- ③1万年前に大家族制による農業革命が起こりました。
- ④20世紀は人類の転換期(文明の急速発達)でした。
- ⑤便利な社会になった反面、大量の化石燃料を消費することによって温暖化が進み、気候が大きく変動し自然の破壊、環境の汚染が進んでいます。
- ⑥環境問題を列記してみましょう。
 - a. 地球温暖化
 - b. オゾン層破壊
 - c. 酸性雨
 - d. 野生生物種の減少
 - e. 森林の減少
 - f. 地球規模の砂漠化
 - g. 海洋汚染
 - h. 有害廃棄物の越境移動
 - i. 大気汚染

2. スポーツと環境についての理解

(1) スポーツを愛する私たちも皆、地球人

- ① スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかもしれませんがそれは幻想です。
- ② 人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります。

(2) 私たちの宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にすることを義務があります

- ① 地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行くことは不可能なのです。
- ② ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生き続けても地球からのバックアップなしには生き続けられません。
- ③ よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うための環境保全を実行する必要があります。

(3) Think globally, Act locally(地球規模で考え、身の回りのできることを実行する)

- ① 環境保全を推進するにあたり大切なことはまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、またその原因がどこにあるかをしっかり知ることです。
- ② そして、地球規模で起こっている問題を考えてつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てばできる簡単なことです。

3. スポーツと環境活動の経緯を見てみましょう

- ① 1972年札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林。
- ② 1976年デンバーオリンピック大会開催返上(経済・環境問題)。
- ③ 1990年まで IOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた。
- ④ 1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた(スポーツ・文化・環境)。
- ⑤ 1992年バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加国署名。
- ⑥ 1994年IOC100周年パリ・コンGRESでスポーツと環境分科会開催。
- ⑦ 1995年IOCにスポーツと環境委員会設置。
- ⑧ 1995年第1回IOCスポーツと環境世界会議をスイス・ローザンヌで開催。
- ⑨ 1997年第2回IOCスポーツと環境世界会議をクウェート・クウェート市で開催。
- ⑩ 1999年第3回IOCスポーツと環境世界会議(ブラジル・リオデジャネイロ)でOlympic Movement's Agenda 21(オリンピック運動の環境保全規約書)を採択、IOCで承認された。
- ⑪ 2001年4月JOCにスポーツ環境委員会設置、活動を開始。
- ⑫ 2001年11月第4回IOCスポーツと環境世界会議を長野で開催。
“Give The Planet A Sporting Chance” Olympic Movement's Agenda 21の実践。
- ⑬ 2003年第5回 IOCスポーツと環境世界会議をイタリア・トリノで開催。
スポーツ関係者(選手、役員、IOC、IF、NOC、NF、OCOG、地方政府、観客、放送、スポンサー、サプライヤー、建設業者など)が有機的に連携を取り合い、環境に対してパートナーシップを組むことが決議された。
- ⑭ 2005年第6回IOCスポーツと環境世界会議をケニア・ナイロビで開催。
- ⑮ 2007年第7回IOCスポーツと環境世界会議を中国・北京で開催。
- ⑯ IOCジャック・ロゲ会長がIOCのスポーツ界における環境保全活動を認められ国連環境計画

から「地球のチャンピオン」として表彰を受けた。

⑰IPCC（気候変動に関する国際パネル）の第4次報告と映画「不都合な真実」がノーベル平和賞を受賞。

⑱IOCはUNEPが進める「10億本の植樹キャンペーン」の支持を表明。

4. 協力依頼

(1)まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べてみましょう

(2)「持続可能な開発」と「持続可能性」

①『持続可能な開発』は92年リオ・サミットの頃のキーワードでした。すなわち経済の発展が過ぎれば環境破壊は壊滅的に進む。片や環境保全を厳しく実行すると経済が疲弊して社会システムが崩壊する。そこで経済の発展と環境保全のバランスを丁度いい所に折り合いをつけて、人類が持続可能な社会の開発をしようというものです。

②『持続可能性』は逆に人類を地上に持続させる為にはどのような仕組みを作るべきかを考える方法です。いずれにせよ社会のどのような要素にもどこかで折り合いをつける必要があるのです。

(3)循環型社会の形成

①これは消費財や食品などの廃棄物を全て資源としてリサイクルし、新しい製品にしてそれを消費して行くという循環型の社会形成を目指すものです。

②例えば、食品の生ゴミをある一定期間（約25日）酵素処理をすると素晴らしい肥料になります。これを用いて野菜を育成すると食品は循環していることになります。

③各種プラスチック製品、金属製品を上手く分別回収、リサイクル処理をすると再び資源として製品の原材料になります。

④これを繰り返すことにより新しい資源の節減が図られるのです。

(4)ゼロ・エミッション

①ゼロ・エミッションとは排出物ゼロと言う意味です。

②循環型社会形成には不可欠の考え方で社会は排出物を出さない。すなわち今までの排出物を分別回収すれば、それらはまた資源となるのです。

③特に製品を生産している工場は原材料の切れ端や削りカスなどを今までは廃棄物としていましたが、上手く分別して新しい資源として工場から運び出せば、その工場の排出物はゼロになるのです。

④ゼロ・エミッションのキーワードは「混ぜればゴミ・分ければ資源」です。

(5) 高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

①エネルギー資源を節減する為に3R(Reduce、Reuse、Recycle)の実行。

a. 削減(Reduce)。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。(例：電気や紙の削減)

b. 再使用(Reuse)。同じ物をできるだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着ることができなくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。

c. リサイクル(Recycle)。使えなくなった物を上手く分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。(例：ペットボトル→繊維)

(6)夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫で冷暖房のエネルギー使用を削減

- a. 冬には暖かい下着を着用し、或いはもう一枚重ね着をすることで暖房の温度を少し下げることができます。(ウォーム・ビズ)
- b. 夏はできるだけ涼しい服装をし、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げることができます。(クール・ビズ)

(7) 温暖化の源である二酸化炭素を減らす為に炭酸同化作用(二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用)をする樹木を増やす手伝いをしましょう

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください。

スポーツをする人たち、見る人たちも平等しく地球人として環境保全を推進することが大切です。できればスポーツマンが模範的活動を推進し社会の中で環境保全のリーダーとなるように願っています。

スポーツと環境について 30分レクチャー原稿

30分のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1. 私たちは全員地球人です(宇宙船地球号の乗組員)

- ①46億年前に地球は形成されました。
- ②300万年前に人類が地上に出現しました。
- ③1万年前に大家族制による農業革命が起こりました。
- ④20世紀は人類の転換期(文明の急速発達)でした。
- ⑤便利な社会になった反面、大量の化石燃料を消費することによって温暖化が進み、気候が大きく変動し自然の破壊、環境の汚染が進んでいます。

2. 環境問題を列記し問題とその影響を見てみましょう

I. 地球温暖化

二酸化炭素などの「温暖化ガス」が増加することによって地球の平均気温が上昇

- ①海面水位上昇による土地の喪失
- ②豪雨や干ばつなどの異常気象の増加
- ③生態系への影響や砂漠化の進行
- ④農業生産や水資源への影響
- ⑤マラリアなど熱帯性の感染症発生数の増加

II. 大気汚染と酸性雨

化石燃料の燃焼などにより生じる硫黄酸化物や窒素酸化物などが大気中で酸性の化合物となり、雨などに取り込まれ地上に降る現象

- ①森林の衰退
- ②湖沼や河川などの酸性化とそれによる生態系への影響
- ③歴史的な遺跡や建造物などへの影響

Ⅲ. オゾン層の破壊

「CFC」などの人工化学物質が地球を取り巻く「成層圏」に存在しているオゾン層を破壊すること

- ①皮膚がんや白内障の増加
- ②疫抑制などによる人の健康への影響
- ③動植物の生育阻害など生態系への影響
- ④大気汚染などの影響

Ⅳ. 野生生物の減少

森林（熱帯林）の破壊、海洋汚染、砂漠化、地球温暖化、酸性雨によって野生の動植物が減少し種の絶滅問題

- ①遺伝子資源の減少
- ②観光・レクリエーション資源の減少
- ③生態系の破壊
- ④食物連鎖の破壊

Ⅴ. 森林の減少

焼畑耕作や放牧地・農地への転換、過度の薪炭材採取、不適切な商業伐採などによる熱帯雨林、ロシア、カナダの北方針葉樹林の減少問題

- ①そこに生息する野生生物種の減少
- ②土壌(表土)の流失
- ③森林に蓄積された炭素がCO₂となって放出されることによる温暖化の進行
- ④水源の涵養機能や熱循環、海と陸との相互作用機能の低下

Ⅵ. 地球規模の砂漠化

干ばつなどの気候的要因のほかに、放牧地の再生能力を超えた家畜の放牧や薪炭材の過剰採取などによる砂漠化

- ①食糧生産基盤の悪化
- ②生物多様性の喪失
- ③貧困の加速
- ④気候変動への影響
- ⑤都市への人口の集中
- ⑥難民の増加

Ⅶ. 海洋汚染

タンカー事故や海洋への汚染物質の投棄、河川などを通じた陸起源の汚染物質の流入、沿岸の開発など様々な人為的要因により進行

- ①生態系の破壊
- ②漁業資源や観光資源の喪失
- ③有害物質汚染による海洋生物への影響と海洋生物経由の人体への影響

Ⅷ. 有害廃棄物の越境移動

海洋に投棄されたり、沿岸から流出する汚染物質や工業廃棄ガスなどが海や大気の流れにより世界中に広がる問題

3. スポーツと環境についての理解

(1)スポーツを愛する私たちも皆、地球人

- ①スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかもしれませんがそれは幻想です。
- ②人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります。

(2)私たちの宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります

- ①地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行くことは不可能なのです。
- ②ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生き続けても地球からのバックアップなしには生き続けられません。
- ③よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うための環境保全を実行する必要があります。

(3)Think globally, Act locally(地球規模で考え、身の回りのできることを実行する)

- ①環境保全を推進するにあたり大切なことはまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、またその原因がどこにあるかをしっかり知ることです。
- ②そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てばできる簡単なことです。

4. スポーツと環境活動の簡単な経緯を見てみましょう

- ①1972年札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林。
- ②1976年デンバーオリンピック大会開催返上(経済・環境問題)。
- ③1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた。
- ④1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた(スポーツ・文化・環境)。
- ⑤1992年バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加国署名。
- ⑥1994年IOC100周年パリ・コンGRESでスポーツと環境分科会開催。
- ⑦1995年IOCにスポーツと環境委員会設置。
- ⑧1995年第1回IOCスポーツと環境世界会議をスイス・ローザンヌで開催。

- ⑨1997年第2回IOCスポーツと環境世界会議をクウェート・クウェート市で開催。
- ⑩1999年第3回IOCスポーツと環境世界会議（ブラジル・リオデジャネイロ）でOlympic Movement's Agenda 21(オリンピック運動の環境保全規約書)を採択、IOCで承認された。
- ⑪2001年4月JOCにスポーツ環境委員会設置、活動を開始。
- ⑫2001年11月第4回IOCスポーツと環境世界会議を長野で開催。
“Give The Planet A Sporting Chance”Olympic Movement's Agenda 21の実践。
- ⑬2003年第5回IOCスポーツと環境世界会議をイタリア・トリノで開催。
スポーツ関係者(選手、役員、IOC、IF、NOC、NF、OCOG、地方政府、観客、放送、スポンサー、サプライヤー、建設業者など)が有機的に連携を取り合い、環境に対してパートナーシップを組むことが決議された。
- ⑭2005年第6回IOCスポーツと環境世界会議をケニア・ナイロビで開催。
- ⑮2007年第7回IOCスポーツと環境世界会議を中国・北京で開催。
- ⑯IOCジャック・ロゲ会長がIOCのスポーツ界における環境保全活動を認められ国連環境計画から「地球のチャンピオン」として表彰を受けた。
- ⑰IPCC(気候変動に関する国際パネル)の第4次報告と映画「不都合な真実」がノーベル平和賞を受賞。
- ⑱IOCはUNEPが進める「10億本の植樹キャンペーン」の支持を表明。

5. 協力依頼

(1)まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べてみましょう

(2)「持続可能な開発」と「持続可能性」

- ①『持続可能な開発』は92年リオ・サミットの頃のキーワードでした。すなわち経済の発展が過ぎれば環境破壊は壊滅的に進む。片や環境保全を厳しく実行すると経済が疲弊して社会システムが崩壊する。そこで経済の発展と環境保全のバランスを丁度いい所に折り合いをつけて、人類が持続可能な社会の開発をしようというものです。
- ②『持続可能性』は逆に人類を地上に持続させる為にはどのような仕組みを作るべきかを考える方法です。いずれにせよ社会のどのような要素にもどこかで折り合いをつける必要があるのです。

(3)循環型社会の形成

- ①これは消費財や食品などの廃棄物を全て資源としてリサイクルし、新しい製品にしてそれを消費して行くという循環型の社会形成を目指すものです。
- ②例えば、食品の生ゴミをある一定期間(約25日)酵素処理をすると素晴らしい肥料になります。これを用いて野菜を育成すると食品は循環していることになります。
- ③各種プラスチック製品、金属製品を上手く分別回収、リサイクル処理をすると再び資源として製品の原材料になります。
- ④これを繰り返すことにより新しい資源の節減が図られるのです。

(4)ゼロ・エミッション

- ①ゼロ・エミッションとは排出物ゼロと言う意味です。
- ②循環型社会形成には不可欠の考え方で社会は排出物を出さない。すなわち今までの排出物を分別回収すれば、それらはまた資源となるのです。
- ③特に製品を生産している工場は原材料の切れ端や削りカスなどを今までは廃棄物としてい

ましたが、上手く分別して新しい資源として工場から運び出せば、その工場の排出物はゼロになるのです。

④ゼロ・エミッションのキーワードは「混ぜればゴミ・分ければ資源」です。

(5) 高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

①エネルギー資源を節減する為に3R(Reduce、Reuse、Recycle)の実行。

- a. 削減(Reduce)。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。(例：電気や紙の削減)
- b. 再使用(Reuse)。同じモノをできるだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着ることができなくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。
- c. リサイクル(Recycle)。使えなくなった物を上手く分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。(例：ペットボトル→繊維)

(6) エネルギーを節減する工夫、夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫をして冷暖房の負荷を下げる

- ①冬には暖かい下着を着用し、またもう一枚重ね着をすることで暖房の温度を少し下げることができます。(ウォーム・ビズ)
- ②夏はできるだけ涼しい服装をし、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げることができます。(クール・ビズ)

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください

6. スポーツと環境に関与する要素には次のようなものがあります

(1) 会場立地

- ①スポーツ施設の立地について、まわりの空気や水が基準以上でなければ選手・コーチの健康を損なう可能性がある。
- ②施設建設が自然を大きく破壊することがないように配慮する。
- ③特に冬のスポーツ施設の立地が天然記念物の生息地に掛からないように配慮する。

(2) 施設

- ①施設建設に当たっては自然との調和を図るよう最善を尽くすこと。
- ②空調のエネルギー節減のため天窓を上手く配置し、冬は温室効果で暖かく、夏は窓を開放することで暑い空気を天窓から出すことで涼しさを保つ工夫をする。
- ③アイスアリーナなどはアンモニアの直接製氷法から間接にし、アンモニアの漏れでの環境破壊や選手の競技環境を損なわないように努める。

(3) 運営

- ①スポーツ大会、競技会、スポーツ教室などの運営に当たっては、資源・エネルギーの節減に努める。特にコピーは両面を使い、できればパソコンなどのディスプレイ画面で仕事の処理ができるように努める。
- ②運営全体での資源・エネルギーの消費量を数値化し計測し、削減に努めるとともに次回にはより削減できるよう工夫をする。

(4) 役員

- ①競技・運営役員はスポーツ環境保全の重要性を認識し、スポーツ界全体の環境保全が実践

されるよう啓発活動を行う。

②役員は身の周りのできる環境保全活動を率先垂範で実践する。

(5)選手・コーチ

①選手・コーチは清潔でクリーンな競技環境で競技や訓練が実施できるよう最善を尽くす。

②選手（特にトップ選手）は衆目を集めるので、環境保全に対しての理解を深め啓発活動の一環としてチャンスがあるごとに環境保全の大切さをアピールする。

(6)オフィスワーク

①スポーツにかかわるオフィスはスポーツ環境の概念をよく理解してオフィスワークに活用する。

②資源・エネルギーの削減、またグリーン購入法に基づいて物品購入を行う。

(7)観客

①スポーツ競技会の観客にはポスターやパンフレットでスポーツ環境の意義の理解を深める啓発活動を行う。

②ゴミの持ち帰り運動を推進し、会場清掃量を削減する。また各々の観客が持ち帰ったゴミは分別してリサイクルに回されるのが望ましい。

(8)用具

①スポーツ品メーカーは環境に配慮した製品を企画製造する。

②完全リサイクルができる「ナイロン6」素材のもの。

③準完全リサイクルは元の原材料には戻らないが形を変えて製品化できるもの。

④リサイクル素材の活用。回収ペットボトルから作られた繊維を利用した製品。(混紡をするゆえ品質機能には全く問題はない)

⑤製造技術を改善し省資源・省エネでスポーツ品を製造する。

⑥有害物質は全く使わない。(塩化ビニール・フロンなど)

(9)メディア

①スポーツを報道するメディアにもスポーツ環境の大切さに対する理解を促進し協力を依頼する。

②メディア活動においても省資源・省エネを促進する。

7. 低炭素社会(ローカーボン・ソサエティ)の構築

地球温暖化が気候変動を顕在化させる中、2007年にIPCC(気候変動に関する国際パネル)と温暖化を明快に解説し警鐘を鳴らす映画「不都合な真実」を制作したアル・ゴア米前副大統領にノーベル平和賞が授与された。

高度文明で排出される二酸化炭素ガスやCO₂の23倍の温室効果があるメタンガスなどが温室効果ガスとして温暖化を引き起こしている。

二酸化炭素ガスを吸収し酸素を放出する炭酸同化作用(光合成)を用いて炭酸ガスを減少させ酸素を多くするため植樹を促進しつつある。

各種活動で排出される温暖化ガスを植樹することで相殺することをカーボンオフセットと言い、その植樹の費用を対価として支払うことも可能とされる。

エネルギーと資源の削減などと植樹で大気中の温暖化ガスを減少させることで低炭素社会の構築を目指すことが求められている。その結果として地球温暖化の進行を遅くし、地球の持続可能性を向上できると考えられている。

8. スポーツ環境の活動に必要な要素を列記しました。この活動にゴールはありません。啓発や実践を地道に継続的に進める忍耐力が必要です。

- ①気の長さ
- ②忍耐力
- ③継続力
- ④適正なペース
- ⑤実効性
- ⑥リーダーシップ

9. 関係者のパートナーシップと環境保全道具箱の理解と実践

スポーツ界で環境保全活動を進めるために二つの有効な提言がなされています。

(1)関係者のパートナーシップ

スポーツ界ではオリンピック大会運営からグラスルーツのスポーツ活動に至るまでスポーツの現場で活動にかかわる関係者(Stakeholders)が環境保全に対して明確な方針の下、協力する所謂パートナーシップが求められています。例えばオリンピック大会を考えると、関係者はIOC、NOCs、IFs(国際スポーツ競技連盟)、NFs(国内競技連盟)、競技者、役員、組織委員会、政府、地方自治体、観客、メディア、スポンサー、公式サプライヤー、運送業者、施設建設業者、施設管理者などで、これら関係者が組織委員会の環境方針を理解してパートナーシップによる協働体制で保全活動を実践することが大切です。

(2)「持続可能なスポーツとイベントの道具箱」

バンクーバー組織委員会とスイスのAISTSがSSET(Sustainable Sports and Event Toolkit)「持続可能なスポーツとイベントの道具箱」を考案しました。これはイベントなどで包括的に対策を実践できるように必要な要素を網羅しています。それらは1. 持続性への信念と戦略立案 2. 遣り繰り・管理 3. 会場立地と建設手法 4. 会場とオフィスの管理 5. 地域社会と商流 6. 輸送と宿泊 7. 食堂、食事・飲物 8. マーケティングとコミュニケーションの8つです。スポーツの現場、イベントの現場でこの要素を一つずつ検証して明確な考えを入れ込んで有効な活動にすることが大切なのです。

10. スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進することが大切です。できればスポーツマンが社会の中で模範的環境保全のリーダーとなるように願っています。

5

IOCスポーツと環境委員会について

IOC Sport and Environment Commission

翌年に冬季オリンピック大会を控えたロシア・ソチで、2013年10月30日から11月1日に第10回IOCスポーツと環境世界会議が開催された。2年に一度開催されるこの世界会議はオリンピック大会が開催される前年に開催都市で開かれる慣習になりつつあり、2019年の東京開催を計画準備することになる。

30日は夜の開会式の前にソチ大会の水競技の会場が集積したオリンピック・パークの見学会が催されアイスホッケーのメイン会場であるボリショイ・アイスドームからパークの全体像の紹介があり、4万人を収容する開閉会式会場のフィシュト・スタジアム、メダルプラザ、選手村、その他の施設の全景を見ることができた。400メートルトラックがあるアドレル・アリーナとフィギュア・スケートのアイスバーグは完成しており内部の視察も行った。

世界会議は新たに選出されたトーマス・バッハ会長参加の下、「より良い明日の為、今日改革しよう」(Changing Today for a Better Tomorrow)のテーマでIOC委員会委員、ロシア政府環境省、ソチ大会組織委員会、各国NOC代表、国連環境計画やIF、NGO代表など約500名が参加した。

ソチ大会の環境対策は6項目から成り立っている。① 健康生活 ② 自然との協調 ③ バリアフリー ④ 経済活性化 ⑤ モダンテクノロジー ⑥ 固有文化の保全 であり、項目ごと具体的に実現可能な対策を実現しようと努力していた。

IOC環境賞が発表・授与されたが、アジアからはイランの荒れた山岳地帯をスポーツができる快適なエリアに整備したトーチャル・マウンテン・プロジェクトが受賞した。

時と共に深刻化する地球温暖化に起因する気候変動に対して今、持続可能性を追求すべくスポーツ界でできる対策を実行するように国連環境計画も加わり真剣に討議がなされた。

閉会前にIOCは環境・社会・経済を統合した広い観点から持続可能性とレガシーを含めたスポーツと環境委員会の役割強化について見直す提案を含めた7項目の決議を採択した。

11月2日には委員会が開かれ、冒頭に1995年委員会設置以来委員長を務めたハンガリーのバル・シュミット委員が退任の挨拶をし、ナイジェリアのハブ・ゲメル委員が臨時の議長として会議を運営した。IOC環境担当部長からリオ+20会議の結果や委員会が取り組んできた成果などの報告、ロシアの資源・環境省報告、IOC連帯資金報告、国連環境計画報告、IOC五輪部長報告、昼食を挟んで各大陸別活動報告、ロンドン大会・ソチ大会・リオ大会・ピョンチャン大会・東京大会の結果、経過、計画の報告、IOC環境省についての報告が行われた。各報告後に委員による討議がなされ環境保全から地球のみならずスポーツそのものの持続可能性に深刻度が高まり、より真剣で包括的な具体策の実行が求められている。因みに2020年東京大会の環境対策は次の三項目 ①環境負荷の最小化 ②自然と共生する都市環境計画 ③スポーツを通じた持続可能な社会づくりである。



IOC スポーツと環境委員会委員

水野正人

◇環境理念「環境を優先する2020年東京大会」

オリンピックには、競技自体のすばらしさに加えて、環境学習及び環境意識に影響を与える偉大な力、他に比べるもののない発信力がある。世界最大規模かつ先進的な都市の一つである東京の中心でオリンピックを開催することは、総合的な環境政策を示し、いかにして都市・人間・環境保護の必要性を密接に協調させるかの典型的な実施例を示すことになる。

2020年東京大会における環境への取組は、アスリートや大会関係者のみならず、観客、テレビ視聴者、メディア、地域など世界中のあらゆる人々の参加を促す。地域を取り込んだ環境に関わる活動・展示会等を実施、普及させる。

◇環境ガイドラインの基本的な考え方(3つの柱)

柱1：環境負荷の最小化

環境ガイドラインの柱には、カーボンニュートラルな大会を実現するため、再生可能エネルギー、公共交通機関、低エネルギー車両の活用、廃棄物の再生利用の考え方などを据え、エネルギー・資源の消費や二酸化炭素の排出を縮小する。

柱2：自然と共生する都市環境計画

2020年東京大会は、都市の緑化を促進させる契機にもなり、自然環境と共生する快適な都市環境をより楽しめるようになる。

会場設計・施設は、エネルギー・資源・水の保全の観点から持続可能なデザインとする。2020年東京大会の会場及びその周辺は、東京臨海部を中心に緑地と緑の回廊で東京の中心部と結ばれ、そこに息づく多様な生物に特別に配慮する。

柱3：スポーツを通じた持続可能な社会づくり

2020年東京大会は、スポーツを通じて地球環境・地域環境の大切さを発信する大会である。

良好な環境は、優れたパフォーマンスを引き出す必要条件である。

一方、スポーツの与える喜び・感動や、模範となるモデルや優れた手本による影響力は、人を具体的な行動へと駆り立てる力を持つ。

したがって、スポーツを通じた持続可能な社会づくりも、2020年東京大会の柱であり、強力かつ重要な指針として、教育・参加・協調などの様々なアプローチにより推進していく。

上記の基本的な考え方(3つの柱)に基づき、環境ガイドラインにおける、オリンピック競技大会前・期間中・終了後の環境に対する影響を防止及び削減するための対策を以下に述べる。

◇持続可能な会場設計及び建設

2020年東京大会の37競技会場のうち、15会場が既存施設である。また、28会場を選手村から8km圏内に配置することで、公共交通機関の最大限の利用を通じて移動による環境負荷を最小化するとともに、大会の効率的な運営にも寄与する。

競技会場は、厳しいグリーン・ビルディングの基準や環境ガイドラインに従って建設・改修される。新設の競技会場は、市街地内の未利用地等に建設するため、地域社会や自然・文化資源に悪影響を及ぼすことはない。

東京都は、「2020年の東京」に位置づけられている「建築物環境計画書制度」により、民間事業者が大規模開発を行う場合、現在の標準的な建物より35%エネルギー使用を削減するよう誘導している。

2020年東京大会の関連会場の建設に当たっては、この取組を実現する。

◇環境負荷の少ない輸送

2020年東京大会は、世界で最も発達し効率の良い東京の公共交通機関を最大限活用することで、二酸化炭素の排出量を抑制し、大気汚染への影響をより引き下げるなど、環境対策に大きな効果が得られる。

観戦チケット保有者が、公共交通機関を無料で利用できるようにするとともに、競技会場について公共交通機関でアクセスしやすいようにコンパクトに配置することで、観客が100%公共交通機関・徒歩で会場等に移動することを実現する。

また、大会関係車両は、全て、電気自動車、燃料電池自動車やハイブリッド車などの低公害かつ低燃費な自動車を使用する。

◇廃棄物から資源へ

2020年東京大会は、徹底的に廃棄物を無くす大会である。総合的に廃棄物を管理する戦略は、廃棄物の発生を最大限抑制（リデュース）した上で、再使用（リユース）の徹底や、再利用（リサイクル）の促進（最も効率的に再利用できる廃棄物処理の仕組みづくり）を行い、やむを得ず残った廃棄物も可能な限りエネルギーへの活用（バイオガス等）などを行なう。

その実施に当たり、大会組織委員会は、包装や使い捨て容器利用の削減などについて、スポンサー・ライセンサー・サプライヤー・場内売場などと連携する。

「もったいない」の精神を世界に普及させる5R【発生抑制（Reduce）、再使用（Reuse）、再利用（Recycle）、エネルギー回収（Recover Energy）、都市の自然環境の再生（Restore the Urban Nature）】モデルを採用し、次世代を中心とした地域社会へのレガシーとして啓発し、意識の向上を図る。日本中の関係機関と協力し、この大会で得られる循環型社会の取組を、オリンピックレガシー委員会による監督のもと、大会開催後もレガシーとして活かしていく。

・発生抑制（Reduce）

既存会場の最大限の活用、新設会場の建設や大会運営における環境負荷の抑制、会場での使い捨て用品の使用抑制等

・再使用（Reuse）

既存施設の継続利用、新設施設の長寿命化、会場・施設でリユース食器利用、仮設建築・資材の再利用徹底等

・再利用（Recycle）

各会場共通の標識や案内といった分別の分かりやすい表示、リサイクル品やリサイクル材を利用した製品と最小限の包装といったグリーン購入・調達等

・エネルギーを回収（Recover Energy）

清掃工場の排熱利用や食品廃棄物からのバイオガス等エネルギーを回収、様々なりサイクル・再生施設を擁する「スーパーエコタウン事業」（既に運営中）等

・都市の自然環境の再生（Restore the Urban Nature）

都市における緑地の創出、植栽プログラムの実施等

◇戦略的な会場計画

戦略的な会場計画として、既存施設の最大限の利用や輸送に係るカーボン排出を大幅に削減するコンパクトな配置計画を行うとともに、同様に効果的である世界有数の公共交通網の活用などによるカーボン排出の削減を行う。

◇低エネルギー・低カーボンの大会施設・会場

大会施設・会場の建設・運営に際しては、自然採光・通風などのパッシブ利用による低エネルギー化や、海水を利用したヒートポンプなど最高水準の省エネルギー技術導入等により、CO₂を抑制する。

特に、選手村については、日本の気候に応じた伝統的な建築技術と最先端の環境設備とを融合した環境負荷の少ないまちづくりを体現する一つのモデルとなることを目指している。日本の伝統的な建築材料である木材を多用し、自然の光や風を取り入れるパッシブデザインの居住空間は、エネルギーを最小限に抑え、快適な環境を提供する。

◇再生可能エネルギーの積極的な導入・利用

大会施設・会場において、再生可能エネルギー（太陽光発電・太陽熱利用機器等）の導入・利用とともに、グリーン電力・熱証書の活用により、グリーンエネルギーを100%使用する。

◇低公害・低燃費車

競技運営の輸送では、電気自動車・燃料電池自動車やハイブリッド車などの低公害かつ低燃費な車両を使用する。

◇CO₂削減キャンペーン

環境ガイドラインの一部として、また「2020年の東京」と整合して、都民・企業との連携・協働による独自のCO₂削減のムーブメントを強化し、低炭素社会への移行を継続的に促進させる。

7

関連資料

References

(1) JOCスポーツ環境活動者一覧

Member of Sport and Environment Commission

JOCスポーツ環境専門部会

JOC Sport and Environment Commission

平成 26 年 3 月現在

役職名	氏名	所属
部会長 Chairman	大塚 眞一郎 Shinichiro OTSUKA	公益社団法人 日本トライアスロン連合 Japan Triathlon Union
副部会長 Vice-Chairman	山口 香 Kaori YAMAGUCHI	筑波大学 University of Tsukuba
部会員 Member	板橋 一太 Ichita ITABASHI	一般財団法人 日本スポーツ仲裁機構 The Japan Sports Arbitration Agency
"	岩崎 恭子 Kyoko IWASAKI	株式会社 スポーツビズ SPORTS BIZ CO.,LTD
"	植松 克之 Katsuyuki UEMATSU	公益財団法人 日本卓球協会 Japan Table Tennis Association
"	大塚 慶二郎 Keijiro OTSUKA	公益財団法人 日本バレーボール協会 Japan Volleyball Association
"	風間 明 Akira KAZAMA	公益財団法人 日本陸上競技連盟 Japan Association of Athletics Federations
"	鎌賀 秀夫 Hideo KAMAGA	公益財団法人 日本レスリング協会 Japan Wrestling Federation
"	齋藤 由紀 Yuki SAITO	公益財団法人 日本水泳連盟 Japan Swimming Federation
"	玉利 聡一 Soichi TAMARI	公益財団法人 日本サッカー協会 Japan Football Association
"	西山 雄二 Yuji NISHIYAMA	横浜市市民局 Yokohama Civic Affairs Bureau
"	原田 裕花 Yuka HARADA	株式会社 RIGHTS. RIGHTS. Inc.
"	松岡 修造 Shuzo MATSUOKA	公益財団法人 日本テニス協会 Japan Tennis Association
"	吉田 友佳 Yuka YOSHIDA	株式会社 クローバー Clover Inc.

本会加盟団体スポーツ環境担当者一覧

National Federation

平成25年度JOCスポーツ環境活動 加盟団体スポーツ環境担当者

平成 26 年 3 月現在

競技団体	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(公財) 日本陸上競技連盟	JAAF グリーンプロジェクト 委員長/石沢 隆夫	副委員長/橘川 眞佐志、安田 信昭、戸松 哲男	風間 明
(公財) 日本水泳連盟	スポーツ環境委員会 委員長/齋藤 由紀	副委員長/— 委 員/佐野和夫、泉 正文、岩崎 恭子、澤木 幸子、 山口 善久、草分 容子、長谷川 雪恵、有久 暢、 丸笹 公一郎、林 正洋、守谷 雅之、江口 和美、 原田 由梨、野原 亨、小川 知伸	小川 知伸
(公財) 日本サッカー協会	社会貢献活動推進プロジェクト プロジェクトリーダー/ 玉利 聡一 (管理部 部長代理)	副委員長/— メンバー/中原 大、青地 俊彦、高埜 尚人、根本 敦史、 吉久 直子、川瀬 みどり、吉田 恭子、北村 俊、 今井 純子	玉利 聡一
(公財) 全日本スキー連盟	スポーツ環境委員会 委員長/谷 雅雄	—	宮沢 賢一
(公財) 日本テニス協会	スポーツ環境委員会 委員長/吉田友佳	副委員長/秋山 英宏、千葉 素久、長塚 京子 委 員/松岡 修造、鍋谷 尚映、岩見 亮、大津 克哉、 榎木 聖、長澤 真紀、千葉 輝夫	大石 英代
(公社) 日本ボート協会	安全・環境委員会 委員長/小野寺 等	副委員長/— 委 員/小沢 哲史 (アドバイザー)、栗林 健太郎、 赤津 杏奈、興相 裕一 (スタッフ)	苅谷 裕子
(公社) 日本ホッケー協会	総務委員会 環境部 委員長/寺田 一夫	副委員長/— 委 員/西中 武士	西中 武士
(一社) 日本ボクシング連盟	環境委員会 委員長/山根 明	副委員長/吉森 照夫 委 員/山本 浩二、内海 祥子	内海 祥子
(公財) 日本バレーボール協会	環境委員会 委員長/大塚 慶二郎	—	鍛冶 良則
(公財) 日本体操協会	総務委員会 委員長/遠藤 幸一	—	八木沢 則子
(公財) 日本バスケットボール協会	環境委員会 委員長/堀井 幹也	副委員長/庄司 義明 委 員/吉田 長寿	長谷川 洸世
(公財) 日本スケート連盟	スポーツ環境委員会 委員長/鈴木 民生	副委員長/新田 俊彦 委 員/平松 純子、杉田 吉弘、高橋 健也、 米村 省一、山崎 弘雄、加藤 真弓、新山 奈緒子	森村 直樹
(公財) 日本アイスホッケー連盟	環境委員会 委員長/佐々木 史郎	副委員長/中村 慎 委 員/高橋昇士、大北 照彦、木野内 毅、芳野 俊、 秋山 憲一郎	建部 彰弘
(公財) 日本レスリング協会	スポーツ環境委員会 委員長/鎌賀 秀夫	副委員長/— 委 員/木名瀬 重夫、真田 栄作、本田 原明、 白井 正良、吉澤 昌、関 貴史	鎌賀 秀夫
(公財) 日本セーリング連盟	環境委員会 委員長/永井 真美	副委員長/長嶋 匡之 委 員/青山 篤 (アドバイザー)、菊地 透、 三浦 多満枝、細川 敬一、芝田 崇行	前田 彰一 石津 基行
(一社) 日本ウエイトリフティング協会	スポーツ環境委員会 委員長/守 昌宏	副委員長/加納 修 委 員/後藤 節哉、篠 弘明、多小田 一紀、 小田 敏郎	守 昌宏

競技団体	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(公財) 日本ハンドボール協会	環境委員会 委員長/大橋 則一	副委員長/兼子 真 委 員/家永昌樹、羽田 裕一、村上 隆	兼子 真
(公財) 日本自転車競技連盟	競技運営委員会 環境部会 委員長/松倉 信裕	副委員長/榎 正人 委 員/黒川剛、飯田 太文、早坂 和広	白崎 孝紀
(公財) 日本ソフトテニス連盟	環境・教育プロジェクト 委員長/井上 清一	副委員長/柳下 秋久 委 員/斉藤 元三、神崎 公宏、大川 京子、川島 登、 安藤正美、松谷 茂、林 昭文、野際 照章、本田 茂雄、 金岡 昭房、林 研一	玉木 進
(公財) 日本卓球協会	環境委員会 委員長/鈴木 一雄	副委員長/佐々木 賢治 委 員/宮本 勝典、五十嵐 久美子、坂部 忠彦、 佐藤 佐知典	山本 紗知子
(公財) 全日本軟式野球連盟	環境担当委員会 委員長/中村 敏治	副委員長/西澤 茂芳、後藤 成弥、宗像 豊巳	清野 祐
(公財) 日本相撲連盟	総務委員会 委員長/竹内 晋岸	副委員長/樺原 利明 委 員/—	吉村 登
(公社) 日本馬術連盟	JOC スポーツ環境委員会 委員長/—	副委員長/— 委 員/長友 満則	田村 好伸
(公社) 日本フェンシング協会	環境委員会 委員長/川口 大三	副委員長/河原塚 淳 委 員/—	川口 大三
(公財) 全日本柔道連盟	—	—	—
(公財) 日本ソフトボール協会	スポーツ環境委員会 委員長/清田 一正	副委員長/— 委 員/笹田 嘉雄、三宅 豊	久下 知宏
(公財) 日本バドミントン協会	環境委員会 委員長/能登 則男	副委員長/本多 修治 委 員/近岡 昭、池田 公子	本多 修治
(公財) 全日本弓道連盟	—	—	清水 政範
(公社) 日本ライフル射撃協会	総務委員会 委員長/松丸 喜一郎	副委員長/大野 明敏、谷津 義男 委 員/—	佐藤 陽介
(一財) 全日本剣道連盟	医・科学委員会 委員長/松永 政美	副委員長/— 委 員/朝日 茂樹、佐々木 健、高幣 民雄、野見山 延、 宮坂 信之、武藤 健一郎、森 伸雄	岩坂 守
(公社) 日本近代五種協会	日本近代五種協会環境委員会 委員長/野上 等	副委員長/上瀧 守 委 員/—	市川 祥宏
(公財) 日本ラグビーフットボール協会	総務委員会環境部門 委員長/高野 敬一郎	副委員長/— 委 員/児玉 隆一郎、岩上 教行、中嶋 一義、 片山 良太、小宮山 弘	橘 登紀子
(公社) 日本山岳協会	自然保護委員会 委員長/石倉 昭一	副委員長/徳永 邦光、松隈 豊 委 員/斎藤 長作、手塚 福寿、岩崎 繁夫、 堀江 伸子、廣田 博、小高 令子、小原 美子、西山 常芳、 小川 由樹、濱田 伸、紅葉 順一、遠山 君枝	松隈 豊
(公社) 日本カヌー連盟	環境対策委員会 委員長/八畷 美由紀	副委員長/大城 良介 委 員/—	岩上 禎宏
(公社) 全日本アーチェリー連盟	未設置 委員長/島田 晴男 (主担当)	副委員長/穂苅 美奈子 委 員/—	島田 晴男
(公財) 全日本空手道連盟	—	—	有竹 隆佐 日下 修次 石田 航
(公社) 全日本銃剣道連盟	環境委員会 委員長/鈴木 健	副委員長/片山 幸太郎 委 員/竹添 静雄、住田 隆良、関 高、村井 敏夫、 後上 隆、青木 正隆、津田 昌泰、上萬 淳、竹下 利一、 上村 正、渡辺 邦雄	平本 梯子

競技団体	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(社) 日本クレール射撃協会	鉛問題対策委員会 委員長/高橋 義博	副委員長/渡辺 幹也、笹田 矩史 委員/及川悦郎、千葉 守男、山下 久雄、 本戸 歳知、井出 益弘	大江 直之
(公財) 全日本なぎなた連盟	—	—	—
(公財) 全日本ボウリング協会	総務委員会 普及・広報部会 部会長/森岡 京子	—	宮内 久美子
(一社) 日本ボブスレー・ リュージュ・スケルトン連盟	—	—	池田 芳正
(一財) 全日本野球協会	総務委員会 スポーツ環境部会 委員長/野端 啓夫	—	柴田 穰
(特非) 日本スポーツ芸術協会	—	—	—
(公社) 日本武術太極拳連盟	—	—	—
(公社) 日本カーリング協会	—	—	倉本 憲男
(公社) 日本トライアスロン連合	—	—	中山 正夫
(公財) 日本ゴルフ協会	—	—	林 忠男
(公社) 日本スカッシュ協会	環境対策委員会 委員長/宮城島 真知子	副委員長/梶田 幸子 委員/日何 孝知、潮木 仁、天根田 芳浩、 渡邊 祥広	小澤 紀子
(公社) 日本ビリヤード協会	—	—	東仙 明彦
(公社) 日本ボディビル・ フィットネス連盟	環境委員会 委員長/元木 俊博	—	小西 康道
(公社) 全日本テコンドー協会	環境委員会 委員長/黒江 浩二	副委員長/川津 博、阿部 海将 委員/斉藤 和広、山下 弘之、小池 隆仁、申 東準、 吉田 成、阿部 勝治、牧野 文彦	指方 幸子
(公社) 日本ダンススポーツ連盟	環境委員会 委員長/嶋田 洋子	副委員長/— 委員/岸尾 政弘、鴻巣 久枝、額 和夫	岸尾 政弘
(一社) 日本バイアスロン連盟	環境委員会 委員長/二峰 良四男	副委員長/— 委員/阿部 正昭、井口 長治	小原 裕子
(一社) 日本カバディ協会	環境委員会 委員長/河合 陽児	副委員長/林 佳子 委員/高野 一裕、新田 晃千、高岡 真由子、 金子 裕美	河合 陽児
(一社) 日本セパタクロール協会	環境委員会 委員長/菅野 瑞穂	—	越田 専太郎 菅野 瑞穂
(特非) 日本クリケット協会	環境委員会 委員長/宮地 直樹	副委員長/和賀 友樹 委員/窪田 真、上原 良崇、宮地 直実	和賀 友樹
(公社) 日本アメリカンフットボール 協会	—	—	—
(公社) 日本チアリーディング協会	環境委員会 委員長/久保田 友代	—	渡辺 博
(公社) 日本パワーリフティング協会	平成 26 年度設置予定	—	—

(2) IOCスポーツと環境委員会

IOC Sport and Environment Commission

Chairman	The Sovereign Prince ALBERT II	
Members	The Prince Feisal AL HUSSEIN Andrés BOTERO PHILIPSBOURNE Crown Prince Frederik of DENMARK Tony ESTANGUET Habu GUMEL Barbara KENDALL Rita SUBOWO Shamil TARPISCHEV Cheikh Saoud bin Abdulrahman AL-THANI Camilo AMADO Michel BARNIER Ann DUFFY Joseph FENDT Vincent GAILLARD	George KAZANTZOPOULOS Andrej KRASNICKI Habib MACKI Myriam MOYO Mamadou Diagna NDIYAE Sunil SABHARWAL Naysan SAHBA Gideon SAM Luzeng SONG Michael VESPER Efraim ZINGER Tania BRAGA - Rio 2016 Presentative Dae-man KIM - PyeongChang 2018 Representative Masato MIZUNO - Tokyo 2020 Representative
Director in Charge	(Director of International Cooperation and Development)	

(3) OCAスポーツと環境委員会

OCA Sport and Environment Commission

Chairman	Mr Kyung-Sun YU	Korea
Members	Mr Kutubuddin AHMED Mr Masato MIZUNO Mr Salamat ERGESHOV Mr Mohamed Mahid SHAREEF Mr Khin Maung LWIND Mr Khaled Saleh Al-Dokheel Mr Dion Gomes Ms Lai Pak Leng Perry Dr Tiras Odisho Anwaya BINNO Dr Maher Khayata	Bangladesh Japan Kyrgyzstan Maldives Myanmar Saudi Arabia Sri Lanka Macau Iraq Syria

(4) IOCスポーツと環境委員会小史

IOC Sport and Environment Commission

- 1972年 札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林
- 1976年 デンバーオリンピック冬季大会開催返上(経済・環境問題)
1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた
1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた(スポーツ・文化・環境)
- 1992年 バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加NOC署名
- 1994年 第12回オリンピック・コンGRESS(IOC創立100周年)でスポーツと環境分科会開催・パリ
- 1995年 IOCにスポーツと環境委員会設置 委員長 パル・シュミット
第1回IOCスポーツと環境世界会議開催・ローザンヌ
- 1996年 委員に就任 岡野俊一郎(1996-2001)、水野正人(1996-現在)
- 1997年 第2回IOCスポーツと環境世界会議開催・クウェート
- 1999年 第3回IOCスポーツと環境世界会議開催・リオデジャネイロ
オリンピックムーブメントアジェンダ21採択
- 2001年 第4回IOCスポーツと環境世界会議開催・長野市
"GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE"
- 2002年 極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー・北京
- 2003年 第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ
"PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT"
- 2004年 IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ハバナ
- 2005年 極東及び東アジア、第2回IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ドバイ
第6回IOCスポーツと環境世界会議開催・ナイロビ
"SPORT, PEACE AND ENVIRONMENT"
- 2006年 IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・クアラルンプール
IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・キングストン
- 2007年 第7回IOCスポーツと環境世界会議開催・北京
"FROM PLAN TO ACTION"
- 2008年 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー開催・インチョン
IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・コロンビア
- 2009年 第8回IOCスポーツと環境世界会議・バンクーバー
"INNOVATION AND INSPIRATION: HARNESSING THE POWER OF SPORT FOR CHANGE"
2009IOCスポーツと環境賞制定
IOCスポーツと環境・地域セミナー・サモア
- 2010年 IOCスポーツと環境委員会
- 2011年 第9回IOCスポーツと環境世界会議・ドーハ
"PLAYING FOR A GREENER FUTURE"
2011IOCスポーツと環境賞授賞式
- 2012年 IOCスポーツと環境委員会
- 2013年 第9回IOCスポーツと環境世界会議・ソチ
第3回IOCスポーツと環境賞授賞式

(5) JOCスポーツ環境専門部会小史

Brief history of the JOC sport and Environment Commission

平成13年度 (2001年)	JOCスポーツ環境委員会設置 委員長 水野正人、委員 石川徹男、櫻井孝次、佐野和夫、瀬尾洋、早田卓次、平松純子、松岡修造、森健兒 第4回IOCスポーツと環境世界会議主催・長野市 “GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE”	平成20年度 (2008年)	ポスター(7th)作成 平成19年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 IOCスポーツと環境競技別ガイドブック翻訳本作成・同マニュアル・CD-ROM 第4回JOCスポーツと環境・地域セミナー・広島市 第5回スポーツと環境担当者会議・ナショナルトレーニングセンター 第1回OCAコンGRESS・クウェート 板橋一太スポーツ環境専門委員長からJOCの活動を報告 第8回IOCスポーツと環境世界会議・バンクーバー 板橋一太スポーツ環境専門委員長出席
平成14年度 (2002年)	ファーストポスター、パンフレット作成 極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー・北京 参加	平成21年度 (2009年)	ポスター(8th)作成 平成20年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第5回JOCスポーツと環境・地域セミナー・福岡市 第6回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成15年度 (2003年)	セカンドポスター作成 平成14年度スポーツ環境委員会調査研究報告書作成 7月にISO14001認証登録、IOC加盟202NOCの中で初めて 第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ 佐野和夫スポーツ環境委員からJOCの活動を報告 “PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT”	平成22年度 (2010年)	ポスター(9th)作成 平成21年度スポーツ環境専門委員会活動報告書作成 第6回JOCスポーツと環境・地域セミナー・横浜市 第7回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成16年度 (2004年)	サードポスター作成 平成15年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第1回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター (本会関係者、加盟団体、パートナー)	平成23年度 (2011年)	ポスター(10th)作成 平成22年度スポーツ環境専門委員会活動報告書作成 第7回JOCスポーツと環境・地域セミナー・神戸市(予定) 第8回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター(予定)
平成17年度 (2005年)	ジョイントポスター・パンフレット(第2版)作成 平成16年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 環境省の「チーム・マイナス6%」のメンバーとなる 第1回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・大阪市 第2回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第6回IOCスポーツと環境世界会議・ナイロビ 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告	平成25年度 (2013年)	ポスター(12th)作成 平成24年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第9回JOCスポーツと環境・地域セミナー・熊本市(予定) 第10回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター(予定)
平成18年度 (2006年)	イラストポスター・横(5th)作成 平成17年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 ISO14001認証を更新登録 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・クワラルンプール 遠藤スポーツ環境専門委員からJOCの活動を報告 第2回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・長野市 第3回スポーツと環境担当者会議開催・国立オリンピック記念青少年総合センター	平成26年度 (2014年)	ポスター(13th)作成 平成25年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第10回JOCスポーツと環境・地域セミナー(予定) 第11回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター(予定)
平成19年度 (2007年)	イラストポスター・縦(6th)作成 平成18年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第3回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・東京都 第4回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第7回IOCスポーツと環境世界会議・北京 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・インチョン 鎌賀スポーツ環境専門委員・JOC及びNFの活動を報告		

(6)オリンピックムーブメント アジェンダ21(要約)

Olympic Movement's Agenda 21

1. 一般原則

1.1 持続可能な開発

1992年にリオデジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議」(UNCED)、別名「地球サミット」で持続可能な開発を目指す「リオ宣言」が182カ国の総意で採択された。

1.2 UNCEDアジェンダ21

各国政府がそれぞれの国家戦略、計画、規制、活動を策定する際の青写真としての役割を果たすだけでなく、非政府組織にもこのアジェンダ21に基づいた独自のアジェンダ21を作成するよう求めている。

2. オリンピックムーブメントにおけるアジェンダ21の目標

傘下のメンバー全員 (IOC、IF、NOC、OCOGなど) およびスポーツをする全ての人を対象に持続可能な開発を方針に取り入れられる分野を提案し、また、各個人の行動方法についても指摘している。

3. 持続可能な開発に向けてのオリンピックムーブメントの行動計画

3.1 社会経済条件の改善

全ての個人が文化的・物質的ニーズを満たされなければならない。

3.1.1 オリンピズムの価値および持続可能な開発のための行動

持続可能な開発のための国際協力事業を強化し、社会排除と戦う一助となり、新たな消費者習慣を奨励し、健康保護奨励に積極的な役目を果たし、スポーツインフラを振興するに当たり、開発と環境の概念をスポーツの方針に取り入れていく。

3.1.2 持続可能な開発に向けての国際協力の強化

環境と開発がもたらす難題は世界的なパートナーシップを確立しなければ克服できない。特に国連環境計画 (UNEP) との協調が大切である。地域レベルではIOCとNOCとが持続可能な開発に向けて共同歩調をとるべきである。また、スポーツ用品業界では使用する材料や工程を介して持続可能な管理に努め、その活動が環境に及ぼす影響を最小限にとどめるべきである。

3.1.3 排除の撲滅

スポーツへの参加を通じて社会的不利な立場にある個人・集団を支援する。

3.1.4 消費者習慣の変化

無公害あるいはリサイクル材料を利用し、原料とエネルギーが節約できるよう製造されたスポーツ用品の使用を奨励する。同時にスポーツ用品・建造物には地域特有の従来型材料を使用するよう働きかける。

3.1.5 健康の保護

ドーピング対策はもとより、栄養、衛生、感染症・伝染病防止、弱者グループの保護、都市住民の健康面を大きく取り上げる。

3.1.6 人の居住環境および定住

スポーツ施設は土地利用計画に従って、自然・人工を問わず、地域の状況に調和して融け込むように建設・改築されるべきである。事前の環境影響調査が条件となっているのが望ま

しい。また、スポーツイベントで主催者は以前よりも条件的な改善を目指し、地域住民をより多く関与させることも大切である。

3.1.7 「持続可能な開発」概念のスポーツ方針への取り込み

各競技運営団体は持続可能な開発の概念をスポーツ界、スポーツ活動およびスポーツイベント企画の方針・規則や管理制度に取り入れる。

3.2 持続可能な開発のための資源の保全および管理

オリンピックムーブメントは、スポーツと文化に加えて環境をオリンピックの第三の柱としている。その環境保全活動は社会経済条件の改善に必要な天然資源と自然環境の保全と管理に切り替えられている。

3.2.1 オリンピックムーブメントに関する環境行動の方法

オリンピックムーブメントによる行動はすべて環境に充分配慮しつつ持続可能な開発の精神に則り、環境教育を推奨し、環境保全の一助となる活動をしなければならない。

3.2.2 環境保全区域および田園地帯の保護

スポーツ活動、施設、イベントは環境保全区域、田園地帯、文化遺産と天然資源全体を保護しなければならない。また、これらに関するインフラが環境に与える影響を最小限にとどめるよう配慮しなければならない。

3.2.3 スポーツ施設

既存のスポーツ施設をできる限り最大限に活用し、良好な状態に保ち、安全性を高めて環境への影響を減らす。また、新規施設の建造の前提としては、既存施設では修理しても使用できない場合に限る。

3.2.4 スポーツ用品

環境に配慮したスポーツ用品の製造だけでなく、商品の輸送・流通のためのエネルギー消費を最小限にとどめ、出来るだけ現地の製品を利用することを奨励する。また、品質保証および環境管理に関するISOの認証を取得すべきである。

3.2.5 輸送

再生不可能なエネルギーの消費などを削減するために無公害の生産手段と公共輸送手段の利用促進を目的とした計画を進める。

3.2.6 エネルギー

- ・過剰なエネルギー消費を抑える。
- ・再生可能なエネルギー源の利用とエネルギーの節約を推奨する新技術、用具、施設、慣行の利用を推進する。
- ・再生可能で無公害のエネルギー源を入手することを推奨する。

3.2.7 主要スポーツイベントでの宿泊設備および食事サービス

- ・アジェンダ21の3.1.6節に従った構造を推奨する。
- ・衛生条件を厳守する。
- ・地元住民の発展と環境保護に充分配慮して作られた商品・食料を利用する。
- ・使用済み製品を最大限に再利用することで廃棄物を最小限に抑える。
- ・再利用できない廃棄物を処理する。

3.2.8 水の管理

- ・貯水保護および天然水の品質保全を意図した世界的・地域的な活動を奨励し、支援する。
- ・地下水または表流水を汚染する危険を持つ慣行はすべて避ける。
- ・スポーツ活動から生じた排水が必ず処理されるようにする。
- ・単にスポーツ活動でのニーズを満たすために特定の地域での全般的な水の供給を脅かさない。

3.2.9 有害な製品、廃棄物、公害の管理

- ・人類にとって有害もしくは有毒である、または環境汚染を引き起こすと認められている製品の使用は避ける。
- ・そのような製品を使用しなければならない慣行、製造、農業手法を奨励しない。
- ・排出・処理される廃棄物の量を最小限にし、廃棄物管理再利用の地域プログラムを推進する。
- ・新規のスポーツ施設の設立、既存施設の改善、新規インフラの構築および主要イベントの企画を利用して、有害なもしくは有毒な製品、汚染物質または廃棄物によって汚染されている敷地を改善する。
- ・あらゆる形態の公害、特に騒音公害を最小限に抑える。公害を低減するために過去のオリンピック競技大会で用いられた慣行・手法の成功例をもとに事を進める。

3.2.10 生物圏の質および生物多様性の維持

オリンピックムーブメントは以下の慣行を非難し、反対する。

- ・大気、土壌または水を汚染する。
- ・生物多様性を危険にさらす、または動植物の種を絶滅の危機に陥れる。
- ・森林伐採の原因をつくる、または国土保全に害を及ぼす。

3.3 主要グループの役割強化

持続可能な開発の成功にはオリンピックムーブメントを構成する全てのグループがこの取組みを積極的に支援すると同時に、これらグループに敬意が払われることが不可欠である。

3.3.1 女性の役割の向上

- ・女性のスポーツ振興に邁進する。
- ・従来女性のものだと考えてきた競技種目を他のものと同様に扱う。
- ・特に教育の中核ともなる地域スポーツセンターの構築を通じて女性の教育を推進する。
- ・女性がスポーツに参加しやすくなるよう託児所などの社会的な手段を講じる手助けをする。
- ・男女のスポーツの実施を公平にマスコミが取り上げ、経済面でも公平に扱うようにする。
- ・競技運営団体において女性が責任ある地位に就けるよう奨励する。
- ・関連国際団体と共同で活動にあたる。

3.3.2 若者の役割の推進

- ・全ての若い競技者が教育を受けられ、労働生活へと溶け込めることを奨励する。
- ・競技団体内で若者が自分たちに関係のある決定を下す際に関与できるようにする。
- ・オリンピックムーブメントが手配した活動で若者が示す動員力を活用する。
- ・若者が特に犠牲となる可能性の高い人権侵害を非難し、対抗する。
- ・子どもの人権に関する国連条約(決議44/25)の承認を宣言し施行する。
- ・専門の国際団体と共同で活動する。

3.3.3 原住民族の認知および推進

- 原住民の伝統的なスポーツを振興する。
- 特に原住民発祥の地において、環境管理問題では先住民の昔からの知識とノウハウを使うようにし、適切な行動を取る。
- これらの原住民がスポーツに参加できるよう推奨する。

オリンピックムーブメントのメンバーによるアジェンダ21の誓い

1999年10月に開催された第3回スポーツと環境に関する世界会議の出席者はアジェンダ21の実施に向けての一連の行動を定める「リオ宣言」を発表した。

スポーツと持続可能な開発に関するリオ宣言

1. アジェンダ21は、オリンピックムーブメントが持続可能な開発に効果的に役立つ分野において全般的な行動を示すための道具である。
2. オリンピックムーブメントの全てのメンバーやスポーツ参加者、スポーツ関連企業は出来る限り現行のアジェンダ21の勧告に従うべきである。
3. オリンピックムーブメントの全てのメンバーは持続可能な開発を各々の方針や活動に取り入れ、また関連する個人も自らのスポーツ活動やライフスタイルが持続可能な開発に役立つような行動をすべきである。
4. アジェンダ21の実施に当たっては様々な社会・経済・地理・気候・文化・宗教などの事情を尊重しなければならない。
5. 意識向上のため、環境保全についての教育・研修に重点がおかれるべきである。
6. 競技者は環境教育・研修を進める上での貢献が期待され、マスコミもそれを支援していかなければならない。
7. アジェンダ21は同様の目標を掲げている他の全ての政府・非政府組織および国内外組織との緊密な協調を経て実施されるべきである。
8. アジェンダ21の推進・改訂についての責任はIOCにある。オリンピックムーブメントの全てのメンバーや他の関連団体は、その任務を行うスポーツ環境委員会を適切に支援するべきである。
9. IOCスポーツ委員会と国連環境計画は共同の作業委員会を設立し、方針について助言・指導するとともにアジェンダ21の実施を監視するべきである。
10. 共同の作業委員会はアジェンダ21の進捗状況をオリンピックムーブメントのメンバーが出席する会議や今後開催されるスポーツと環境に関する世界会議に提出するべきである。

平成25年度 JOCスポーツ環境専門部会 活動報告書

発行日：平成26年6月20日

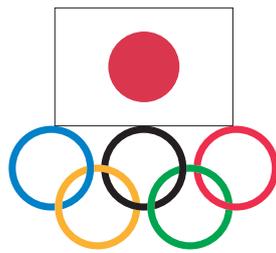
編集・発行：公益財団法人日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門部会
〒150-8050 渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内

URL：<http://www.joc.or.jp/eco/>

印刷：広研印刷株式会社

問い合わせ：公益財団法人日本オリンピック委員会 事業部

TEL：03-3481-2238 FAX：03-3481-2292



公益財団法人日本オリンピック委員会
スポーツ環境専門部会